

高校生の性暴力被害実態調査

委託調査報告書

研究代表

野坂 祐子

(武蔵野大学心理臨床センター)

財団法人 女性のためのアジア平和国民基金

2004 年 3 月発行

財団法人 女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）

※無断転載を禁じます

「高校生の性暴力被害実態調査」研究班メンバー

野坂 祐子（責任者）	武蔵野大学非常勤講師 武蔵野大学心理臨床センター	相談員、臨床心理士
笹川 真紀子	武蔵野大学非常勤講師 武蔵野大学心理臨床センター	相談員
吉田 博美	武蔵野大学非常勤講師 武蔵野大学心理臨床センター	相談員
廣幡 小百合	武蔵野大学非常勤講師 池田病院・精神科医、Ph,D	
木藤 裕子	武蔵野大学心理臨床センター	研究員
角谷 詩織	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助手、Ph,D	
兵藤 智佳	NPOふれいす東京	

目 次

はじめに	2
謝辞	4
I. 研究の背景と目的	5
1. 性暴力とは	6
2. 日本における性暴力被害の実態と被害率	8
3. 性暴力被害調査における質問項目の定義	12
4. 本研究における性暴力被害項目の定義	13
5. 本研究の目的	13
II. 研究の方法	14
1. 調査方法	14
1) 調査地域	14
2) 調査方法	14
3) 調査対象者	14
4) 調査手法	15
5) 調査時期	15
6) 有効回答者	16
7) 調査票の構成	16
2. 性暴力被害調査の実施に関する配慮	18
III. 結果と考察	21
1. 回答者の属性と精神健康	21
1) 学年の内訳	21
2) 性別の内訳	21
3) 精神健康調査票	22

2. 性暴力被害の実態	23
1) 性暴力被害率結果一覧	23
2) 各被害の詳細	26
2-1) 言語的性暴力被害	26
2-2) 視覚的性暴力被害	32
2-3) 強制的身体接触	38
2-4) レイプ未遂	44
2-5) レイプ既遂	50
2-6) 情報ツールによる性暴力被害	56
3. 最も傷ついた被害体験と出来事インパクト	60
4. 自由記述の分析	61
IV. まとめ	70
1. 性暴力被害の被害率	70
2. 性暴力被害の学年差	71
3. 性暴力被害の回数	72
4. 性暴力被害の時期	73
5. 性暴力被害の相手	73
6. 性暴力被害の場所	73
7. 高校生の性暴力被害の実態に関する一考察	74
8. 本研究の意義と限界	76
おわりに ～本研究の可能性～	77
結語（前公立高等学校長 小泉功先生）	78
引用文献	80
付録資料(1) 質問票	81
付録資料(2) 単純集計表	91

高校生の性暴力被害実態調査

報告書

はじめに

本研究は、日本で初めての高校生を対象とした性暴力被害実態調査である。

高校生など若年層の性暴力被害は、近年、事件としてメディアで報道されることも多くなってきた。それに伴い、性暴力被害の増加や潜在化している実数が懸念されながらも、同時に、青少年の性暴力被害はまだ稀有で特別なことであるという認識も少なからずあるように思われる。

しかし、ここ 10 年ほどの間に、女性に対する暴力への問題意識の高まりとともに、女性への暴力の実態調査や臨床研究が蓄積されてきた。そして、暴力のさまざまな形のなかには、性暴力も多く含まれており、それによる心身への影響は深刻であること、さらに幼少期から青年期の間の被害体験を持つ成人が多いことが明らかになってきた。カウンセリングなどの心理臨床的支援の現場においても、性暴力被害の多さと深刻さ、性暴力被害による子どもの相談の増加は、実感を持って認識するところである。

こうして研究と臨床の双方から、若年層の性暴力被害の問題が指摘されつつあるものの、これまで高校生を対象とした包括的な性暴力被害実態調査は行われてこなかった。日本においては、成人を対象とした調査研究もまだ数が少ないが、とりわけ児童・生徒の調査が遅れているのは、学校での調査実施の手続きが確立していないことや、生徒の性や性暴力被害の問題に対する学校・教師の認識に差が大きいことなどが考えられる。

高校生の性暴力被害についての有効な啓発・支援活動を実施するためには、当事者である高校生の実態を適切に把握し、心身の健康への影響など、高校生の具体的ニーズに基づいた方法が求められる。また、教材開発のみならず、高校生の性暴力被害に対する対策の重要性への認識と理解を促すためには、大規模な調査による情報の蓄積が必要である。本調査は、そうしたニーズに基づき、高校生の性暴力被害に関する実証データを収集することを目的に行われた。

本研究班の研究代表は、平成 14 年度、財団法人女性のためのアジア平和国民基金の事業として、中学・高校の女子生徒を対象とする性暴力に関するパンフレット「これって暴力？」の製作に関わった。このパンフレットは、中学生や高校生に身近に起こりうることとして性暴力を取り上げ、性暴力とはなにかを解説し、対応や相談に関する情報提供を目的としたものである。また、性暴力被害の被害者に特有の問題として、周囲の無理解や偏見によりさらに傷つけられる二次被害の問題にも焦点をあてている。このパンフレットは、高校生の性暴力に焦点をあてた初めての情報ツールとして、すでに全国に配布され、様々な形で啓発活動に利用されている。

このパンフレットの製作に携わったメンバーは、製作にあたって、「高校生の実態」に即した内容をパンフレットに盛り込むために、性暴力に関する情報を収集し、専門家のアドバイスを受けた。そして、当事者である高校生の理解と興味を促すために、イラストやテキストも独自なものを採用した。そして、その製作過程で明らかになったのは、日本においては、現在まで高校生の性暴力被害についての実態を把握する調査・研究がほとんど存在していないことであった。

本調査は、こうしたパンフレット製作過程での問題意識が基礎となって実施された背景を持つ。

実施においては、調査への協力校探しが予想以上に難航した。学校での性暴力被害調査の実施について、学校・教員側は慎重な姿勢であった。しかし、研究班は、生徒に起こりうる性暴力被害の実態を知り、生徒の心身の健康に配慮し、安全な学校や社会を築くために、学校は重要な役割を果たすと考えた。そのための第一歩として、学校・教員に調査の目的と意義を説明し、安全な調査実施のための協働を依頼した。

しかし、調査協力の交渉において、非常に多くの学校・教員が性暴力被害調査への参加を拒否したという実態もまた、性暴力や性の問題をとりまく現実の一側面を表しているかもしれない。もちろん、学校内で外部の調査を実施することの難しさもあるだろう。しかし、今回の調査が性暴力被害をテーマにしている点も、大きく影響していたように思われる。もし、学校が性暴力や性の問題をタブー視し、この問題を「ないもの」として否認しようとする限り、生徒が受けている性暴力の実態が明らかにされることはなく、生徒への支援や教育も始まらないと思われる。

一方で、今回初めての調査で、2,346名もの高校生の協力を得ることができたことは、それだけで非常に有益な成果であった。高校生の性暴力被害に関する実態の一端を把握することができたことはもちろん、調査票に記入された真摯な回答やコメントからは、彼女／彼らの性暴力被害に対する真剣な思いが伝わった。被害経験の有無に関わらず、多くの生徒が性暴力に対して怒りや恐れを感じていた。自分や身近な友人の性暴力被害について、心身ともに強いショックを受けている様子もみられた。そして、性暴力がなくなるためにという積極的な姿勢で、本調査に参加してくれた生徒も少なくなかった。研究班もまた、生徒の回答一つひとつに、強くエンパワーされたのである。

高校生の性暴力被害の実態を把握し、性暴力被害が「実際に起きている」ということを示すことは、「現実」を示すために必要なことである。性暴力被害者は被害を口にしにくく、周囲は性暴力を取るに足らないこととみなしがちである。また、性暴力は単に性的なトピックスとして理解され、性的なゴシップとして扱われることも多い。

しかし、性暴力被害が被害者の心身へもたらす影響は、決して小さくない。性暴力被害の実態を明らかにし、その事実を私たち自身、そして学校や社会が受け止めることが、生徒の性暴力被害に対する啓発や支援の第一歩になると考え、本研究を進めてきた。

調査にあたっては、回答する生徒のプライバシーに配慮し、とくに性暴力被害の経験のある生徒が調査を引き金に心身の不調を呈すること等を予測し、できるかぎり生徒が安全に調査に参加できるように留意した。本報告書においても、それら調査実施上の配慮について論じている。

研究班は、今後、高校生の性暴力に関する意識が高まり、その対策において、より有効な啓発・支援方法が開発され、活動が広がっていくことを願っている。本調査によって提供される基礎データが、様々な立場から性暴力被害についての取り組みを実施される方々の一助となれば幸いである。

* 上述のパンフレット「これって暴力？」は、<http://www.awf.or.jp/help/manual/kore.pdf> で、ご覧いただけます。

謝 辞

本研究のために、貴重な回答をお寄せ下さった生徒の皆さんひとりひとりに深く感謝申し上げます。

また、調査の主旨をご理解下さり、実施をお取り計らい下さいました学校と先生方にお礼申し上げます。

ひとつひとつのご意見を大切にして、高校生の性暴力被害に関する問題とその支援を発展させるべく、今後も努めたいと思っています。

今回、調査の参加が適わなかった学校のなかにも、学校内にて、調査の実施に関する検討を重ねて下さったり、何度も調査班との話し合いに応じて下さったところもありました。そうした話し合いのなかで、私たち研究班もまた、本調査のあり方や性暴力被害の問題について考えを深めていくことができました。ありがとうございました。

なお、本研究の実施のうち、とくに協力校の連絡等に関しては、前公立高等学校長 小泉功先生に、多大なご協力を賜りました。さらに、本報告書の作成においては、長く教育現場に関わってこられたお立場から、小泉先生のご見解についてご寄稿頂き、結語として掲載させていただきました。重ねて、お礼申し上げます。

また、データ整理には、武蔵野大学大学院生の澁谷美穂子さんと高木俊祐さんにご協力いただきました。そのほか、研究に関わって下さいました皆様に、感謝申し上げます。

I. 研究の背景と目的

1993年に「女性に対する暴力の撤廃に関する宣言」が国連総会において採択され、1995年には北京における第4回世界女性会議で採択された行動綱領にて、「女性に対する暴力」が重大問題領域の一つに位置づけられた。虐待やドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメントなど、家庭内や会社・学校といった組織内において、女性への暴力が起きているという現実が、ようやく認識されるようになったのである。

女性に対する暴力には、身体的暴力や精神的暴力のほかに、性的暴力も含まれる。それらの暴力は、明確に分けられるものではなく、相互に関連しながら生じている。重要なのは、女性に対する暴力が、性別や立場の違いといったジェンダーにもとづく行為であり、暴力が女性の心身を支配(コントロール)するものだということである。なかでも、性暴力は、性に対する偏見も相まって、長く隠蔽されてきた。しかし、実際には、強制的に身体を触られたり、意に反する性行為を強要する、あるいは避妊をせず中絶を強要するなどの性暴力が存在する。まったく知らない加害者による性暴力とともに、身近な人による性暴力も数多くある。そうした実態が、近年、行われてきた女性に対する暴力の実態調査や臨床研究などから、徐々に報告されている。

しかし、これまで日本で行われた調査研究は、18歳以上の学生と一般女性を対象にしたものがほとんどであり、高校生以下を対象としたものは非常に少ない。また、性暴力に関する包括的な実態調査となると、皆無である。さらに、男子・男性の性暴力被害体験は、十分に把握されていない。

だが、すでに行われた成人を対象にした研究からは、18歳未満での性暴力被害体験が回顧的に回答されている。また、臨床的な見地からも、性暴力被害が子どもの発達や健康に多大な影響を及ぼすことがすでに指摘されている。

よって、本研究では、高校生男女の性暴力被害の実態を明らかにすることを目的とする。

まず、性暴力被害の特徴を述べ、現在までに報告されている性暴力被害数(率)をまとめる。

1. 性暴力とは

性暴力には、強制的な身体接触やレイプだけではなく、被害者の意に反する性的ないやがらせや強要が含まれる。そのため、直接、身体に接触することがなくとも、身体や性に関する不快な内容を言うことも、言語的な性暴力ととらえることができる。また、望まない性的な情報(画像や書籍)を見せたり、あるいは一方的に裸や性器を露出して見せることも、視覚的な性暴力である。いずれも、加害者からの一方的かつ強制的な行為である。

一般の暴力行為に比べ、性暴力はジェンダーにまつわる偏見や認識が強く、それが暴力・犯罪であることが認められにくい。性暴力が軽視されたり、見過ごされがちであるという特徴について、以下に具体的に述べていこう。

たとえば、電車内での痴漢行為は、被害を受けた人は非常に不快に感じているにもかかわらず、「大したことではない」「減るものでもない」などと周囲が問題を矮小化することがある。レイプ被害に遭っても、「夜遅くに歩いていたから(被害者のほうが)悪い」「身体露出の高い服装をしていたら、レイプを誘うようなもの」などと、被害者の行動や服装が原因であったかのように言われたり、「本気で抵抗しなかったから、レイプされたのではないかと、被害者の抵抗のしかたや真意が問われることがある。一方で、男性の加害者については、「レイプするくらいのほうが元気があってよい」などと、暴力である行為が力強く男らしいと解釈され、合理化されることもある。このように、性暴力は些末な問題として、正しく理解されなかったり、加害者ではなく被害者が悪いかのように誤解されがちである。こうした誤解は、女性に貞淑さを求め、男性の性的な強引さを許容するジェンダーにまつわる偏見といえる。

また、性暴力はあくまで暴力であり、犯罪行為であるにもかかわらず、一般の性行為の延長と捉えられている面もある。加害者の暴力について、「性欲は男性の生理だから仕方がない」と生理現象として理由づけるのは、その一例であろう。また、被害女性について「最初は(レイプを)嫌がっても、次第に(セックスとして)楽しむようになる」というような作られたストーリーを、鵜呑みにした認識も存在する。被害者と加害者が親密な関係であればなおさら、加害者の行為は「好きだからセックスを求めるのは当然」とみなされ、それが暴力的・強制的な行為であったかどうかは問われない。また、被害者にとって、その行為が意に反するものだったとしても、「愛しているのになぜ不快に思うのか」「愛しているなら、相手に従うべきだ」というジェンダー規範を押しつけられる。そのため、親密な関係における性暴力被害は、顕在化されにくい傾向がある。

ほかにも、性暴力、ひいては女性のセックスそのものを「体が汚れる^{けが}」ととらえる価値観は、性暴力にスティグマ(社会的偏見)を付与するものである。性暴力被害者は、被害後の心理的反応として「自分が悪かったのかもしれない」という自責感や羞恥心を持つ場合が多く、「汚れ」というスティグマが、さらに被害者の心理的不安を高めることになりやすい。また、スティグマを恐れ、被害者本人やその家族が被害を開示できないことがよくある。そのため、被害後に必要な医療的処置を受けたり、警察へ被害届けを出すのをためらう場合も、少なくない。

こうした性暴力被害者へのさまざまな無理解や誤解は、被害後も再度、被害者を傷つけるという意味で二次被害といわれる。二次被害は、被害者をとりまく、あらゆる人から向けられることがある。警察や司法関係者などの対応、マスメディアの報道、また近所や親戚などで話される噂話なども、被害者にとっては二次被害として苦痛に感じる場合がある。さらに、被害者の家族や友人、パートナーなどの言動も、時にそれが善意にもとづくものであったとしても、被害者にとっては「理解してもらえない」「自分のほうが悪かったから被害にあったのかもしれない」などの気持ちを強めることがある。

性暴力は、被害者に不快感や嫌悪感をもたらすだけではなく、人によってはストレス障害を生じさせることもあり、心身にとっても深刻な問題である。他者への不信感や恐怖感、外出時の不安など、人間関係や生活に支障をきたす例も少なくない。そのため、被害後は適切な医療的処置や心理的支援を要するが、専門機関を含む周囲の無理解といった二次被害や、性暴力被害へのスティグマから、受診や相談に出向くことが難しい。こうした状況もあって、性暴力被害に関して、警察や支援機関などに通報・相談されるものは氷山の一角にすぎないと考えられる。

このように、潜在数の多さが推測される性暴力であるが、その被害の実態はどのように報告されているのだろうか。次に、日本における性暴力被害の数についてまとめる。

2. 日本における性暴力被害の実態と被害率

日本における性暴力被害がどれくらいあるのかを知る手がかりとして、まず公的報告をみてみる。平成 14 年版青少年白書によると、平成 13 年度の強姦(レイプ)被害は、以下のように報告されている(表 1-1)。

2,228 名の被害者のうち、小学生から高校生までの「少年」は、半数近くの 1,049 名を占めている。とくに、高校生の被害は、成人の被害の 3 分の1以上の数に上っている。

表 1-1. 強姦被害件数 (平成 13 年度)

単位：人数

少年			成人	被害者数 総計(名)
小学生	中学生	高校生		
5 0	1 4 5	4 4 5	1, 1 7 9	2, 2 2 8
1, 0 4 9				

(平成 14 年版青少年白書より作成)

また、強制わいせつ(同年度)は、少年 5,849 名、成人 3,477 名の計 9,336 名が報告されている(表 1-2)。

少年被害者のうち、高校生の被害は 2,167 名と最も多い。また、成人も含め、全被害者の男女内訳は、女子 9,044 名、男子 282 名である。

表 1-2. 強制わいせつ (平成 13 年度)

単位：人数

少年				成人	被害者数 総計(名)
未就学者	小学生	中学生	高校生		
1 7 1	1, 7 3 6	9 1 6	2, 1 6 7	3, 4 7 7	9, 3 3 6
5, 8 4 9					

(平成 14 年版青少年白書より作成)

犯罪白書(法務総合研究所)によれば、強姦は平成9年度以降、認知件数が増加しており、強制わいせつも女子被害者の数が急増している。強制わいせつは、平成 10 年からの3年間で、2倍以上の上昇を示す。警察庁の統計では、強姦は年間約1, 500件程度で推移している。

また、認知された被害における被疑者(注:加害者のこと)は、多くが被害者と面識のない者である。強姦の 66.7%、強制わいせつの 85.8%が、被害者と面識のない者による加害である。

このような犯罪統計には、司法当局に認知された犯罪だけが計上されるため、警察に通報されなかったり、事件として認知されなかった被害は、このなかには含まれない。おそらく報告に上らない暗数があると考えられるが、日本では司法当局による統計手法を用いた全国的な犯罪被害調査は行われていない。

一方、民間・研究者が行っている性暴力被害調査も、少数ながら存在し、性暴力被害の実態を知るための貴重な資料となっている。これらの調査では、警察に通報されていない被害など、潜在化している被害の実態を明らかにし、それらの被害の動向や被害経験が及ぼしうるさまざまな影響を検証している。

主な研究とその結果概要を示したものが、表1-3である。表1-3では、それぞれの研究の対象者と対象者数、サンプリング方法を記載し、各研究が調査票でとりあげた質問項目とそれへの回答結果(%)をまとめた。質問項目は、研究により若干表現が異なるが、同類のものをまとめた。さらに、研究のなかで、精神健康調査票(General Health Questionnaire : GHQ)や改訂版出来事インパクト尺度(Impact of Event Scale-Revised : IES-R)、自記式抑うつ尺度(Self-Rating Depression Scale : SDS)、PTSD 臨床診断面接尺度(CAPS)などの精神健康に関する尺度を使用したものについては、その結果の概要も記載した。

これらの研究では、大学生以上の成人女性を対象にしたものが多い。また、それぞれの研究において、サンプリングの仕方や質問項目の記述が異なるため、一概に比較できないが、従来の結果からは次のような結果が見出されている。被害率および性暴力被害による心身への影響は、深刻であることが伺える。

- 何らかの性暴力被害にあった女性は、48%(石井, 2002)もの割合に上るほか、多くの調査は、言語的な性暴力被害が約3割から4割弱、性器露出による視覚的被害と強制的身体接触は4割から7割程度の被害率を示している。
- レイプ既遂の生涯被害率は5.2%(性暴力被害研究会, 1996)、また笹川(1996)の一般成人女性のレイプ被害率は6.4%、小西(1999)が行った東京都の一般女性(層化無作為抽出法)では8.3%と、いずれも15名に1人以上、12人に1人以上という被害率を示している。
- 一般成人女性を対象に、子ども時代の被害経験を訊ねた回顧的データによると、子ども時代の性暴力被害も少なくないことが示唆されている(小西, 1999)。被害時期として、高校時および中学以下の年齢での被害が、それぞれ3割ずつを示す調査もある(石川, 1992)。
- 児童生徒への性暴力被害調査はわずかながら存在するが(性教育協会編, 2000; 東京都性教育研究会, 2002)、具体的な性暴力の被害内容を訊ねていないため、子どもの性暴力被害の状況は明らかにされていない。
- 海外の性暴力被害研究に準じ、被害後の精神健康への影響(GHQ, IES-R)を測定する調査もある。性暴力被害により、PTSD や抑うつ症状などのストレス反応を示す被害者も、少なくない(小西, 1999; 廣幡, 2002; 石井, 2002; 稲本, 2002)。

表1-3. 先行研究における性暴力被害率比較 (%)

研究者(研究代表者) (年度)	JASE (1994)	石川 (1995)	性暴力被害研究会 (1996)	小西 (1996) 大学生 (n=430) 東京都	笹川 (1998) 一般成人女性 (n=666) 5都道府県	中嶋 (1998) 女子大生 (n=490) 男子大生 (n=256) 沖縄県
対象者						
サンプリング方法						
言語的性暴力				○	○	○
言葉による性的嫌らせを受けた				30.4 男13.3:女34.5	31.4	29.2 12.5
身体的性暴力	○	○	○	○	○	○
視覚的被害	○	○	×	○	○	○ ○
性器を見せられた	—	—	—	35.5 男2.4:女43.6	37.2	54.3 10.2
男性性器の露出、押しつけ	—	35.8	—	—	—	— —
相手のよだかや性器などを見せられた	36.5	—	—	—	—	— —
身体的接触を伴う性的被害	○	○	×	○	○	○
むりやりお尻、胸、背中など体を触られた	—	53.2	—	53.4 男9.6:女64.0	48.6	47.1 7.4
電車の中などで、体を触られた	41.2	—	—	—	—	— —
性器を触られたことはあるか	—	—	—	—	—	10.0 7.0
無理やりすりよられたり、寄りかかれた	—	—	—	40.5 男10.8:女47.7	58.4	— —
抱きつかれたことはあるか	—	—	—	17.2 男2.4:女20.8	—	16.7 8.6
キスされたことはあるか	—	—	—	10.8 男4.8:女12.3	—	12.2 3.9
レイプ被害	○	○	○	○	○	○
無理やりのしかかられたり、 服をぬがされそうになった。 性交されそうになった	—	—	—	9.6 男0.0:女12.0	9.0	— —
性交されそうになった	—	6.1	—	—	—	11.4 2.0
むりやりに性的な行為をさせられた 強姦/レイプされそうになった	7.2 —	— —	— 9.3	— —	— —	— —
意に反して性交された	—	—	—	1.4 男0.0:女1.8	6.9	— —
性交された	—	1.7	—	—	—	3.9 0.8
強姦/レイプされた	—	—	5.2	—	—	— —
子どものときに性的暴力を受けた	—	—	—	17.2 男0.0:女21.3	—	— —
自慰の強要	—	—	—	1.9 男1.2:女2.0	—	— —
同性愛の強要(同性からの性行為の強要)	—	—	—	2.1 男4.8:女1.5	—	— —
測度	×	×	×	×	×	×
GHQ	—	—	—	—	—	—
IES-R	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—

小西(吉) (1999) 女子大生(n=801) 男子大生(n=271) 沖縄県		小西 (1999) 一般成人女性 (n=459) 東京都 層化無作為抽出	安藤 (2000) 一般成人女性 (n=457) 東京都 層化無作為抽出	廣幡 (2002) 性暴力被害者 (n=46) 6臨床機関	石井 (2002) 女子大生 (n=321) 東京都	稲本 (2002) 一般成人女性 (n=495) 東京都 多段層化抽出
○		○	○	×	何らかの被害	
29.3	4.8	38.6 (19歳まで9.4)	38.5	—	48	
○		○	○		軽度被害	
○		—	—	×	重度被害	
—	—	56.9 (19歳まで27.5)	—	—	17.1	
43.6	7.4	—	56.9	—		
—	—	—	—	—		
○		○	○		30.8	
36.0	3.3	69.9 (19歳まで29.6)	69.8			
—	—	—	—			
7.4	3.3	21.6 (19歳まで14.6)	21.4			
—	—	—	—			
14.0	4.4	28.8 (19歳まで10.5)	28.7			
11.4	4.8	18.1 (19歳まで6.3)	18.2			
○		○	—		暴力やその脅しかつ 挿入を伴ったレイプ (アルコール/薬物による 酩酊下での挿入も 含めたレイプ)	
—	—	—	—			
—	—	14.4 (19歳まで4.6)	—		3.2(4.0)	
—	—	—	—			
8.1	1.1	—	14.2			
—	—	8.3 (19歳まで1.7)	—			
—	—	—	—	PTSD群68.8 非PTSD群28.6		
3.2	0.4	—	8.3			
—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—
2.0	1.1	—	—	—	—	—
○		○	○	○		
GHQ-30 未掲載		GHQ-12(n=443) 14.4(SD6.28)	—			
未掲載		IES-R(n=159) 14.7(SD14.1)	—	PTSD群(n=32): 42.3(SD17.6) 非PTSD群(n=14): 22.9(SD16.3)	重度被害群23.8(SD17.3) 軽度被害群13.2(SD14.4)	被害群(n=224)、 LR(71.4):HR(28.6) 非被害群(n=59)、 Lr(83.0):HR(17.0)
—			—	SDS(PTSD群) 56.5(SD9.4) 51点以上:75.0(n=24)		
自尊心尺度 未掲載			—	CAPS総得点(PTSD群) 81.5(SD20.2)		

3. 性暴力被害調査における質問項目の定義

米国では犯罪統計だけではなく、司法局による全国犯罪被害調査 NCVS (National Crime Victimization Survey) が実施されている。1973 年以来毎年行われている NCVS では、全米から無作為抽出した 12 歳以上の 94,000 人を対象に、性犯罪、侵入盗、暴力被害などの被害体験を個人に面接して行っている。NCVS の結果をもとに、女性への暴力犯罪をまとめた報告書 Violence Against Women によれば、レイプおよび性暴力 (sexual assault) 被害は、全米で毎年約 500,000 件と推定されている。また、NCVS の調査手法を用いた被害調査が年単位でも行われており、全国のみならず地域レベルでも調査手法が根づいている。

NCVS は 1992 年に大幅に改訂された。改訂の目的の一つは、加害者が被害者と親しい間柄の者や家族であるようなレイプを把握し、性暴力犯罪の実情をより正確に知ることであった。また、レイプ以外の性暴力被害はそれまで調査されておらず、この改訂で、レイプから言葉による性的な嫌がらせまで、より幅広い情報が得られるようになった。たとえば、加害者がレイプしようとしたかどうか動機が不明であるような性的な攻撃についても、NCVS では性暴力を受けたと分類される。また、加害者についての選択肢に「知人」や「親しい間柄の者」が入れられた。質問項目には、司法関係の用語に代わって、特定の具体的な行為が示され、回答者にとってより理解しやすいものになった。

NCVS の改訂の結果、加害者と被害者が面識がある場合の割合を見ると、面識のある加害者の割合は、改定後は改訂前の 2 倍となった。

この改訂版では、以下の定義を用いて性犯罪の被害経験を尋ねている。

➤ 性暴力 (sexual assault)

レイプ既遂または未遂を除く、幅広い被害。被害者の望まない性的接触を伴う攻撃や、攻撃未遂など。

被害者の体をつかんだり、なでるといった暴力的行為があったかどうかは問わず、言葉による脅しも性暴力に含まれる。

➤ レイプ (rape)

身体的、または心理的に強制された性交。性交とは膣、肛門、口腔への加害者による挿入を意味する。性器の挿入だけではなく、物を用いた挿入も含まれる。

日本におけるレイプ(強姦)の定義は、刑法上は「13歳以上の女子を暴行、脅迫を用いて姦淫したもの」(177 条前段)であり、ここでいう「暴行」「脅迫」は、被害者の意思を抑圧するに足りうるもの、と解釈される。NCVS の定義では、被害者の「年齢」や「性別」は問わず、「脅迫」の程度も規定されていない。また、日本の刑法によるレイプは「姦淫」、つまり性器の膣への挿入に限られるが、NCVS の定義では、膣への挿入だけではなく、他の部位への挿入や、性器以外の物の挿入も含む。性別も限られないため、同性による強制や女性加害者による行為も、すべて性暴力やレイプに該当する。

4. 本研究における性暴力被害項目の定義

日本において行われている性暴力被害調査でも、刑法上の定義によらず、前述 NCVS による性暴力、レイプの定義に則って、性暴力被害を捉えている(小西,1996,1999 ; 笹川,1998 等)。

本研究においても、それらに則り、「本人の意に反する(「無理やり」)性的言動」を広く性暴力被害と捉えるものとする。また、加害者も家族や恋人、友人など親密な関係のものも含んだ。

5. 本研究の目的

本研究では、高校生男女の性暴力被害の実態を明らかにするため、性暴力被害体験の有無とその状況を把握することを目的とする。

高校生の安全と健康にとって重大な問題として、性暴力被害を取り上げ、その実態を明らかにし、有益な支援・啓発活動に役立てることをめざすものである。

Ⅱ．研究の方法

1．調査方法

調査地域	： 東京都および九州地域
調査方法	： 無記名・自記式質問紙調査
調査対象者	： 高校生 2,346 名 （女子 1,463 名・男子 883 名）
調査手法	： 機縁法による対象校選定。教室での一斉配布。各自封入後、回収。
実施時期	： 2003 年 11 月 6 日から同年 12 月 18 日
有効回答者	： 回収率 44.2% (2386／5310 部)、有効回答率 98.3% (2346／2386)。

1) 調査地域

東京都の高校を中心に、調査協力を依頼・交渉した。また、一部、九州地域の高校も対象とした。

2) 調査方法

無記名・自記式の質問紙調査とした。

3) 調査対象者

東京都内の高等学校、および九州地域の高等学校の全 12 校の対象校とした。
分析対象者は、高校生男女 2,346 名である(女子 1,463 名、男子 883 名)。
学校別、性別、学年別の対象者数内訳は、表 2-1 の通りである。

表 2-1. 調査対象者 学校・性別・学年別内訳

		女性			男子			
学校		1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年	合計
東京 都	a		101			102		203
	b	38	40	24	38	34	50	224
	c	43	41	42	36	38	34	234
	d	90	28	39	22	8		187
	e		77			95		172
	f	60	56	62	32	26	16	252
	g	56	62		61	57		236
	h	51	67		63	44		225
	I	61		58	38		33	190
九州	j		37			36	7	80
	k	28		27	11		2	68
	l	275						275
合計		702	509	252	301	440	142	2346

4) 調査手法

調査班の知人やその紹介を通じて（機縁法）、調査依頼書を配布した。しかし、この時点で 20 校以上の学校に協力拒否をされた。理由として、学校での一斉配布という方法が困難であるというほか、性暴力被害および性をテーマとしている点への抵抗感が挙げられた。

その後、調査協力の承諾を得られた 22 校のうち、10 校は調査不可となった。その理由について、「管理職の了解が得られない」「性に関する調査は、本校の生徒には厳しいと思われる。性暴力被害について担任に知られたくないなど、生徒の立場を考えると実施できない」等の説明を受けた。

調査計画では、調査班員が学校・学級に赴き、生徒への説明後に配布・回収を行うことにしていたが、対象校の意向により、教員による配布・回収とした。配布時には、調査票とともにシール付封筒を一部ずつ渡し、生徒は記入後、各自、封入のうえ提出することとした。

5) 実施時期

実施依頼期間は、2003 年 11 月から同年 12 月末日までとし、教員の担当する教科あるいはホームルームの時間に実施された。実施期間は、2003 年 11 月 6 日から同年 12 月 18 日であった。

6) 有効回答者

調査への同意が得られた学校へ 270 部ずつ送付し（学校により若干調整）、そのうち可能な部数のみの実施を依頼した。

送付部数は、計 5,310 部であり、そのうち返送された部数が 2,386 部であった（回収率 44.2%）。

また、返送された 2,386 部のうち、有効回答票は 2,346 部であり（有効回答率 98.3%）、この有効回答票を分析対象とした。

7) 調査票の構成

調査票は、大学生および一般女性を対象とした性暴力被害実態調査(小西ら, 1996;1999, 笹川ら, 1998)を参照し、作成した。調査票の構成は、以下の 5 部からなる。

- ① 属性（性別、学年）
- ② 精神健康調査票 12 項目版（General Health Questionnaire : GHQ12）
- ③ 性暴力被害実態調査項目
- ④ 改訂出来事インパクト尺度（Impact of Event Scale - Revised : IES-R）
- ⑤ 自由記述欄

③の性暴力被害実態に関する質問では、以下の6種類の性暴力被害をとりあげた。それぞれについての、質問項目の記述も併記する。

(1) 言語的性暴力被害; verbal harassment

言葉による性的暴力。身体や容姿に関する内容の言語的攻撃を指す。

Q1 「あなたの体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたことがありますか。」

(2) 視覚的被害; exhibition

一方的な身体・性器露出による視覚的攻撃を指す。

Q2 「相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか。」

(3) 身体接触を伴う性暴力被害; sexual molestation

強制的な身体接触。痴漢行為や身体を触る行為全般を指す。

Q3 「無理やり、体を触られたり、抱きつかれたりしたことがありますか。」

(4) レイプ未遂; attempted rape

意に反する性交を強要されそうになることを指す。

Q4 「無理やり、セックスをされそうになったことはありますか。」

(5)レイプ;rape

意に反する性交を強要されることを指す。

Q5「無理やり、セックスをされたことがありますか。」

(6)情報ツールによる性暴力被害

携帯電話やインターネットなどの情報ツールやその内容により、性的に不快な情報を送られたり、個人の情報が流通することで不利益をこうむること。また、情報ツール使用を発端とする性暴力被害全般を指す。

Q6「携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで性的にいやな体験をしたことがありますか。」

上記に挙げた本調査の質問項目では、質問文による教示のほかは、具体的な被害内容の定義はしていない。対象者の主観的体験と認識にもとづく回答を得ることとした。

Q6 の情報ツールによる性暴力被害は、本調査で初めて取り入れた項目である。携帯電話やインターネット等の情報ツールの普及に伴い、それらを媒介とした被害が報告されつつある。今回は、情報ツールによる性的な被害の実態を把握するために、自由記述にて回答を得ることとした。

2. 性暴力被害調査の実施に関する配慮

本調査では、個人の性暴力被害体験を、調査という手法で尋ねるにあたり、回答者の心身の苦痛に十分に配慮し、安全に調査が実施されるように努めた。調査の計画および実施に関しては、調査手法および対象者に対する倫理的配慮を重視した。

前述したように、日本では性暴力被害に関する調査はまだ数少ない。NCVS が「被害経験そのものが被害者にとってスティグマ(社会的偏見)であり、(被害者は)それを他人に知らせることでプライバシーが侵害されることを恐れている」と指摘しているように、日本においてもそうした文化・社会認識や、被害者の心理に関する問題を抱えることになる。

また、被害経験を尋ねること自体が苦痛な記憶を喚起する恐れがある。その点にも十分な配慮を要する。そうした倫理上の問題を十分に考慮しなければならないが、被害調査によって、潜在化している日本の高校生の性暴力被害の実態に関する、包括的な情報を得ることができると考える。

以下に、本研究で配慮・検討した倫理的側面についてまとめる。

➤ 二次被害の防止

性暴力被害調査では、回答者のプライバシーを守り、回答に伴う心身へのダメージをできるかぎり防ぐことが、重要な課題となる。それらが不十分であると、回答者に二次的な精神的ダメージ(二次被害)を与えることになりかねない。性暴力被害には社会的偏見(スティグマ)が伴いがちであり、回答者への配慮と守秘義務が必要である。性暴力被害経験のある対象者に限らず、すべての対象者の個人情報と同じように慎重に扱うことが、安全な調査実施のための要件である。

➤ 機縁法の選定

本調査のサンプリングでは、機縁法を採用した。高校生一般の実態を把握するためには、住民票などを用いた無作為抽出法(ランダムサンプリング)が適するが、今回は、高校生個人に調査票を送付する方法は控えた。高校生を対象とした包括的な調査は、前例がなかったため、被害実態のみならず、調査に対する生徒の反応も予測がつかないためである。生徒の反応に対処するために、教室での集団実施とした。

今回、学校側の意向で実施に至らなかったが、計画では調査員2名が教室に立合い、回答を記入する過程で、生徒が質問項目に影響を受け、具合が悪くなったり、不安定になった場合には、速やかに対処することを目指していた。また、調査班としては、適宜、学校側と連携しつつ調査を進めることを望んでいた。

➤ プライバシーの保護

回答は無記名とし、配布したシール付封筒に封入のうえ提出するものとし、回収にあたった教員の目に記入内容が触れないようにした。協力校名も明らかにしないものとした。

また、データ分析後は記入用紙を破棄することとした。

➤ インフォームド・コンセント

これらの倫理上の配慮は、プライバシーの尊重の点だけでなく、対象者のインフォームド・コンセントを得るうえでも重要なことである。教員の了解を得たうえでの調査実施であるものの、生徒にとっては突然の調査になりかねない。生徒の疑問や不安を解消したうえで調査を実施すること、さらに、生徒からの質問に応じ、理解を共有したうえで調査を実施することが大切だと思われる。

今回は、質問票の表紙に、調査説明を記載し、「どうしても答えにくいものは、無理に答えなくてもけっこうです」と回答への強制はせずに、可能な範囲での協力を呼びかけた。

➤ フォローアップ

性暴力被害調査への記入において心身が不安定になった生徒や、性暴力被害が「社会的問題」であることを知り、サポートや情報を求めてきた生徒に対しては、速やかな対応や情報提供ができることが望ましい。

本調査の研究班のメンバーには、性暴力被害に対する心理臨床的支援に携わる者もいるが、今回はあえて調査とカウンセリング等の支援を分離させることにした。その理由として、調査班のキャパシティとして、十分な心理的支援を提供できないことと、一般的に長期的で専門的な関わりを要する性暴力被害への支援においては、より適切な機関を紹介するほうがよいと考えたためである。

事後のフォローアップとして、高校生向けの性暴力被害の解説と相談機関一覧が掲載されているパンフレット「これって暴力？」(女性のためのアジア平和国民基金制作)を教員および養護教諭に送付した。

➤ 教師との連携

調査実施における生徒の様子や問題を把握するため、協力教員へは実施状況についての自由記述を求め、調査票とともに返送を依頼した。その報告からは、大きな混乱や問題は生じなかったようであった。報告には、調査票の不備に関する指摘のほか、「テスト前(後)による心理的不安定さが影響しているかもしれない」等の懸念があげられた。また、調査事後に、保護者から調査内容の問い合わせが1件あったことが報告された。研究班より教員宛に調査に関する説明書を送付し、教員から保護者へ対応して頂いた。

➤ 倫理上の配慮における課題

倫理上の配慮においては、プライバシーとインフォームド・コンセントに関する課題がある。

今回、生徒の反応を把握するために選択した教室での一斉実施は、席の周辺の生徒から確実にプライバシーを守ることが困難である。個別ブースや、席を離れた十分な空間を確保することは、現在の学校環境では難しい。記入内容が見えなくとも、記入時の様子を見られることに不安を感じる生徒もあるかもしれない。そのため、記入時の環境についても検討することが必要であろう。

また、インフォームド・コンセント、つまり十分な説明をし、同意にもとづいて調査への参加を決める手続きが求められる。とくに、学校において教員から質問票を配布される場合、生徒は調査拒否をしにくいという物理的・心理的状況に置かれやすい。調査の説明においては、調査への参加はあくまで自発的なものであること、そして説明後の退席も可能であることを伝える。そのためには、授業時間外での実施が適している。こうしたインフォームド・コンセントの手続きを踏む場合、調査に積極的に協力した生徒のみが対象者になるというサンプリングのバイアスが生じるが、生徒の参加拒否の権利を守る必要がある。

こうした倫理上の配慮を実行していくためには、研究者側の工夫や努力だけではなく、学校側との協力体制の構築が求められる。また、対象者との協働作業としての「研究」という意識を、調査者と回答者の双方が持つことが大切になる。そうした取り組みが可能になれば、それ自体が性暴力被害の問題への対応や解決の糸口として有益なものとなるに違いない。学校現場との連携・協働が、倫理上のみならず研究上の大きな課題といえる。

Ⅲ. 結果と考察

1. 回答者の属性と精神健康

学年の内訳： 1年生 1,003名、2年生 949名、3年生 394名
男女の内訳： 女子 1,424名、男子 922名（計 2,346名）
精神健康調査票 結果： 平均得点 4.65点（N=2337）

1) 学年の内訳

学年の内訳は、1年生 1,003名、2年生 949名、3年生 394名である（図 3-1-1）。
学年と性別の内訳は、図 3-1-2 に示す。

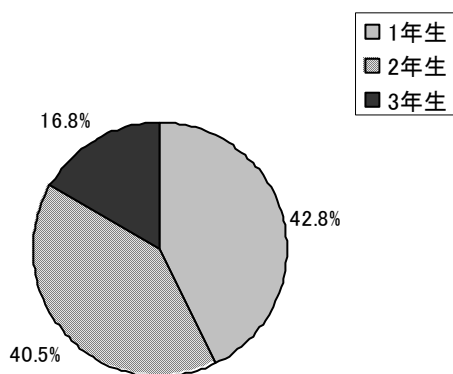


図3-1-1. 学年

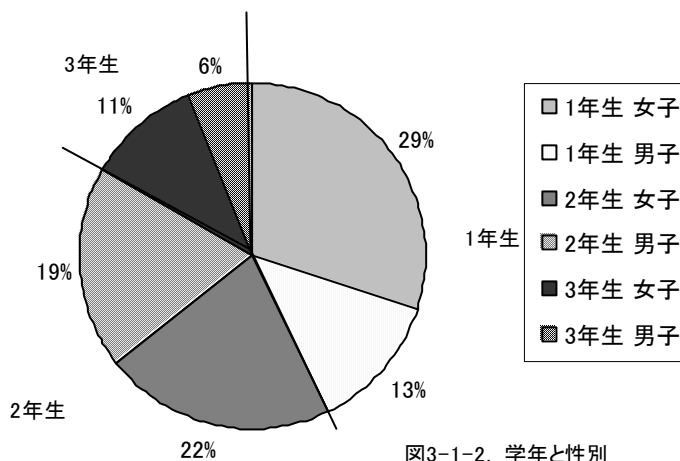


図3-1-2. 学年と性別

2) 性別の内訳

性別の内訳は、女子 1,424名、男子 922名である（図 3-2）。
女子と男子は、およそ6:4の割合である。

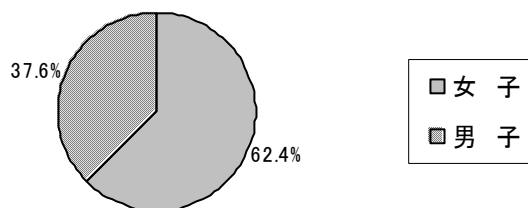


図3-2. 性別

3) 精神健康調査票

対象群の精神健康度を測定するために、精神健康調査票 12 項目版 (General Health Questionnaire : GHQ12) を用いた。

その結果、GHQ-12 の平均得点 (男女合計) は、4.65 点であった。
得点分布は図の通りである (図 3-3)。

GHQ-12 のカットオフポイントは、4 点以上が奨励されている (本田, 2001)^{※1}。つまり、GHQ-12 の得点が 4 点以上を示す場合、何らかの精神健康のスクリーニングとなりうる。

ただし、4 点以上のすべてが精神健康に問題を生じていると断定できるものではなく、あくまでスクリーニング後の詳細な確認が必要である。また、ここでいう精神健康は、いわゆる精神疾患と同義ではなく、メンタルな側面の一般健康度を意味する。

青年を対象にした場合、GHQ 得点は成人よりも高く、精神健康度は通常、悪い結果を示す傾向があると指摘されている^{※2}。

そのため、本調査の対象群も、GHQ 得点は成人よりも高く、精神健康度がやや悪いという結果を示しながらも、発達的な傾向に沿った結果を示していると考えられる。

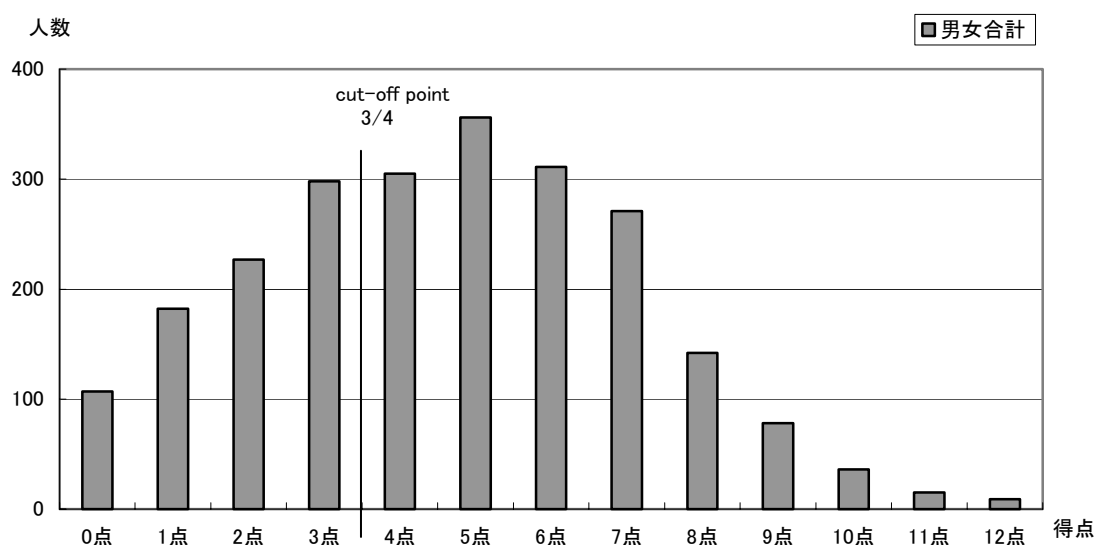


図3-3. GHQ得点分布 (N=2337)

※1 本田らの研究では、内科外来を受診した 336 例を対象に GHQ-12 を実施したところ、精神医学的障害のスクリーニングに用いる場合のカットオフポイントは、3/4 が最適であると報告されている。

※2 総得点からの判定区分については、対象者の移住地、年齢、性別、基礎疾患、調査施行場面など様々な要因によって変わる可能性があり、調査ごとに検討されることが望ましいと考えられている。(「精神科臨床評価マニュアルー質問紙, 評価尺度, 面接基準」: 臨床精神医学1999年12月増刊号より)

2. 性暴力被害の実態

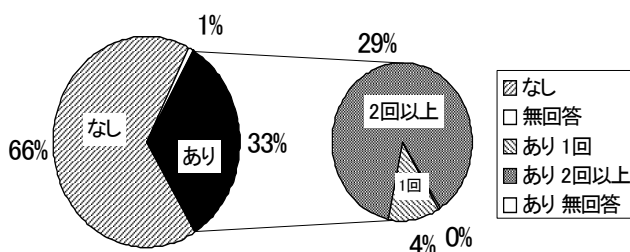
1) 性暴力被害率結果一覧

性暴力被害 男女別被害率一覧

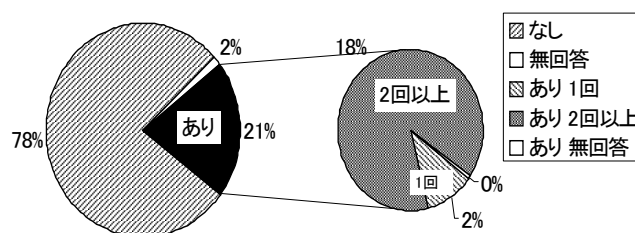
～各調査項目における被害率と被害回数～

言語的性暴力被害

Q1. あなたの体について、からかわれたり
いやらしいことを言われたことがありますか
＜女子＞

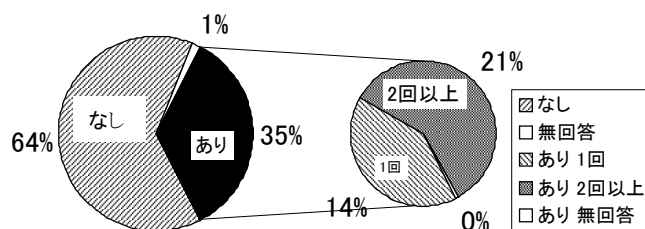


Q1. あなたの体について、からかわれたり
いやらしいことを言われたことがありますか
＜男子＞

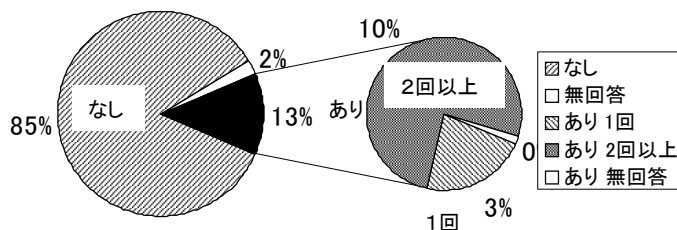


視覚的性暴力被害

Q2. 相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか
＜女子＞

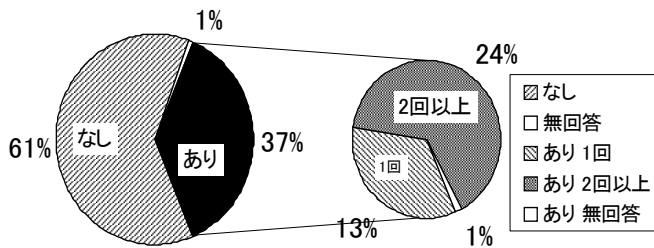


Q2. 相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか
＜男子＞

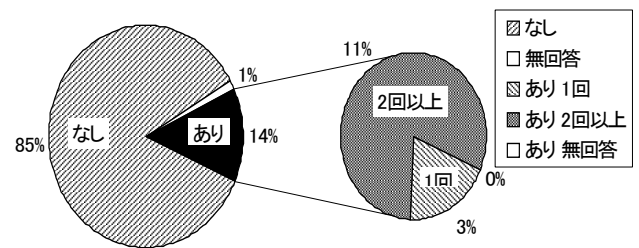


強制的身体接触

Q3. 無理やり、体を触られたり、
抱きつかれたことがありますか
＜女子＞

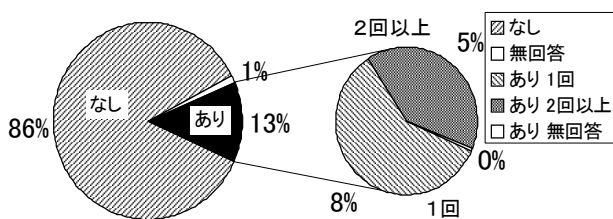


Q3. 無理やり、体を触られたり、
抱きつかれたことがありますか
＜男子＞

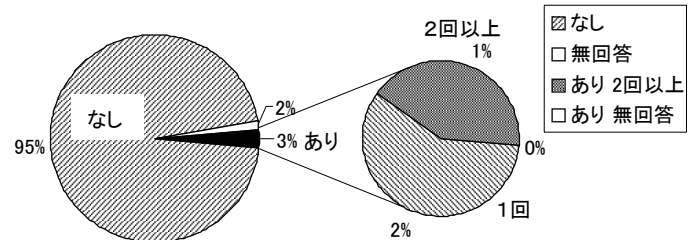


レイプ未遂

Q4. 無理やり、セックスをされそうになったことがありますか
＜女子＞

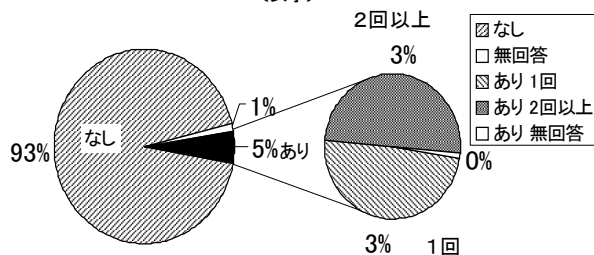


Q4. 無理やり、セックスをされそうになったことがありますか
＜男子＞

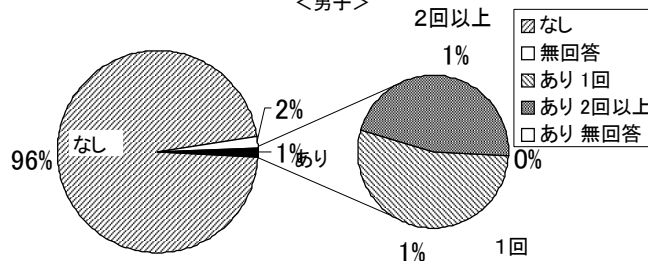


レイプ既遂

Q5. 無理やり、セックスをされたことがありますか
＜女子＞

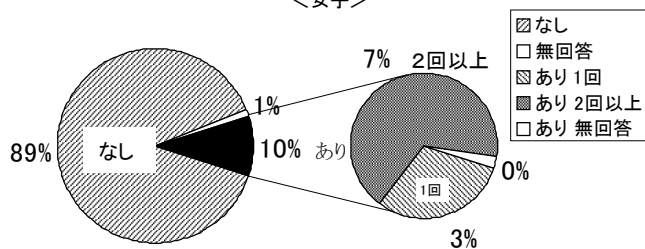


Q5. 無理やり、セックスをされたことがありますか
＜男子＞

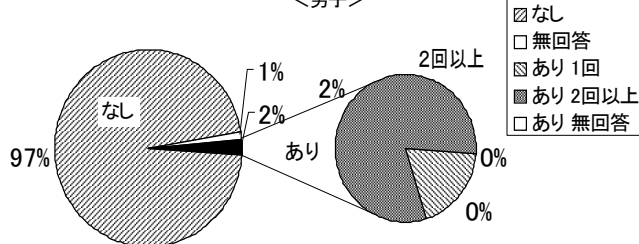


情報ツールによる性暴力被害

Q6. 携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで
性的にいやな体験をしたことがありますか
＜女子＞



Q6. 携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで
性的にいやな体験をしたことがありますか
＜男子＞



2) 各被害の詳細

1. 言語的性暴力被害

問4－Q1.あなたの体について、からかわれたり、
いやらしいことを言われたことがありますか

<結果概要>

- 男女別 被害率 : **女子 33.0%、男子 20.7%**
- 女子被害率 (N=1483) : 33% (1年生)、26% (2年生)、27% (3年生)
- 男子被害率 (N= 883) : 17% (1年生)、21% (2年生)、30% (3年生)
- 女子は、学年に関わらず約3割、男子は学年が上がるにつれ増加。
3年生では、女子と同じく、約3割が「言われた」経験がある。
- 「言われた」回数は、男女とも8～9割が「2回以上」。
一度きりではなく、何度か言われたことがある者がほとんどである。
- 「言われた」時期は、男女とも「中学のとき」がもっとも多い。
「高校生になってから」も、約3割～6割が言われた経験を持つ。
- 「言われた」相手は、男女とも「友だち」が最も多い。
しかし、次いで、女子は「知らない人」、男子は「家族」から。
体や性に関する言葉かけは、友だちから向けられることが多いが、
女子は、男子より知らない人から性的な事柄を言われる経験が多い。
- 「言われた」場所は、男女とも「学校内」がほとんどである。
言語的性暴力被害は、学校内で友だちから向けられる特徴をもつ。

女子の被害率は、女子大学生を対象とした調査(小西, 1999)と比べると、
ともに約3割で違いはない。

男子の被害率も、男子大学生の結果(小西, 1996年)と同じ2割程度であった。

2-1-0) 被害の有無

「あなたの体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたことはありますか」について、「ある」のは女子では1年生で33%、2年生で36%、3年生では27%と、どの学年とも約3割が経験がある。男子では、学年と共にその割合が増加し、1年生で17%、2年生で21%、3年生では30%である(図3-4-1、図3-4-2)。

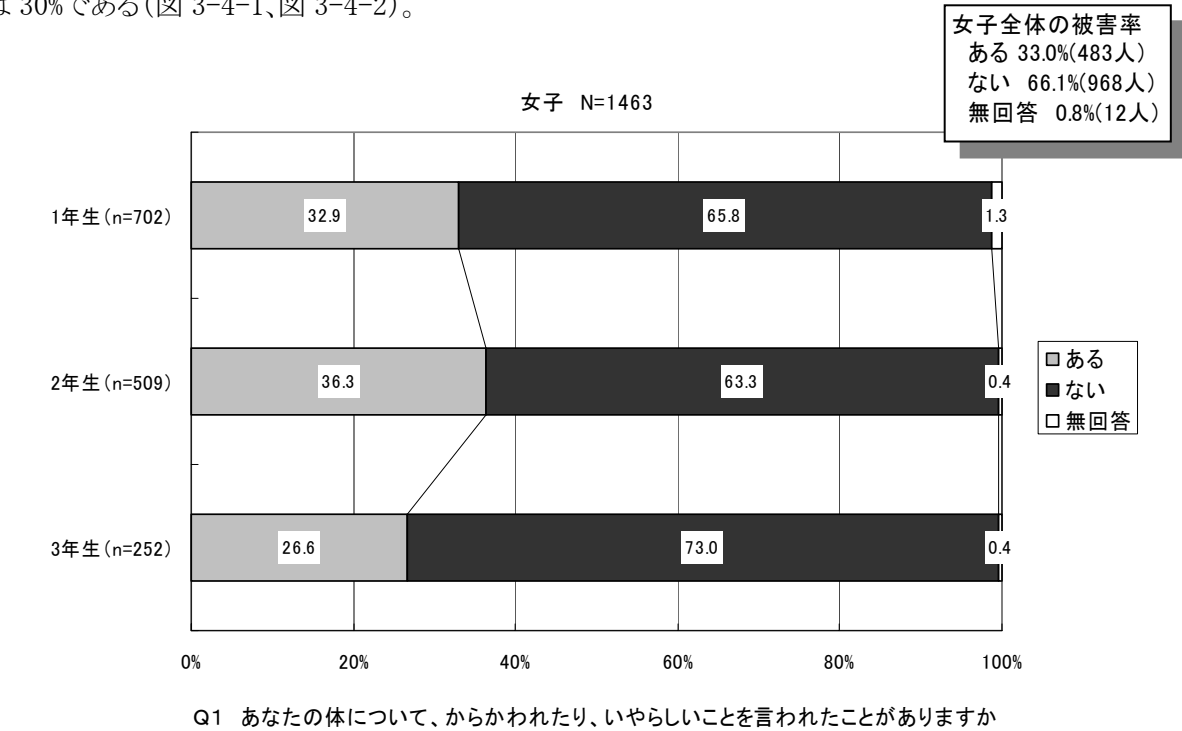


図3-4-1. 言語的性暴力被害経験の有無

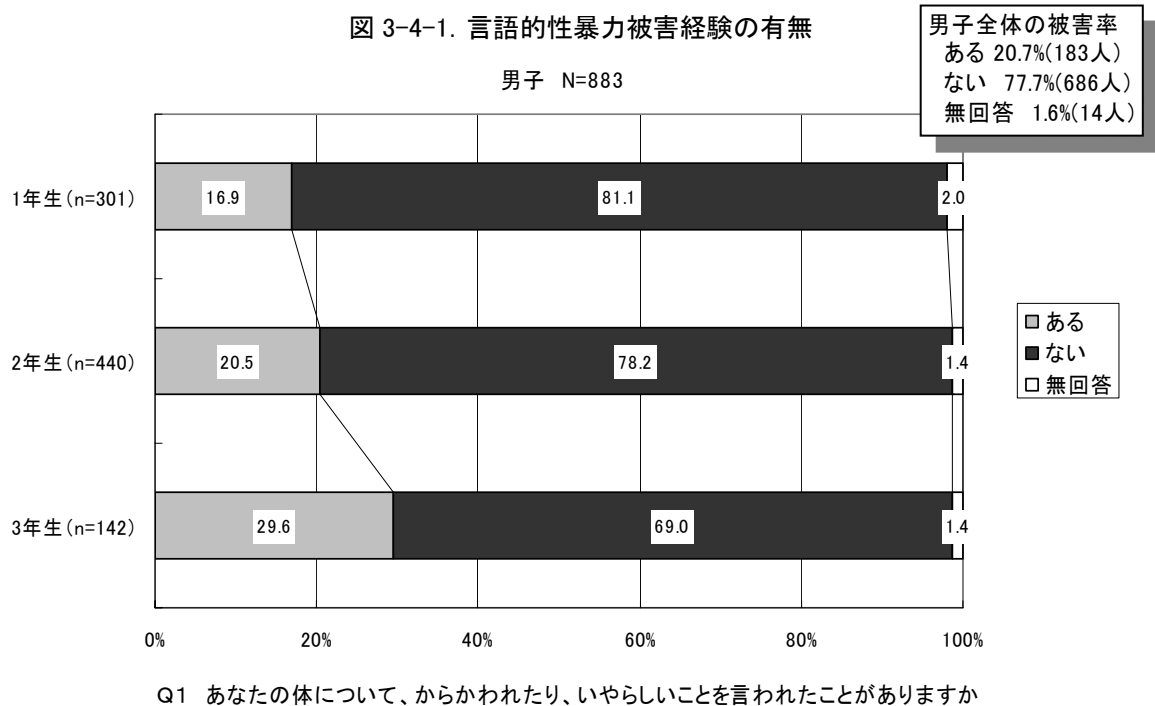


図3-4-2. 言語的性暴力被害経験の有無

2-1-1) 被害の回数

「ある」と回答した者(女子 483 名、男子 183 名)を対象とし、その回数を尋ねたところ(図 3-5-1、2、「2 回以上」が女子では 1 年生で 86%、2 年生で 89%、3 年生で 90%、男子では 1 年生で 84%、2 年生で 91%、3 年生で 88%と、いずれも 80%以上が複数回の経験がある。

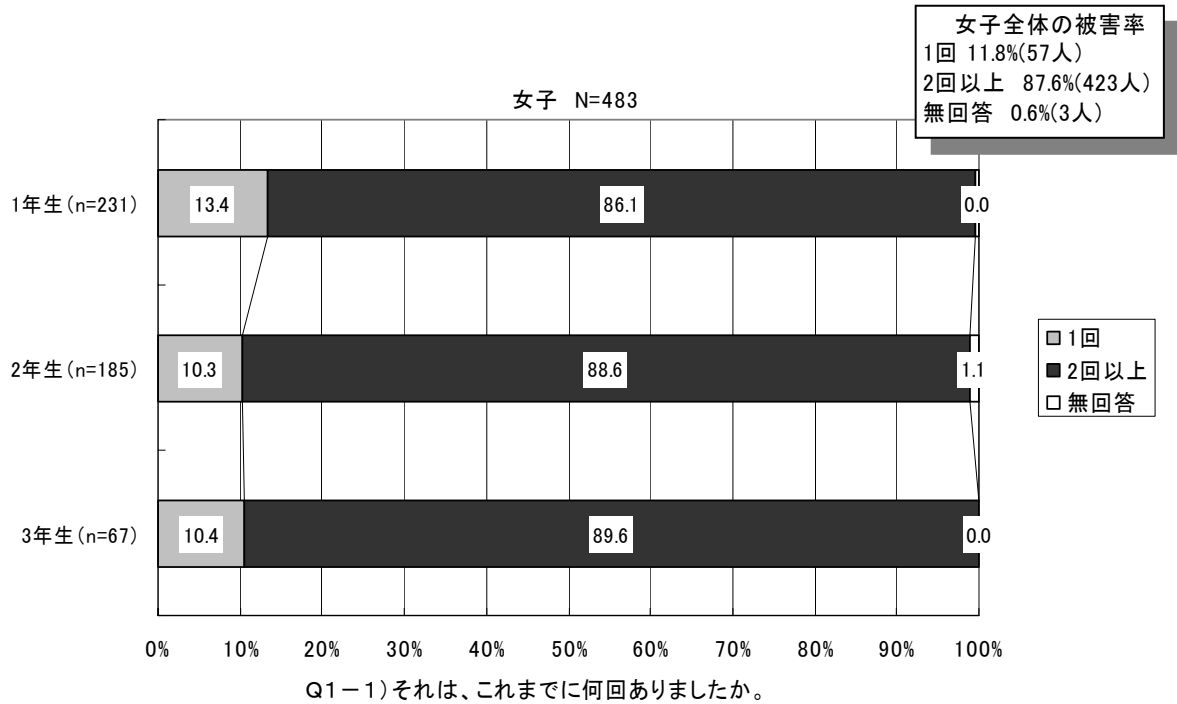


図 3-5-1. 言語的性暴力被害の回数

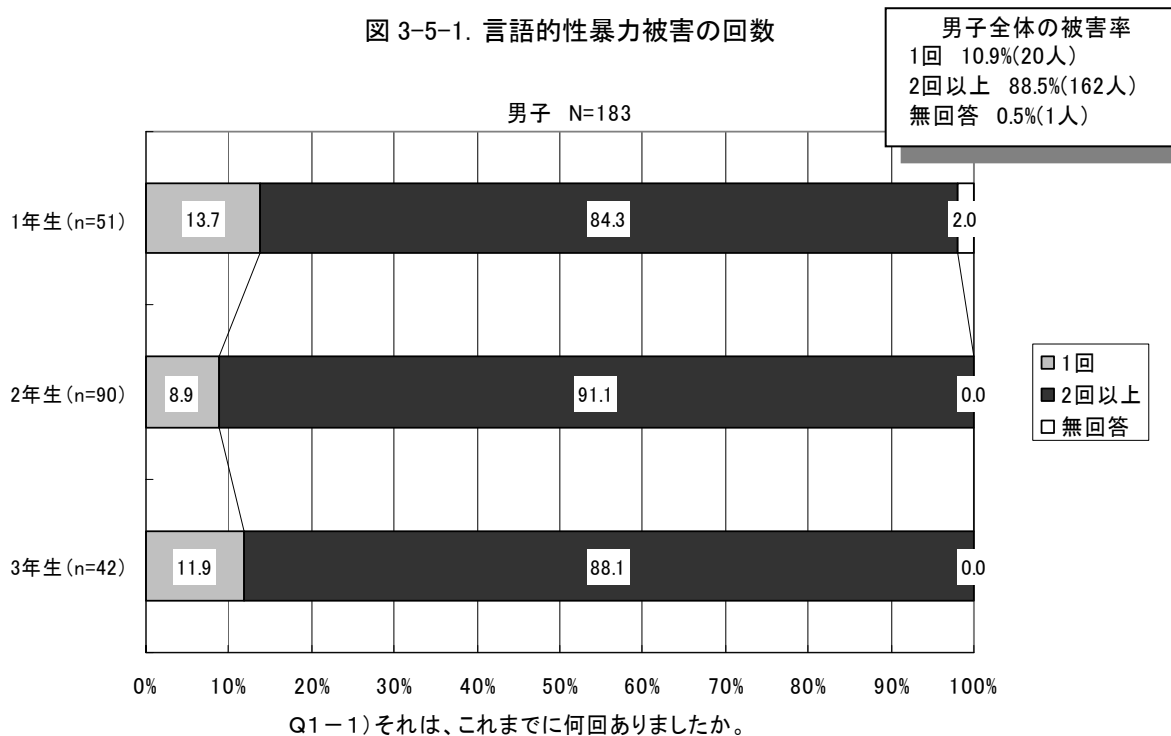


図 3-5-2. 言語的性暴力被害の回数

3-1-3) 被害の時期

その時期を尋ねたところ(図 3-6-1, 2)、女子では 1、2 年生で「中学のとき」が最も多く、それぞれ 62%、65%である。「高校になってから」は学年と共に増加し、1 年生で 33%、2 年生で 52%、3 年生で 58%となる。男子ではいずれの学年も「中学生のとき」が最も多く、約 40%(1 年生で 41%、2 年生で 40%、3 年生で 36%)が「中学生のとき」と回答した。「小学生のとき」、「高校生になってから」は 30%前後である。さらに、その割合は少ないが、男女とも「小学校入学前」は 4%～7%いる。

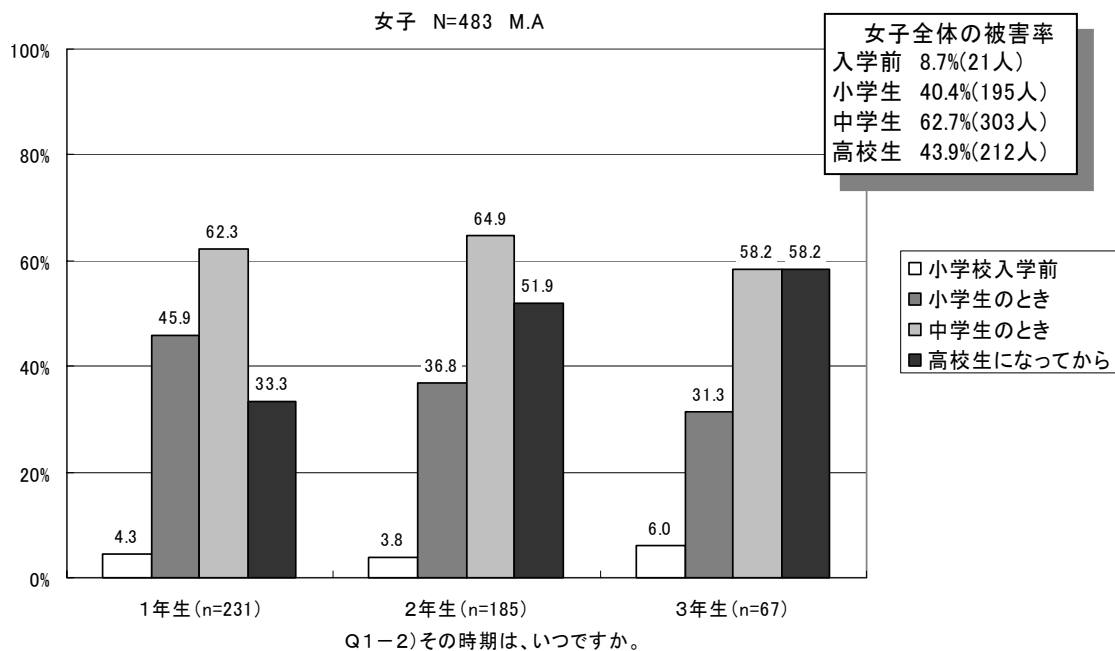


図 3-6-1. 言語的性暴力被害の時期

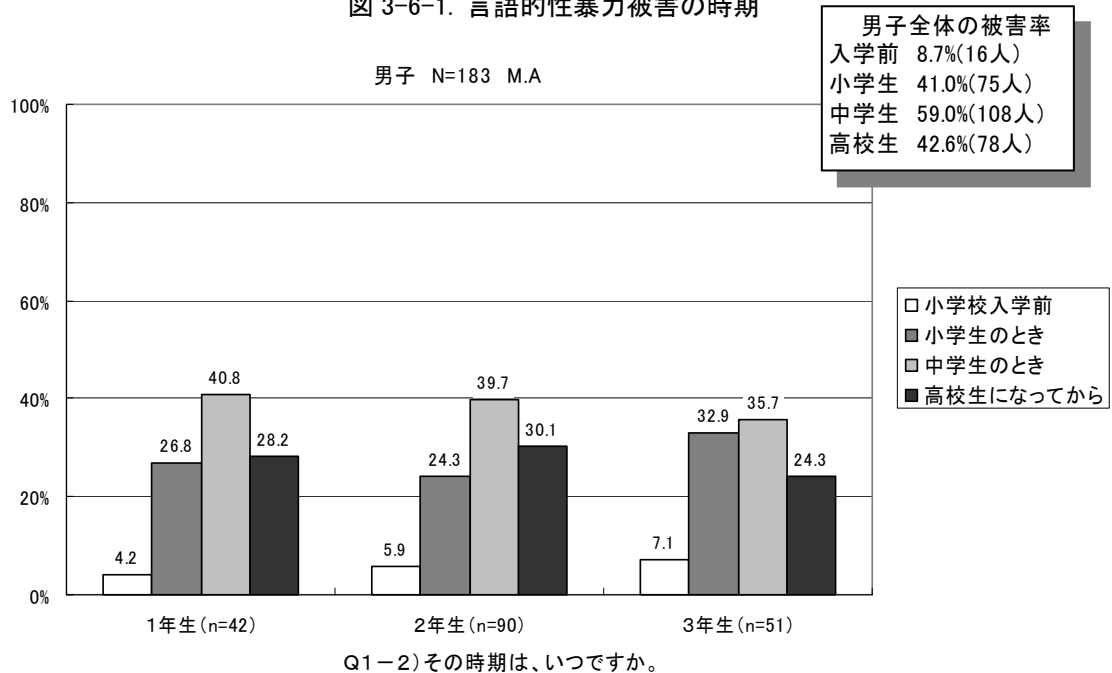


図 3-6-2. 言語的性暴力被害の時期

3-1-3) 被害の相手

誰に言われたかを尋ねたところ(図 3-7-1,2)、男女とも「友だち」が最も多い。ただし、その割合は、女子では 60%～70%程度であるのに対し、男子では 90%以上である。次いで、女子は 24%～28%が「知らない人」であるが、男子では 12%が「家族・親戚」である。また、女子は「友だち」、「知らない人」、「知り合い」(17～18%)、「家族・親戚」(13～18%)、「恋人」(12～18%)と多様であるが、男子で 10%を越えるのは「友だち」、「家族・親戚」である。

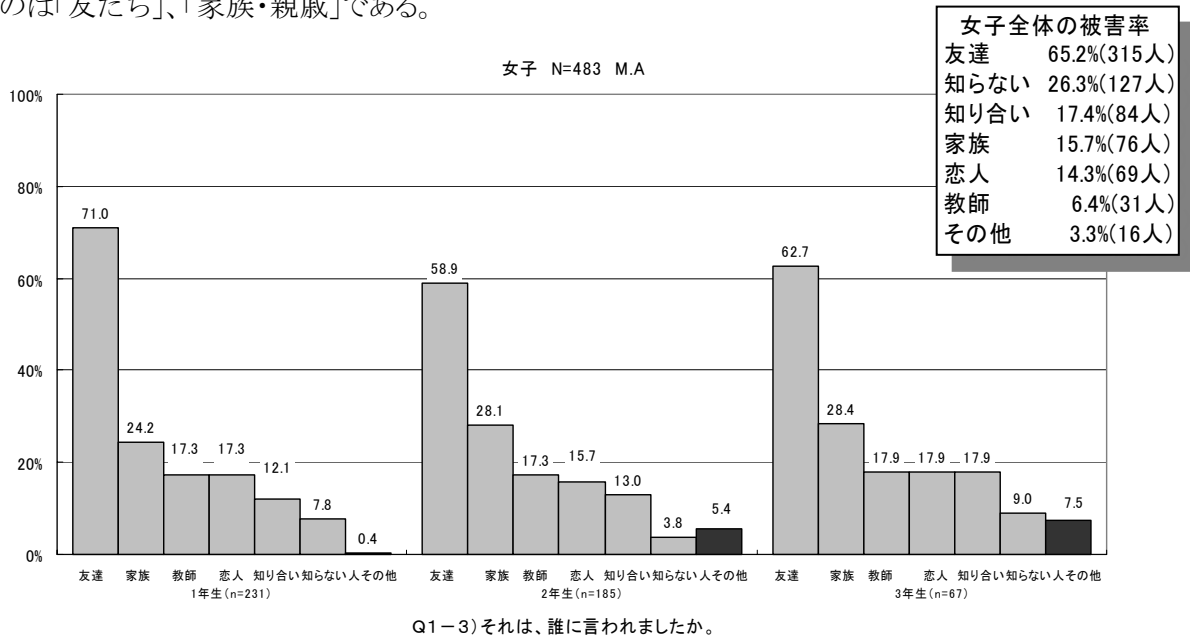


図 3-7-1. 言語的性暴力被害の相手

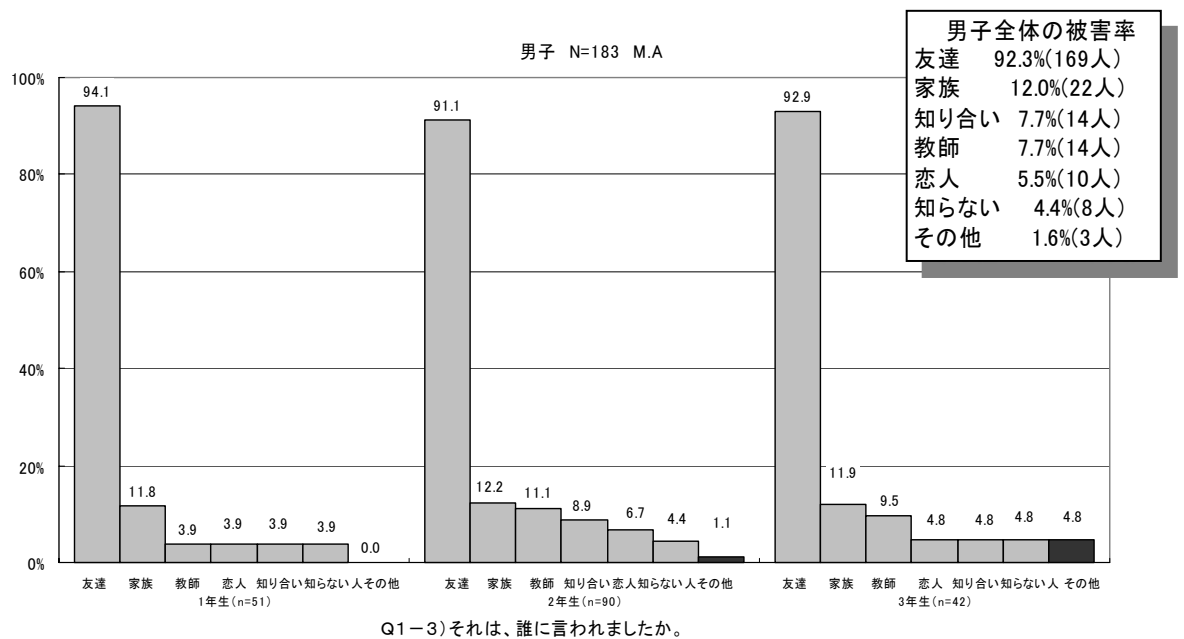


図 3-7-2. 言語的性暴力被害の相手

3-1-4) 被害の場所

言われた場所を尋ねたところ(図 3-8-1, 2)、男女とも「学校内」が最も多い。ただし、その割合は、男子では 86～88%であるのに対し、女子は 57～71%である。さらに、10%を超えるのは、男子では「学校内」と「自宅」(12～16%)であるのに対し、女子では「自宅」(12～19%)、「相手の家」(10～16%)であると共に、「その他」が 23～36%であり、多様さが伺える。女子の「その他」には、おもに「外」「道」「公園」など、屋外が多く記述されていた。

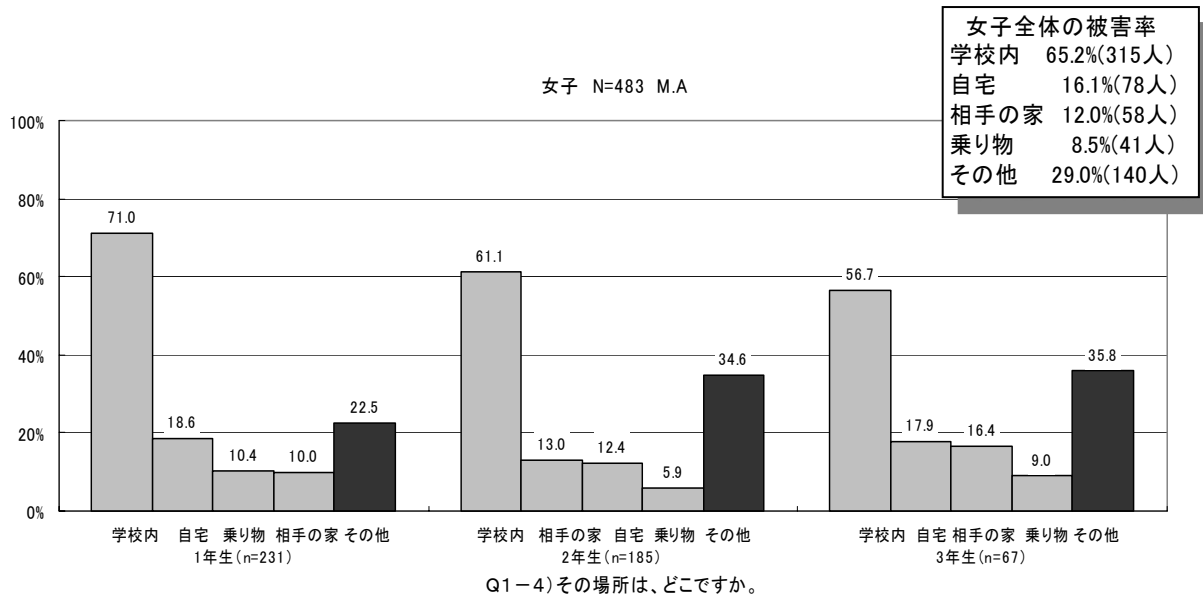


図 3-8-1. 言語的性暴力被害の場所

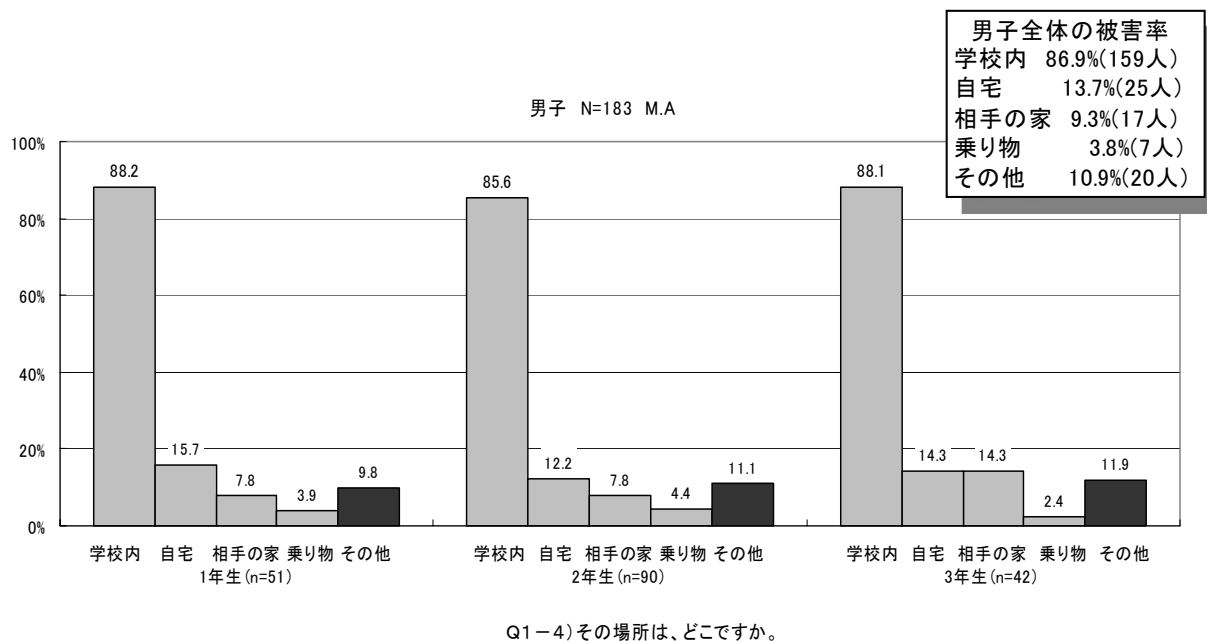


図 3-8-2. 言語的性暴力被害の場所

2. 視 覚 的 性 暴 力 被 害

問 4－Q2. 相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか

<結果概要>

- 男女別 被害率 : 女子 35.1%、 男子 12.7%
- 女子被害率 (N=1483) : 30% (1 年生)、40% (2 年生)、41% (3 年生)
- 男子被害率 (N= 883) : 11% (1 年生)、13% (2 年生)、13% (3 年生)
- 女子は、約 3～4 割。男子は、学年に関わらず約 1 割。
女子のほうが、男子よりも「わざと見せられた」経験が多い。
- 「見せられた」回数は、女子は 5～7 割が「2 回以上」。
男子は、3 年生より 1、2 年生で「2 回以上」が約 8 割と多い。
- 「見せられた」時期は、女子は「中学のとき」がもっとも多い。
男子は 1 年生は「中学時」だが、2、3 年では「高校生になってから」。
- 「見せられた」相手は、男女でまったく違う回答であった。
女子は、「知らない人」から、男子は「友だち」が圧倒的多数。
- 「見せられた」場所は、女子は「その他」(路上・特定できない外)。
男子は、「学校内」がほとんどであり、次いで「相手の家」。

視覚的性暴力は、男女ともに被害を受けているが、内容には違いがある。
女子は、路上など屋外で、知らない人から性器露出を目撃させられているが、
男子は、学校内で友だちから性器などを見せられるというのが主であった。

一般女性(小西、1999)の「性器をみせられた」被害率 56.9%と比較すると、女子全体の被害率が 35.1%と低い傾向がみられた。しかし、大学生男子(小西、1996)の被害率が、2.4%であるのに比べ、高校生全体の被害率は 12.7%と高い。

2-2-0) 被害の有無

「相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか」について、「ある」と回答したのは女子では30～41%であるのに対し、男子では11～13%である。(図 3-9-1, 2)

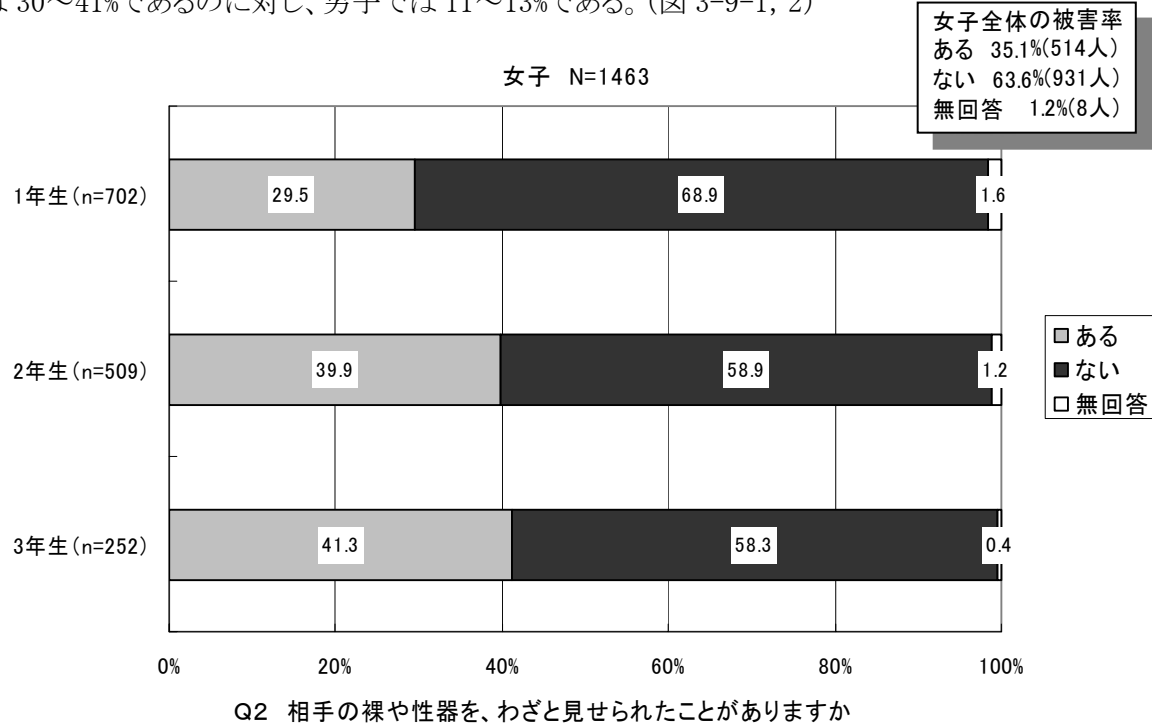


図 3-9-1. 視覚的性暴力被害の有無

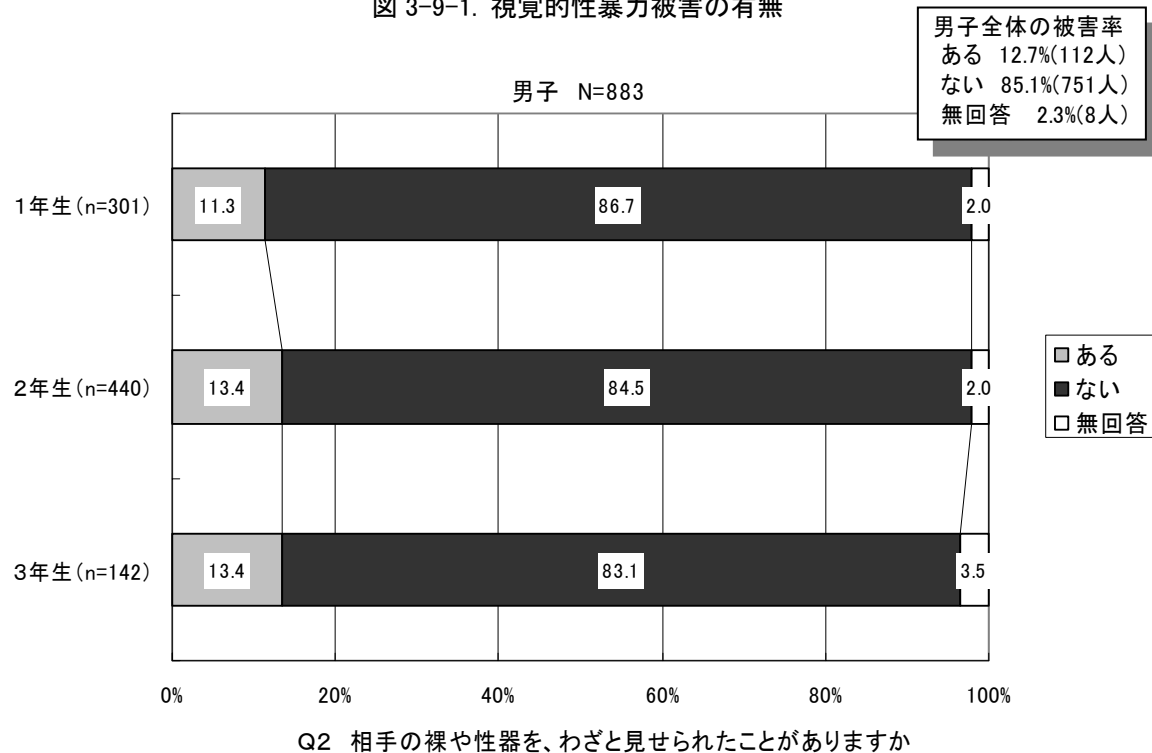
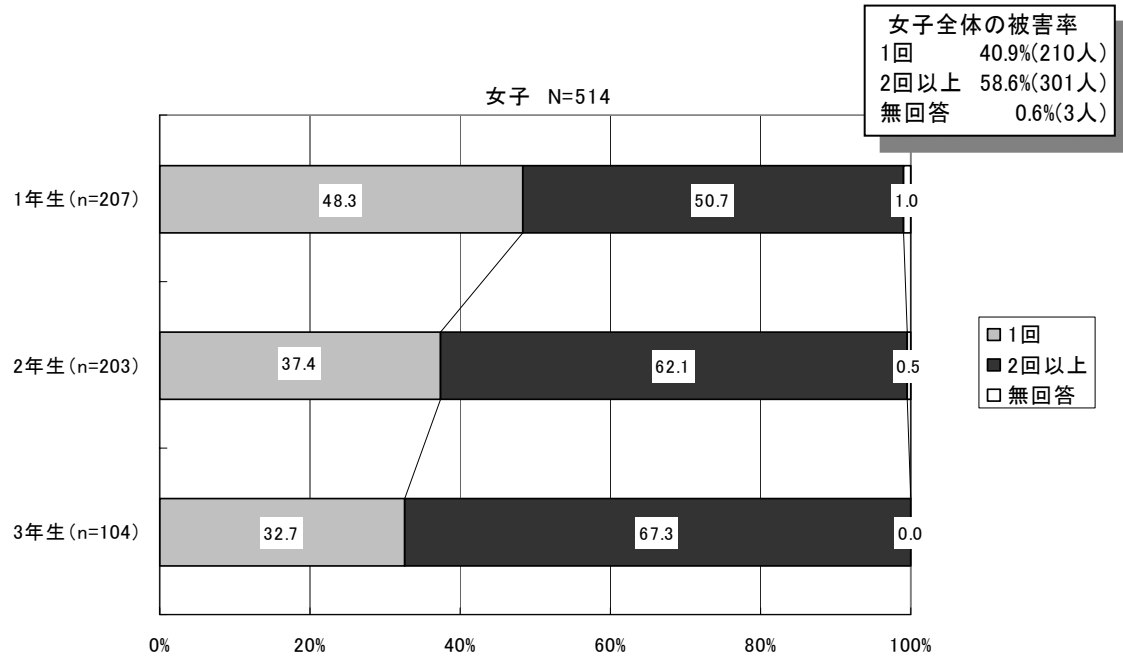


図 3-9-2. 視覚的性暴力被害の有無

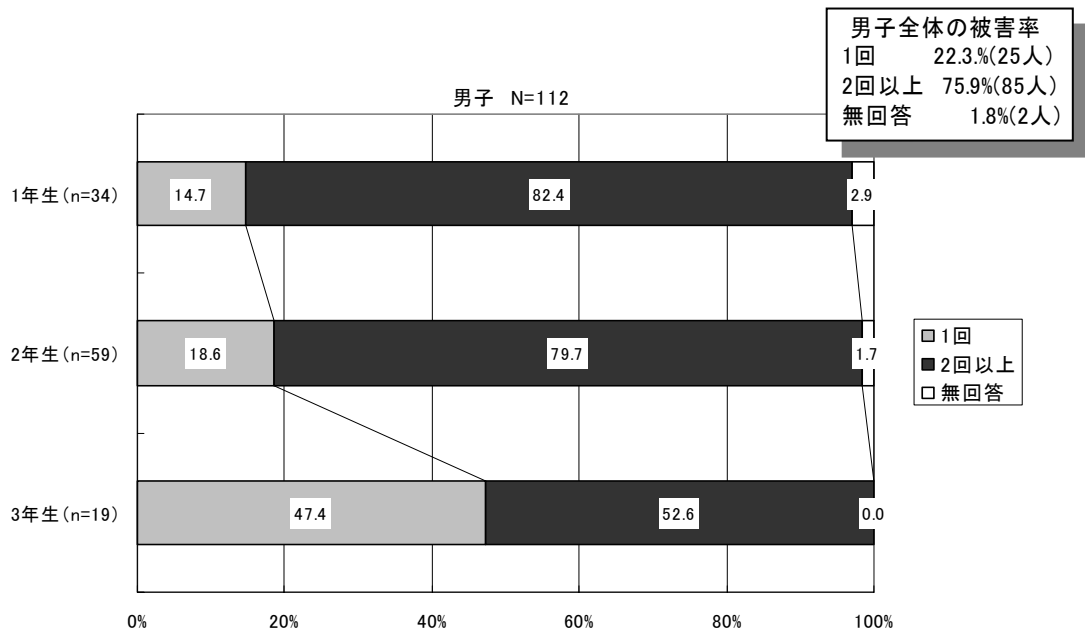
2-2-1)被害の回数

「ある」と回答した者(女子 514 名、男子 112 名)を対象とし、その回数を尋ねたところ(図 3-10-1, 2)、「2 回以上」が女子では 1 年生で 51%、2 年生で 62%、3 年生で 67%、男子では 1 年生で 83%、2 年生で 80%、3 年生で 53%であり、男女とも複数回の経験がある者が半数を超える。



Q2-1)それは、これまでに何回ありましたか。

図 3-10-1. 視覚的性暴力被害の回数

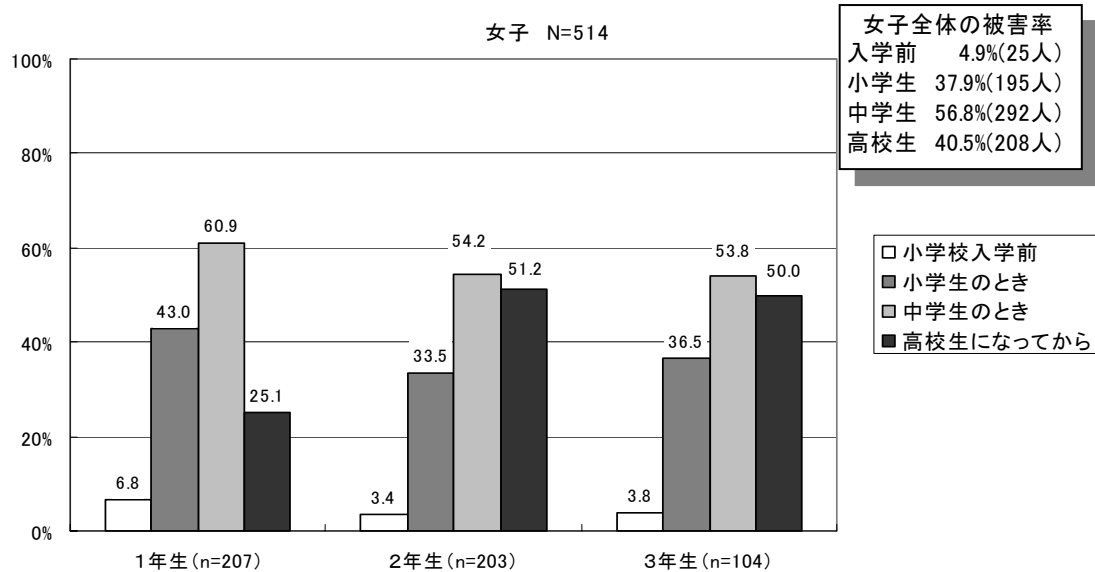


Q2-1)それは、これまでに何回ありましたか。

図 3-10-2. 視覚的性暴力被害の回数

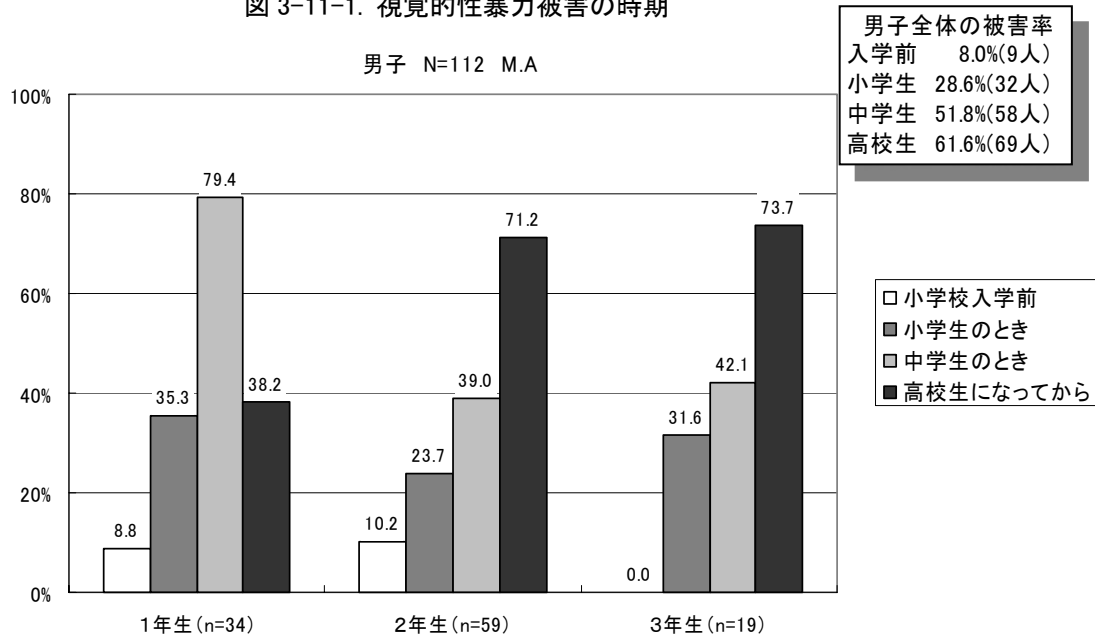
2-2-2) 被害の時期

その時期を尋ねたところ(図 3-11-1, 2)、女子では「中学のとき」が 50～61%と最も多い。「高校になってから」は 1 年生では 25%であるのに対し、2 年生で 51%、3 年生で 50%となる。さらに、その割合は少ないが、「小学校入学前」は男子 1、2 年生では約 10%、女子は 3%～7%いる。男子で 1 年生のみが「中学生のとき」が最も多く、79%が「中学生のとき」と回答した。2 年生、3 年生は「高校生になってから」が最も多く、それぞれ 71%、74%であり、「中学生のとき」は約 40%にとどまる。



Q2-2) その時期は、いつですか。

図 3-11-1. 視覚的性暴力被害の時期



Q2-2) その時期は、いつですか。

図 3-11-2. 視覚的性暴力被害の時期

2-2-3) 被害の相手

誰に見せられたかを尋ねたところ(図 3-12-1, 2)、女子では「知らない人」が最も多い(81～89%)のに対し、男子では「友だち」が最も多い(79～85%)。

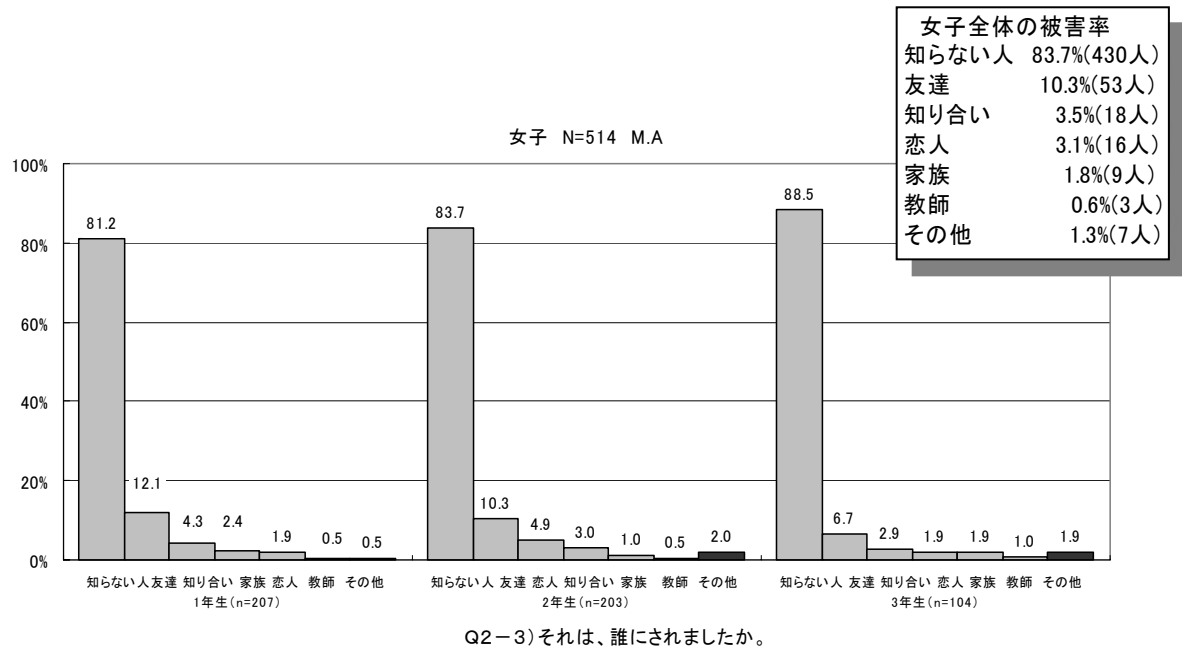


図 3-12-1. 視覚的性暴力被害の相手

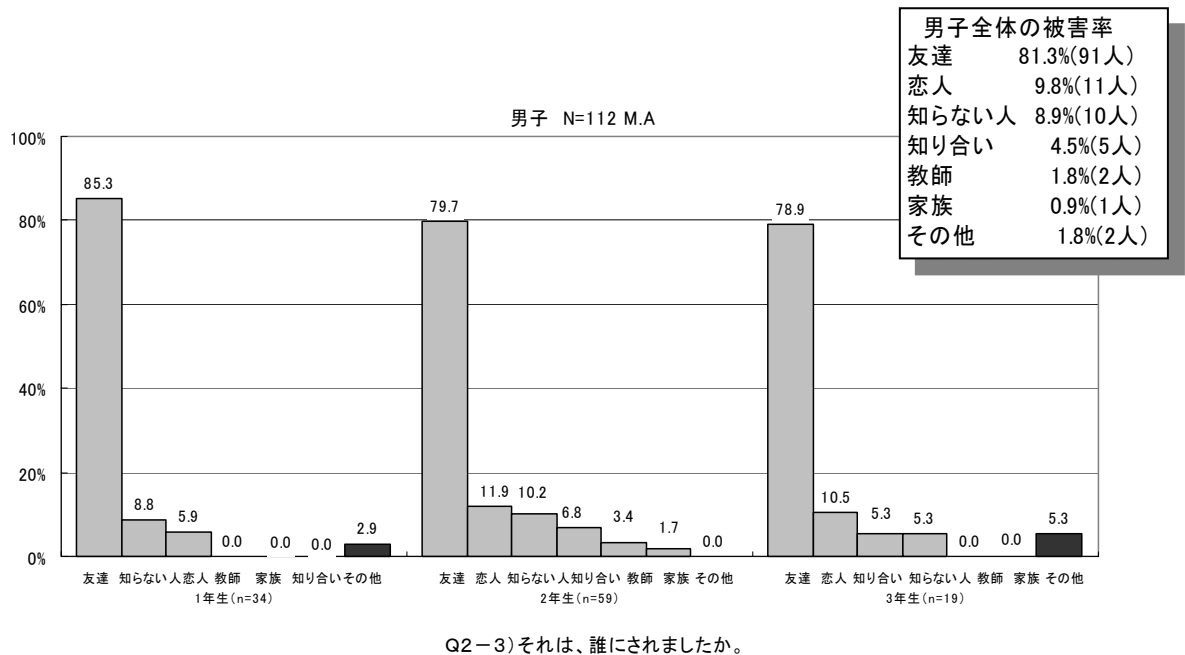


図 3-12-2. 視覚的性暴力被害の相手

2-2-4) 被害の場所

見せられた場所を尋ねたところ(図 2-13-1, 2)、女子は「学校内」は 2~11%にとどまり、「その他」が 70%を越える。男子では「学校内」が最も多い(42~62%)。一方、男子でも「その他」は 30%程度おり、本研究で想定されなかった場所での経験が多い。

「その他」の内訳は、女子では「公園」「道」「外」など身近な屋外がほとんどであり、「通学路」や「学校周辺」など登下校中の被害も多く記されていた。「店」「図書館」などの記述もあった。男子の記述は少なかったが、女子と同じく「公園」のほか、「風呂」「旅行先」などがあつた。

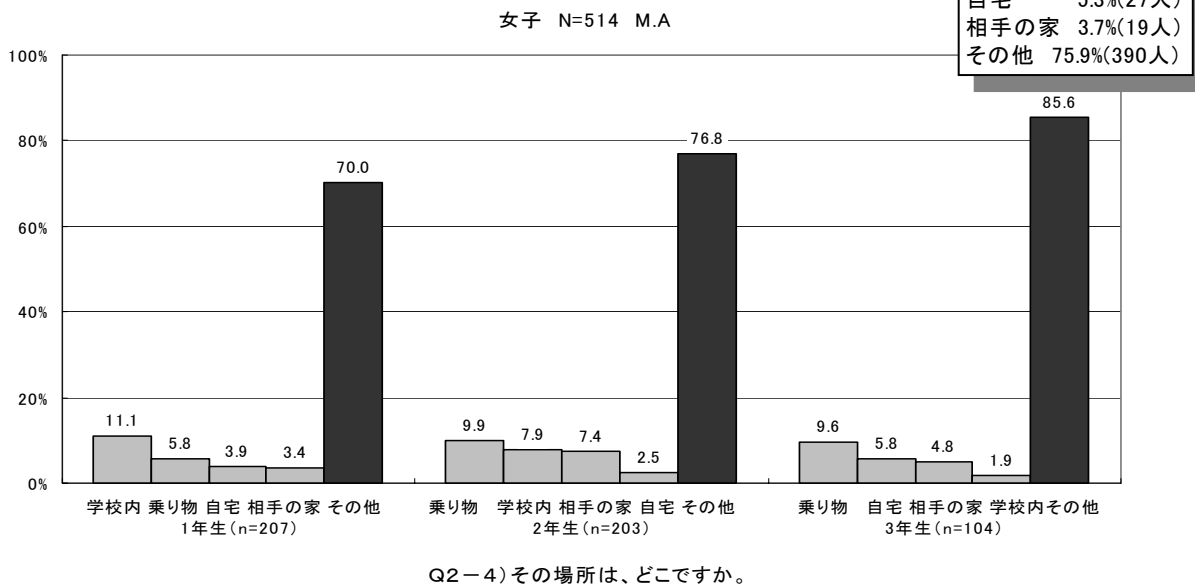


図 2-13-1. 視覚的性暴力被害の場所

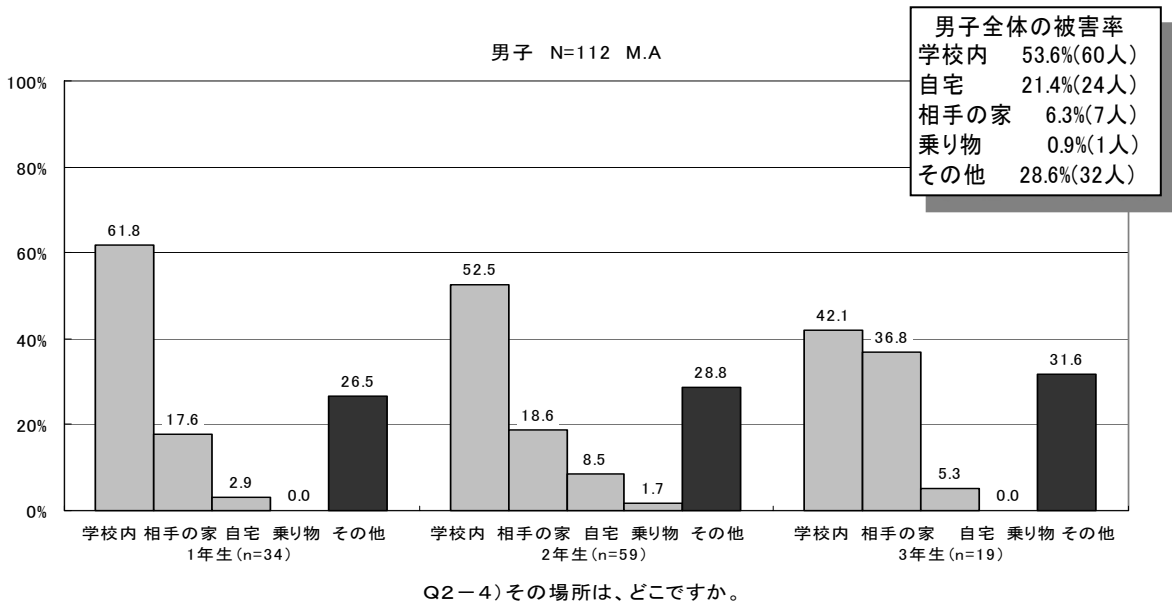


図 2-13-2. 視覚的性暴力被害の場所

3. 強制的身体接触

問4－Q3. 無理やり、体を触られたり、抱きつかれたことがありますか

<結果概要>

- 男女別 被害率 : 女子 37.2%、男子 13.6%
- 女子被害率 (N=1483) : 32% (1年生)、39% (2年生)、47% (3年生)
- 男子被害率 (N= 883) : 10% (1年生)、15% (2年生)、17% (3年生)
- 女子は、3～4割。学年が上がるにつれ増加。
男子は、学年にかかわらず、約1割～2割弱。
- 「触られた」回数は、女子の6割、男子の8割が「2回以上」。
一度きりではなく、複数回経験がある者が多い。
- 「触られた」時期は、1年男子を除き、「高校生」がもっとも多い。
- 「触られた」相手は、男女でまったく違う回答であった。
女子は「知らない人」からが多く、男子は「友だち」がほとんど。
- 「触られた」場所は、女子は「電車内」と「その他」(路上・外)。
男子は「学校内」がほとんどである。

強制的身体接触は、女子のほうが多く、学年が上がるにつれ被害が増加。
おもに、電車内での痴漢行為であり、路上などの屋外で知らない人から
触られるという状況も多い。

一方、男子は、学校内で友だちから触られる性的ないじめが考えられる。

「抱きつかれた」体験については、女子大学生 20.8%(小西, 1996)、成人女性 28.8%
(小西, 1998 の被害率であるのに対し、女子高校生では 37.2%と高い。
男子大学生(小西, 1996)では、2.4%であるのに対し、男子高校生は 13.6%と、
男子もより高い被害率を示した。

2-3-0) 被害の有無

「無理やり、体を触られたり、抱きつかれたことがありますか」について、「ある」のは女子では 32～47%であるのに対し、男子では 11～17%である。(図 3-14-1,2)

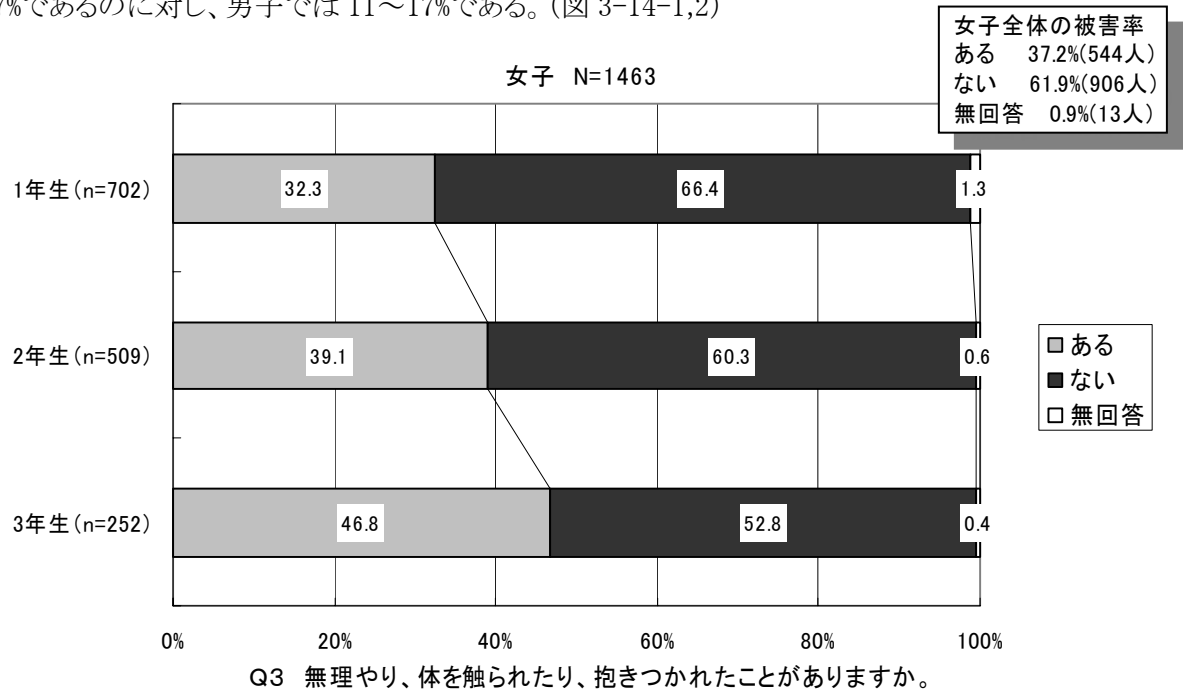


図 3-14-1. 強制的身体接触の有無

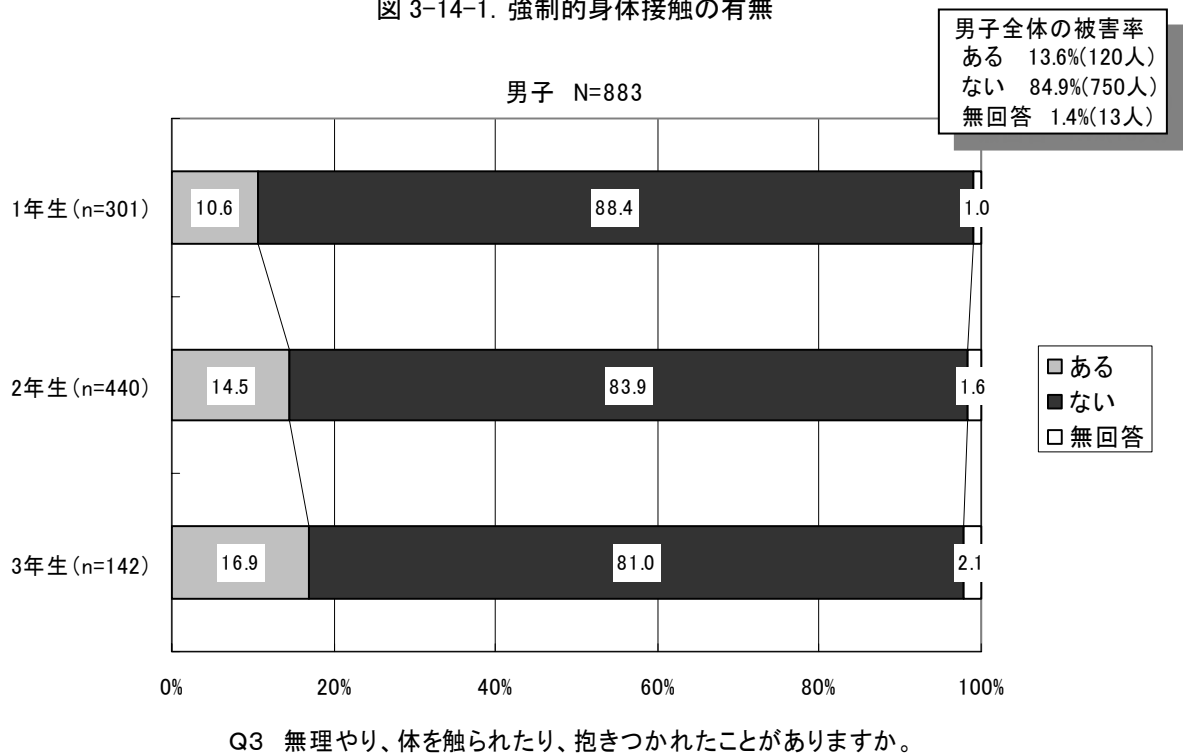


図 3-14-2. 強制的身体接触の有無

2-3-1) 被害の回数

「ある」と回答した者(女子 544 名、男子 120 名)を対象とし、その回数を尋ねたところ(図 3-15-1, 2)、「2 回以上」が女子では 1 年生で 64%、2 年生で 66%、3 年生で 62%であり、男子では 1 年生で 84%、2 年生で 81%、3 年生で 75%である。複数回の経験がある者は、女子で 60%以上、男子で 75%以上となる。

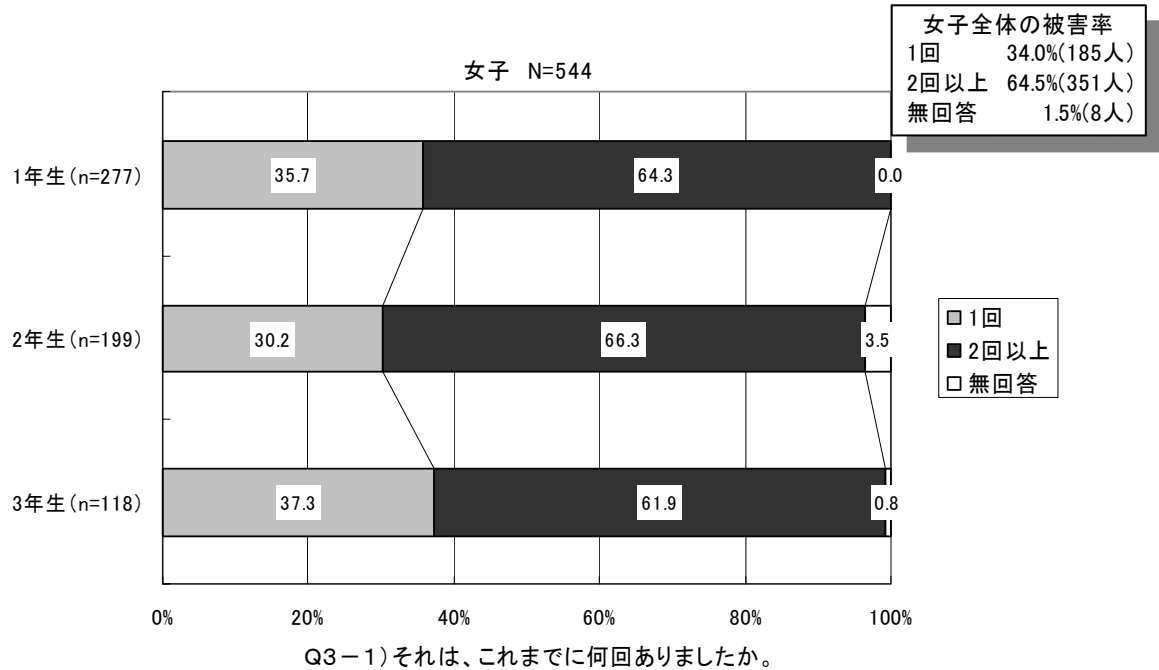


図 3-15-1. 強制的身体接触の回数

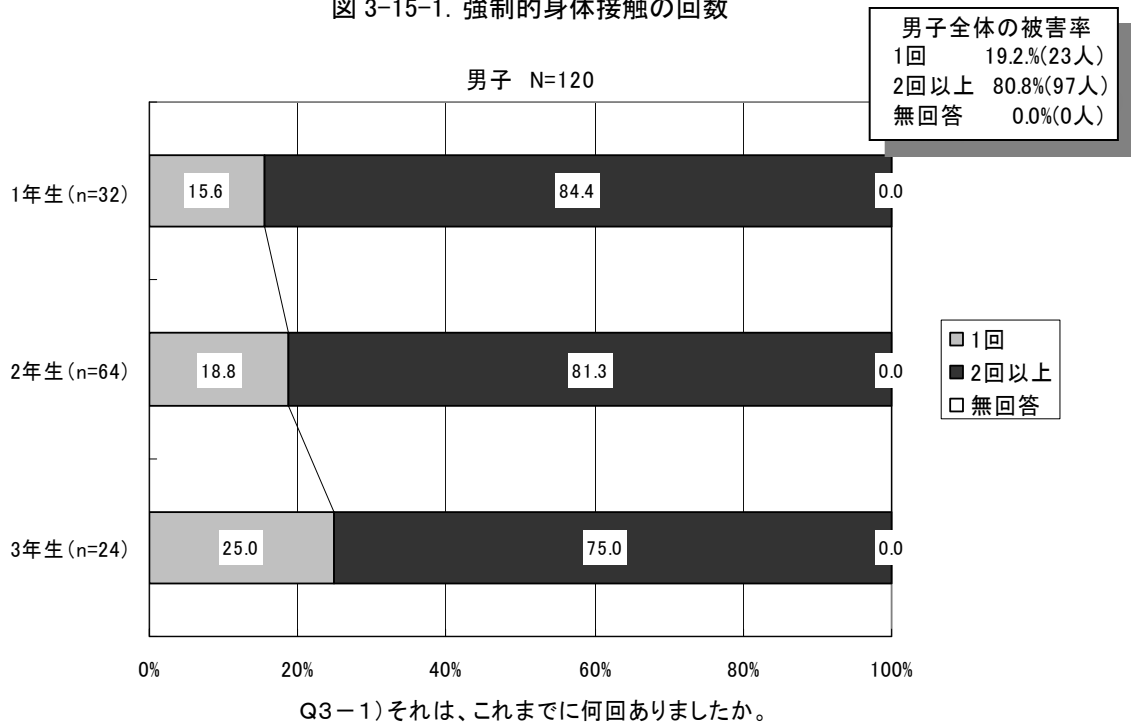


図 3-15-2. 強制的身体接触の回数

2-3-2) 被害の時期

その時期を尋ねたところ(図 3-16-1, 2)、女子では「高校になってから」が1年生では49%、2、3年生では64%で、いずれの学年も最も多い。次いで「中学生のとき」は33~47%である。男子は1年生のみが「中学生のとき」が最も多く、63%が「中学生のとき」と回答した。2年生、3年生は「高校生になってから」が最も多く、それぞれ59%、63%であり、「中学生のとき」は51%、29%にとどまる。

「小学生のとき」は、男女とも20~30%いる。さらに、その割合は少ないが、「小学校入学前」は女子は約4%、男子で10%弱いる。

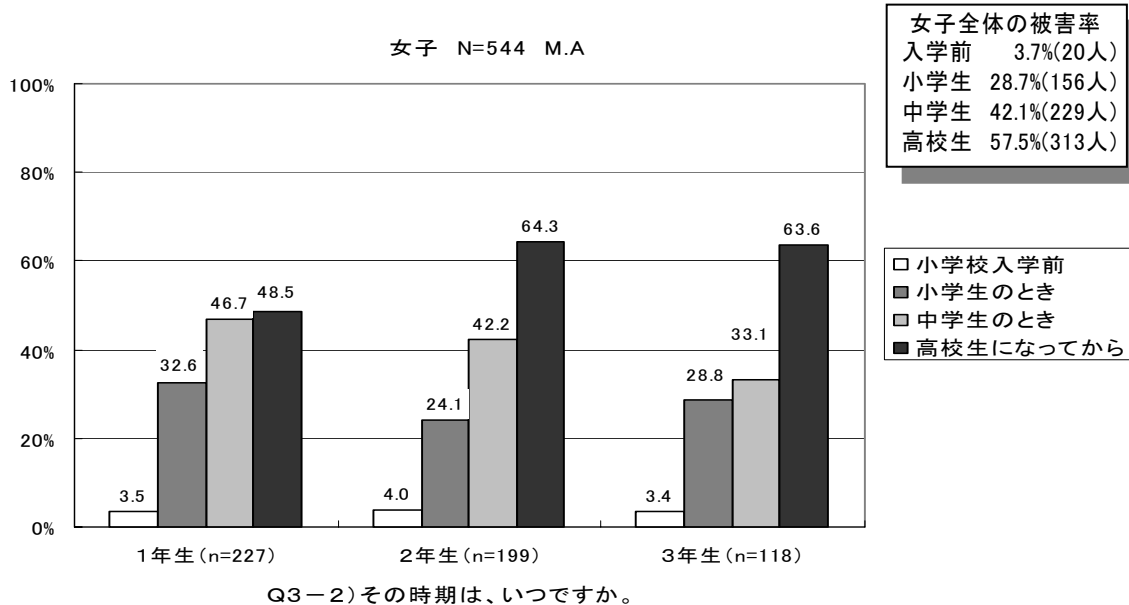


図 3-16-1. 強制的身体接触の時期

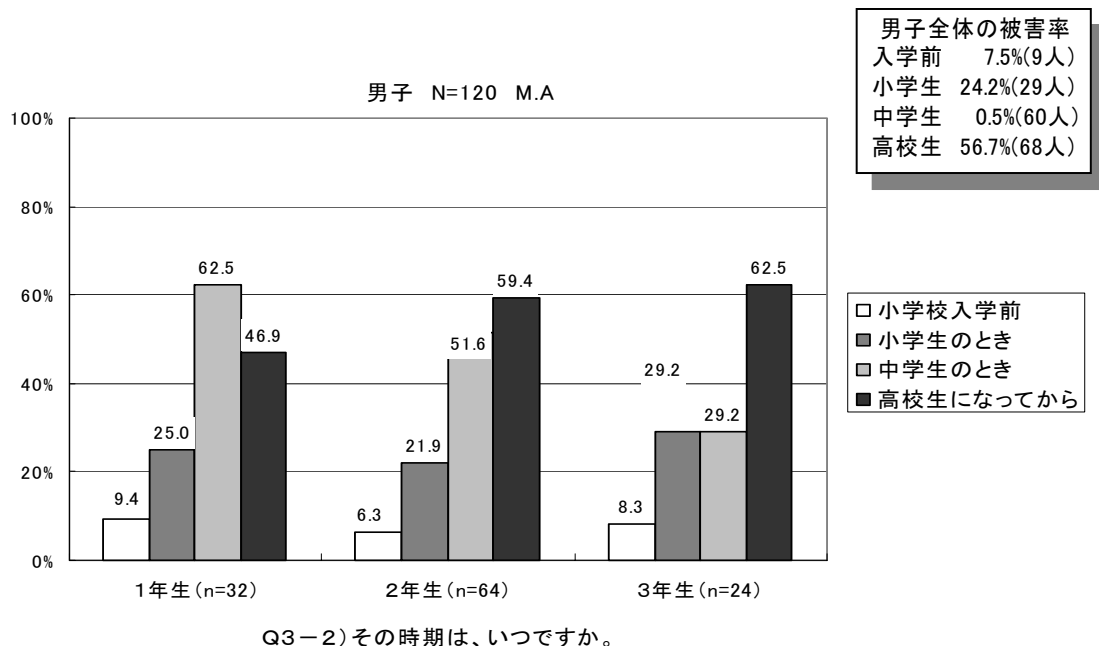
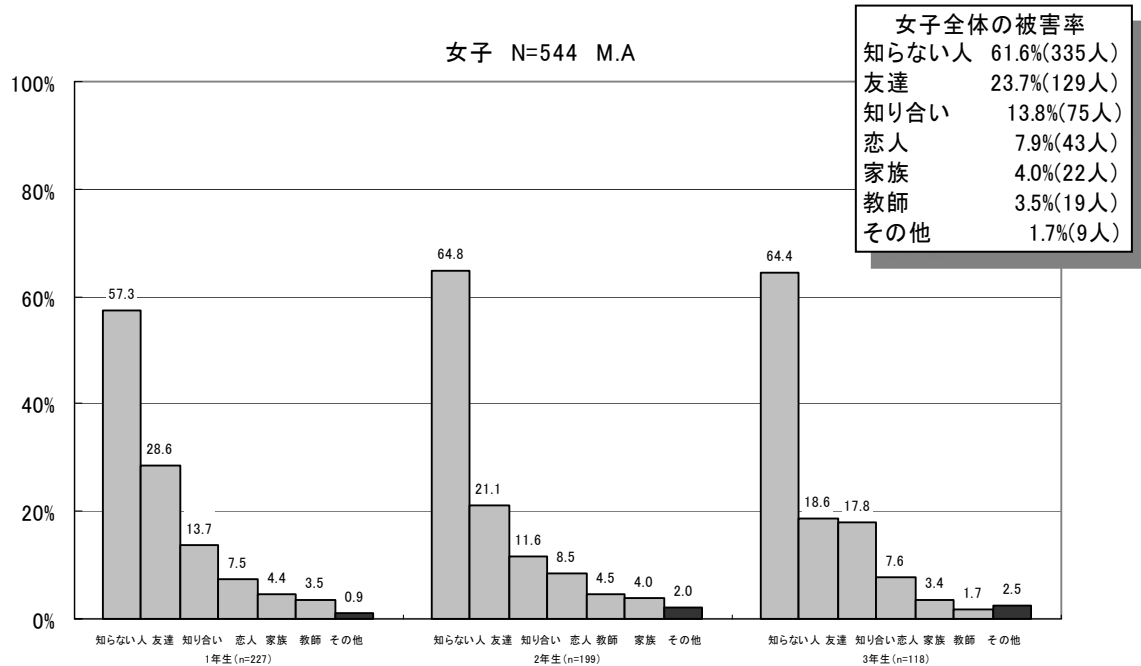


図 3-16-1. 強制的身体接触の時期

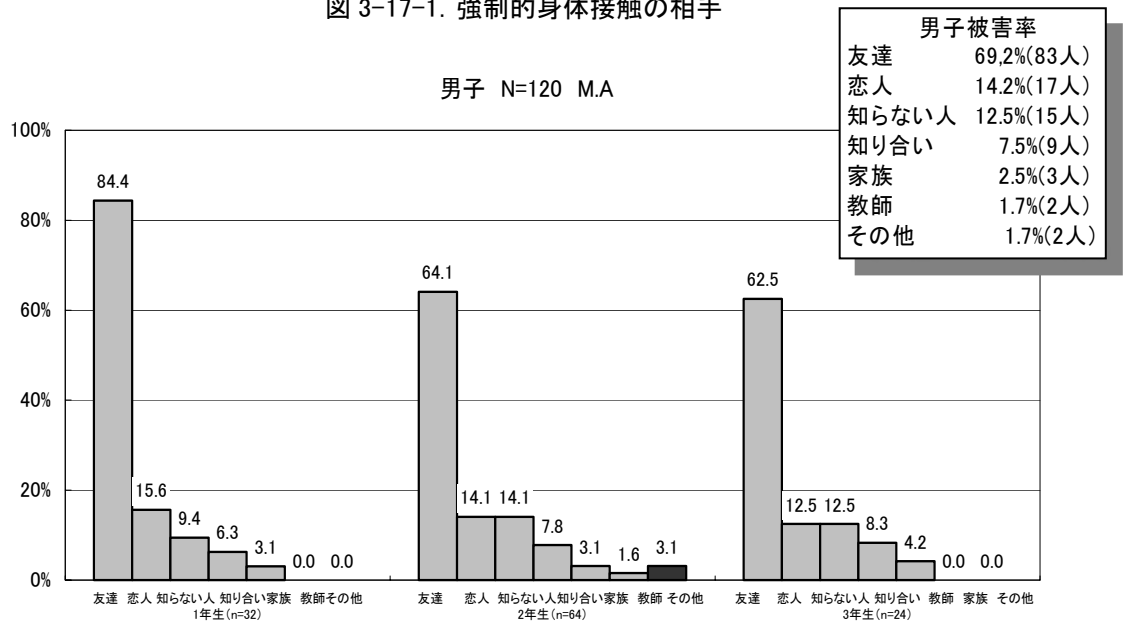
2-3-3) 被害の相手

誰に触られたり抱きつかれたかを尋ねたところ(図 3-17-1, 2)、女子では「知らない人」が最も多く(57～65%)、次いで「友だち」(19～29%)、「知り合い」(12～18%)であるのに対し、男子では「友だち」が最も多く(63～64%)、次いで「恋人」(14%)、「知らない人」(13%)である。



Q3-3)それは、誰にされましたか。

図 3-17-1. 強制的身体接触の相手



Q3-3)それは、誰にされましたか。

図 3-17-2. 強制的身体接触の相手

2-3-4) 被害の場所

触られたり抱きつかれた場所を尋ねたところ(図 3-18-1, 2)、女子は、「その他」が 40～50%と最も多く、「学校内」は 12～19%にとどまるのに対し、男子では「学校内」が最も多い(55～66%)。女子で、「その他」に次いで多いのは「乗り物の中」である(30～37%)。男女で被害場所が異なることがうかがえるが、男子でも「その他」は「学校内」に次いで多く、本研究で想定されなかった場所での経験が多い。

「その他」の内訳は、女子は「外」「公園」「通学路」など身近な屋外が多く記述され、「店」「カラオケ」「バイト先」など、遊び場や仕事場など多岐に渡っていた。男子の記述は少なかったが、屋外が挙がっていた。

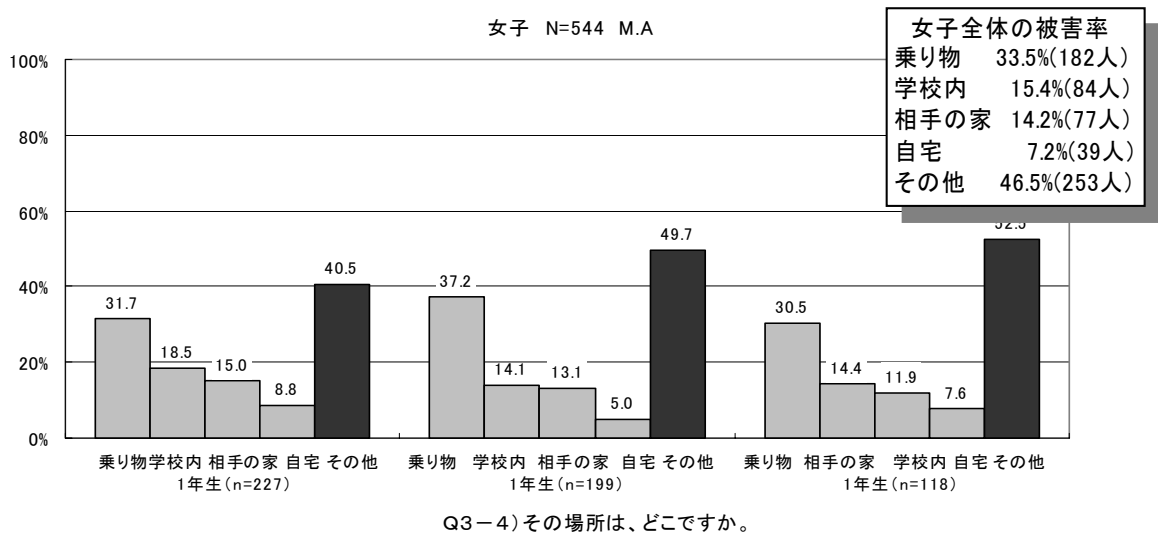


図 3-18-1. 強制的身体接触の場所

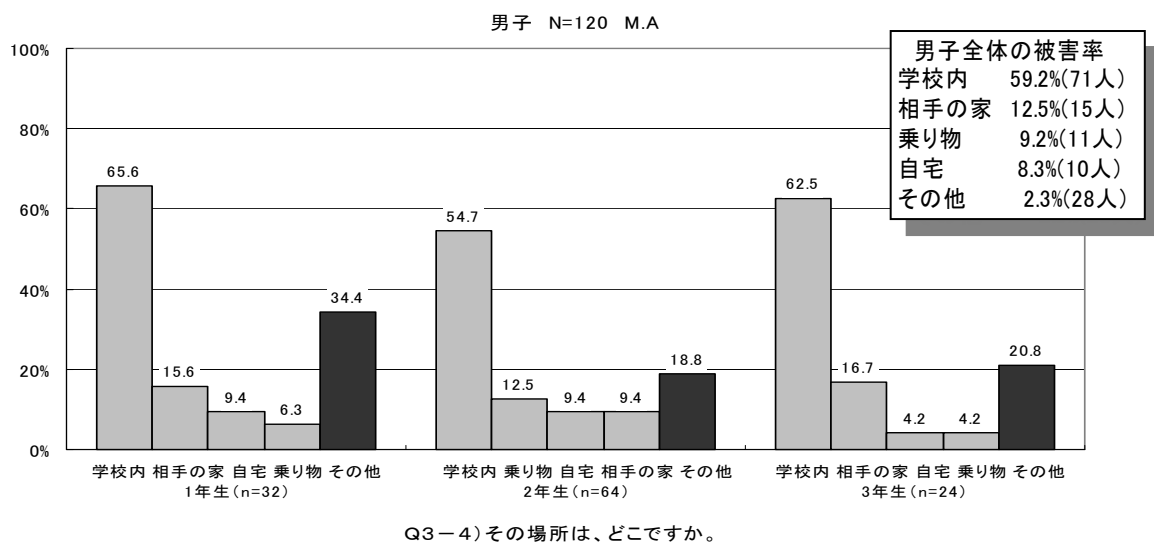


図 3-18-2. 強制的身体接触の場所

4. レイプ未遂

問4－Q4. 無理やり、セックスをされそうになったことがありますか

<結果概要>

- 男女別 被害率 : 女子 13.2%、 男子 2.7%
- 女子被害率 (N=1483) : 10% (1年生)、15% (2年生)、18% (3年生)
- 男子被害率 (N= 883) : 1% (1年生)、 3% (2年生)、 4% (3年生)
- 女子は、1～2割。学年が上がるにつれ、若干増加。男子は1～4%。
- 「セックスをされそうになった」回数は、女子は過半数は「1回」だが、「2回以上」も4割程度いる。男子はわずかに「1回」が多い。
- 「セックスをされそうになった」時期は、男女とも2、3年生は「高校生になってから」。1年生のみ、「中学校のとき」。
- 「セックスをされそうになった」相手は、男女とも「恋人」や「友だち」。
いずれも、親密な関係におけるセックスの強要であるのが特徴的。
- 「セックスをされそうになった」場所は、男女とも「相手の家」。

恋人や友だちといった親密な関係におけるセックスの強要が多いことから、高校生のデートレイプ未遂が多いことが浮かび上がった。

「強引なセックス」が、高校生自身にとって、性暴力と認識されているのかどうかは不明である。

成人女性の13.4%が「性交されそうになった」経験があるとしているが(小西、1999)、女子高校生は13.2%であった。しかし、小西(1999)の結果によると、成人女性のうち19歳までの被害率は4.6%を示している。

男子高校生の「無理やり、セックスをされそうになったこと」の被害率は、2.7%を示したが、過去に男性のレイプ未遂に関する調査結果はない。

2-4-0) 被害の有無

「無理やり、セックスをされそうになったことがありますか」について、「ある」のは女子では 10～18%であるのに対し、男子では 1～4%である。(図 3-19-1, 2)

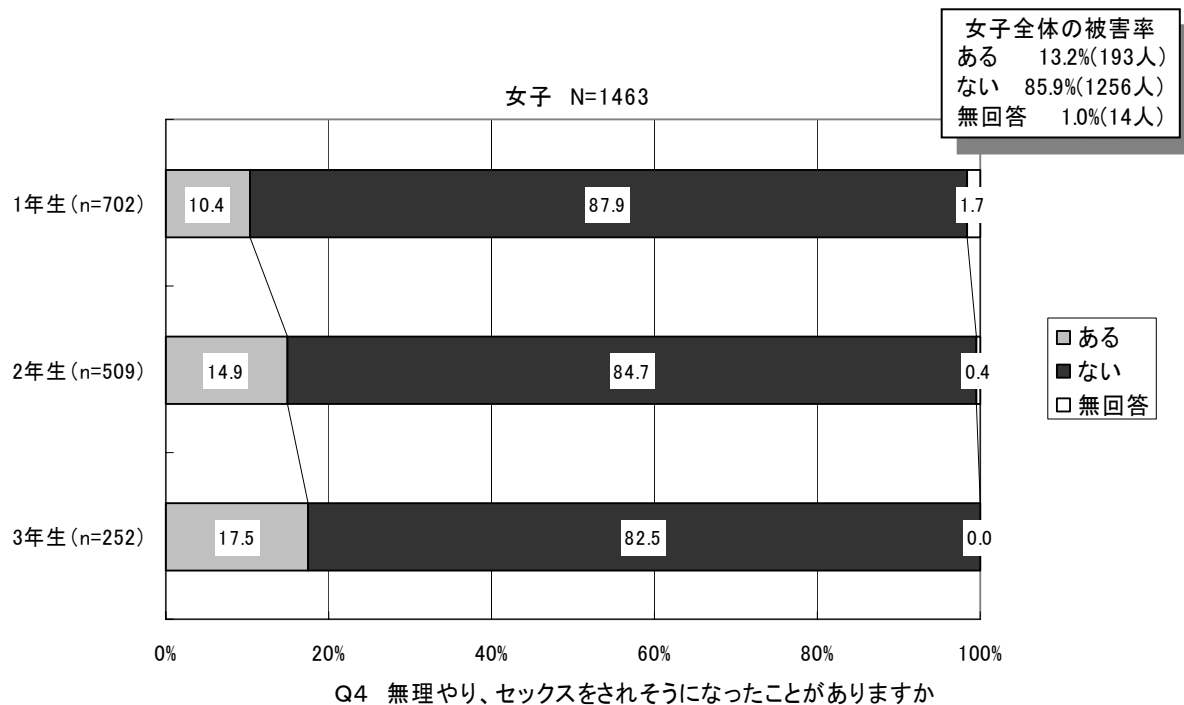


図 3-19-1. レイプ未遂の有無

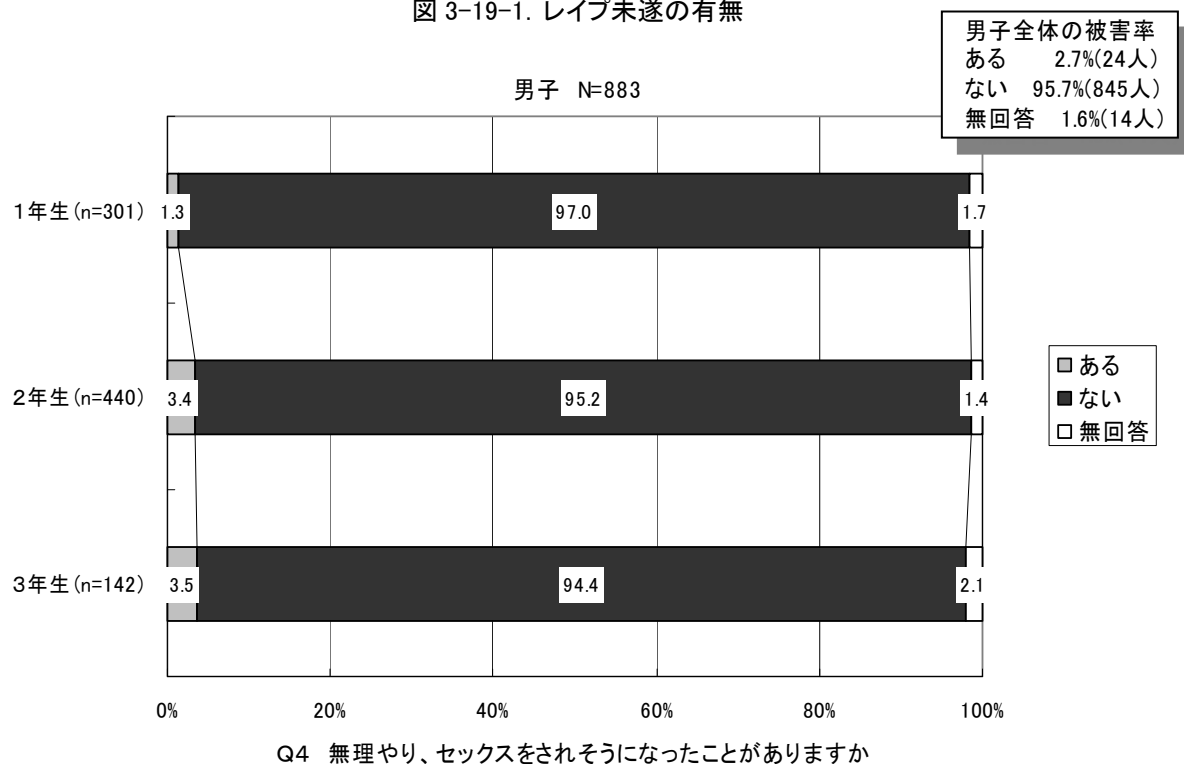
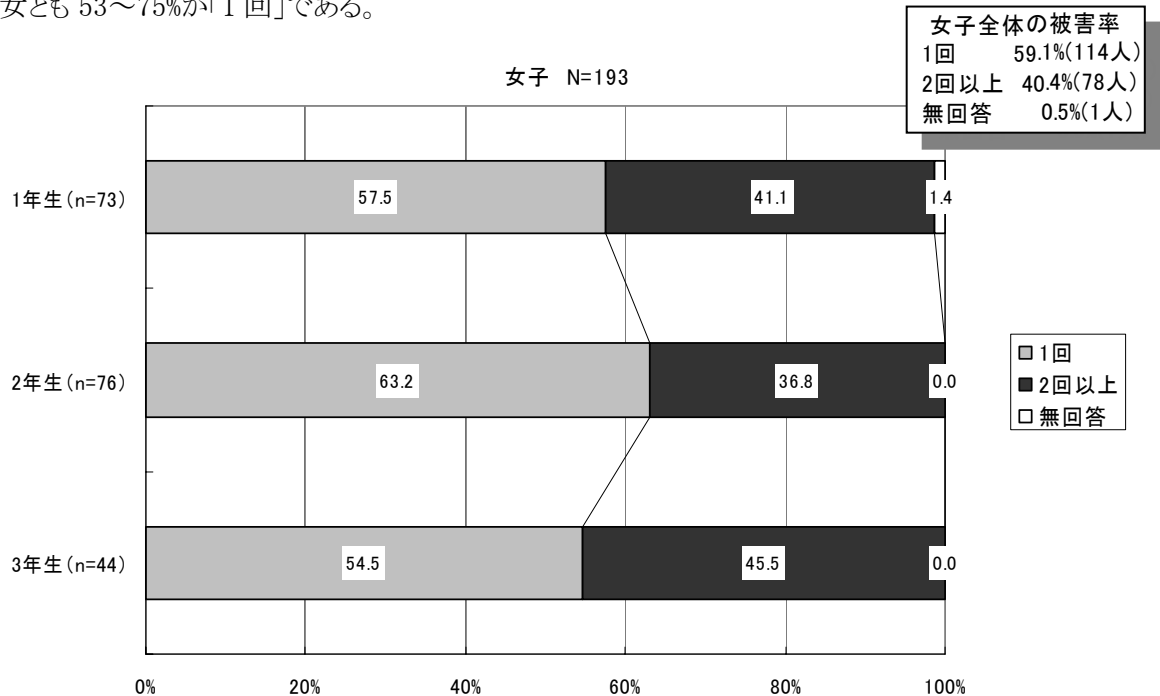


図 3-19-2. レイプ未遂の有無

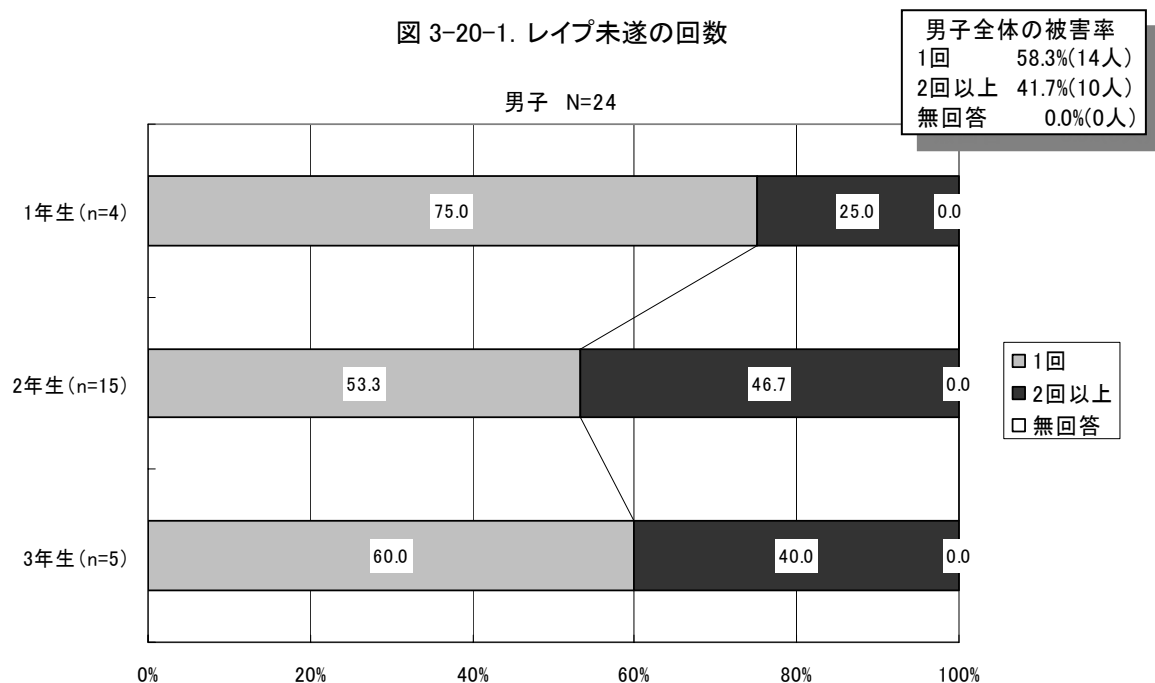
2-4-1) 被害の回数

「ある」と回答した者(女子 193 名、男子 24 名)を対象とし、その回数を尋ねたところ(図 3-20-1, 2)、男女とも 53～75%が「1 回」である。



Q4-1)それは、これまでに何回ありましたか。

図 3-20-1. レイプ未遂の回数



Q4-1)それは、これまでに何回ありましたか。

図 3-20-2. レイプ未遂の回数

2-4-2) 被害の時期

その時期を尋ねたところ(図 3-21-1, 2)、男子の総数が少ないため数値の解釈には注意が必要であるが、男女とも学年と共に「高校生になってから」が増加し、女子では 47%、63%、71%、男子では 0%、60%、100%となる。

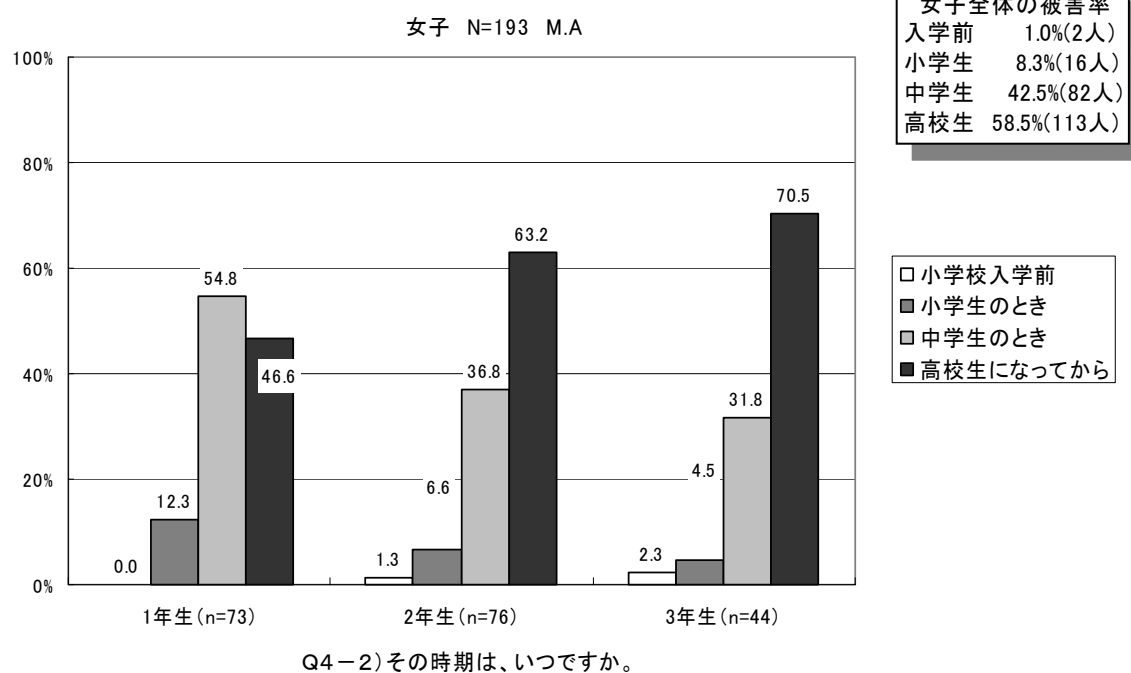


図 3-21-1. レイプ未遂の時期

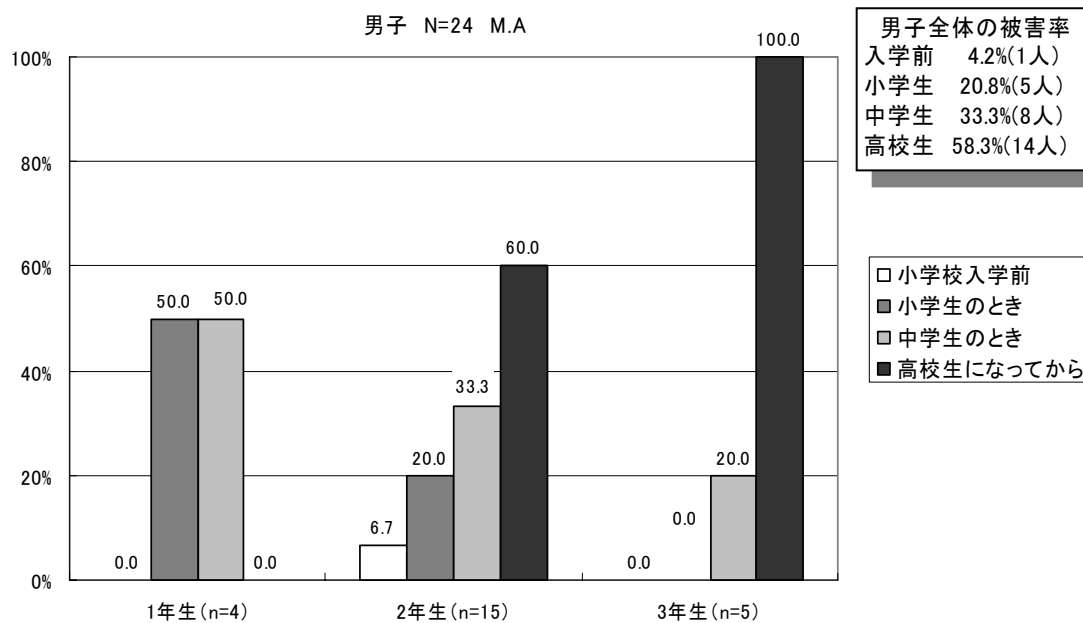


図 3-21-2. レイプ未遂の時期

2-4-3) 被害の相手

誰にされそうになったかを尋ねたところ(図 3-22-1, 2)、男女とも「友だち」(女子 26～39%、男子 25～50%)や「恋人」(女子 36～38%、男子 25～60%)が最も多い。女子では、「知り合い」が 26～29%が続く、さらに「知らない人」も 12～18%いる。

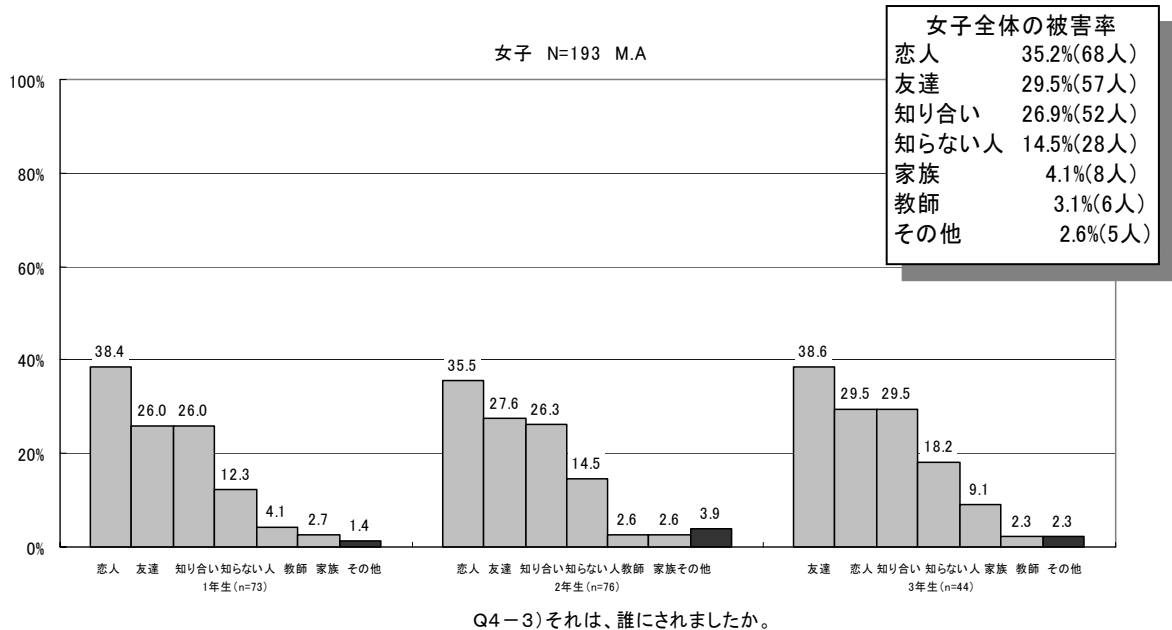


図 3-22-1. レイプ未遂の相手

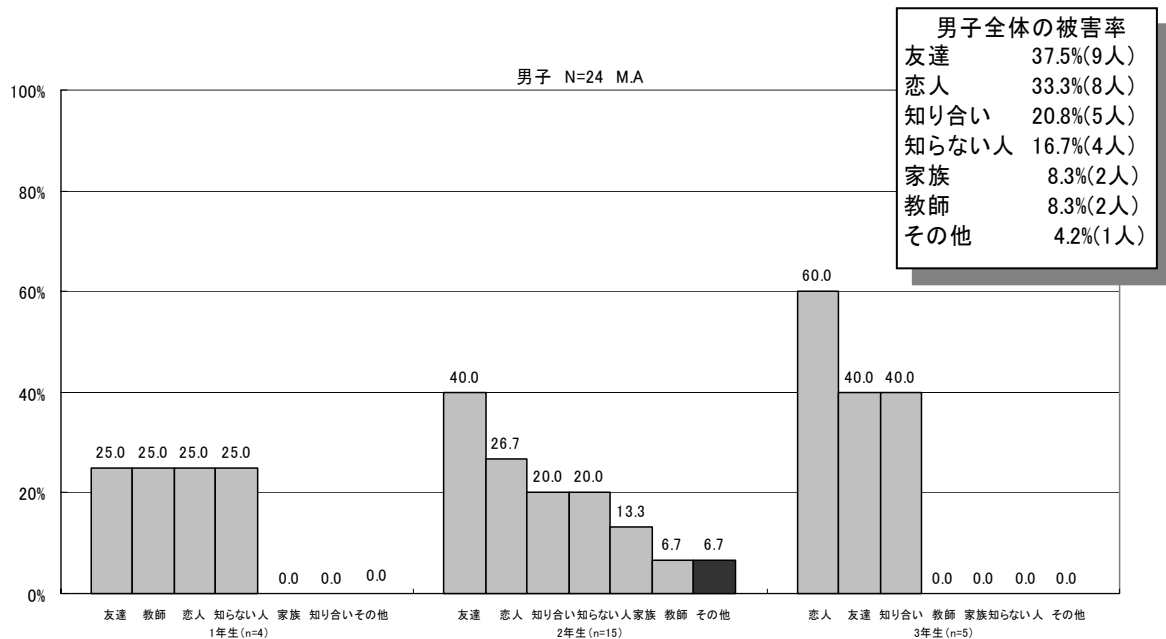


図 3-22-2. レイプ未遂の相手

2-4-4) 被害の場所

セックスをされそうになった場所を尋ねたところ(図 3-23-1, 2)、女子は「相手の家」が最も多く 45～59%であり、男子も「相手の家」が 33～60%であった。また、「その他」が 36～44%と続き、本研究で想定されなかった場所での経験が多い。

「その他」の内訳は、女子は「外」「公園」などの屋外が多く、ほかに「車の中」「ホテル」「カラオケ」などが記述された。男子の記述は2名のみと少なく、「公園」「車」が挙げられていた。

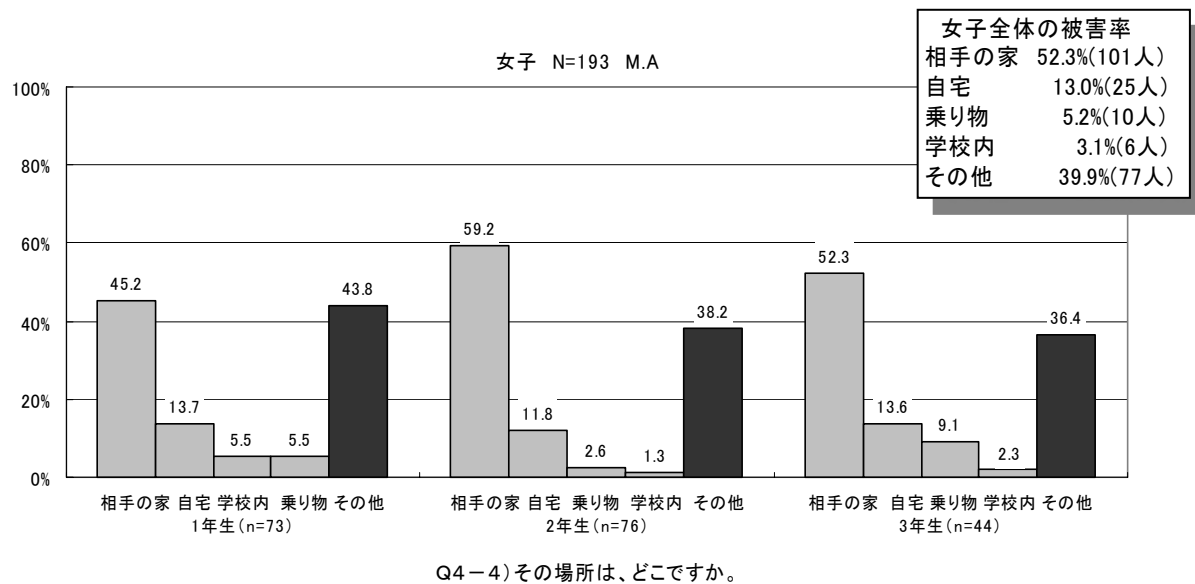


図 3-23-1. レイプ未遂の場所

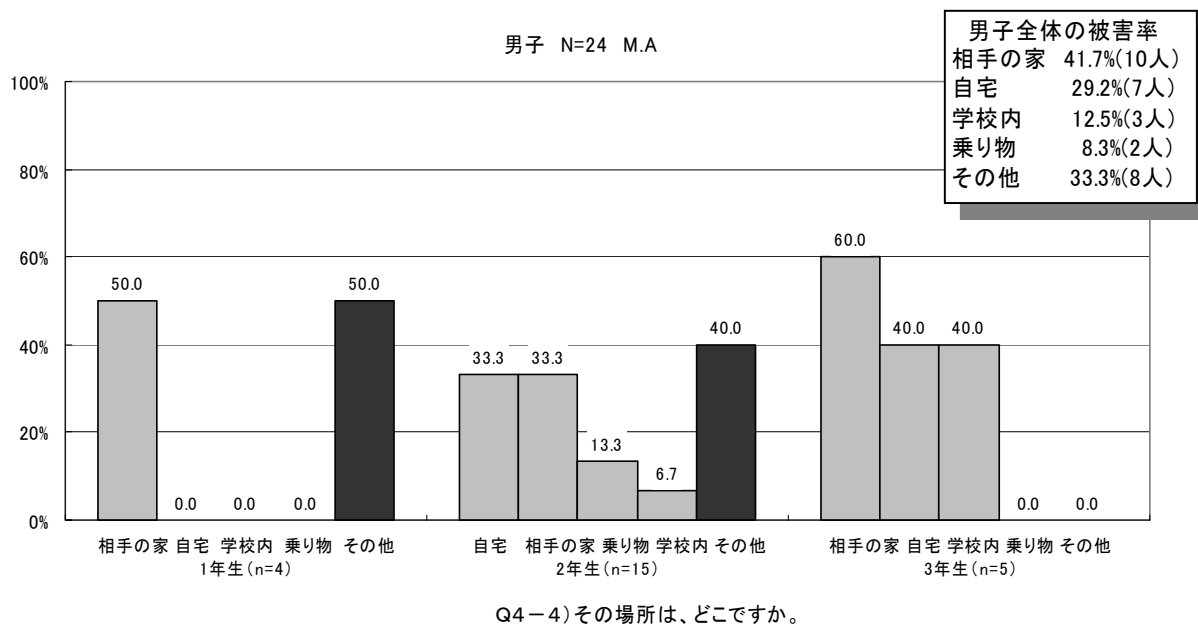


図 3-23-2. レイプ未遂の場所

5. レイプ 既 遂

問4－Q5. 無理やり、セックスをされたことがありますか

<結果概要>

- 男女別 被害率 : 女子 5.3%、 男子 1.5%
- 女子被害率 (N=1483) : 4% (1年生)、5% (2年生)、8% (3年生)
- 男子被害率 (N= 883) : 0% (1年生)、2% (2年生)、2% (3年生)
- 女子は、4～8%。学年が上がるにつれ、若干増加。
男子は、いずれも 3%以下。皆無ではない。
- 「セックスをされた」回数は、男女とも「1回」と「2回以上」で半々。
女子の1年生と3年生は、「2回以上」の者のほうが若干多い。
- 「セックスをされた」時期は、学年が上がるにつれ「高校生」が増加。
女子は、「中学生のとき」もいる。
- 「セックスをされた」相手は、男女とも「恋人」「友だち」「知り合い」といった親しい関係性をもつ者が多く挙げられた。
- 「セックスをされた」場所は、女子は「相手の家」、男子は「自宅」か「相手の家」である。

「無理やり、セックスをされたことがある」女子は、5%、20人にひとり。
相手は恋人や友だちであり、相手の家でセックスを強要されるデートレイプが多いことが明らかになった。

成人女性を対象にした調査(小西, 1999)での「性交された」被害率は8.3%であるのに対し、女子高校生は5.3%であった。

男子では、大学生を対象にした調査結果では0%であったのに対し(小西, 1996)、高校生男子は1.5%と、男子被害の存在を明らかにした。

2-5-0) 被害の有無

「無理やり、セックスをされたことがありますか」について、「ある」のは女子では 4～8%であるのに対し、男子では 0%(1 年生)～2%であった(図 3-24-1, 2)。

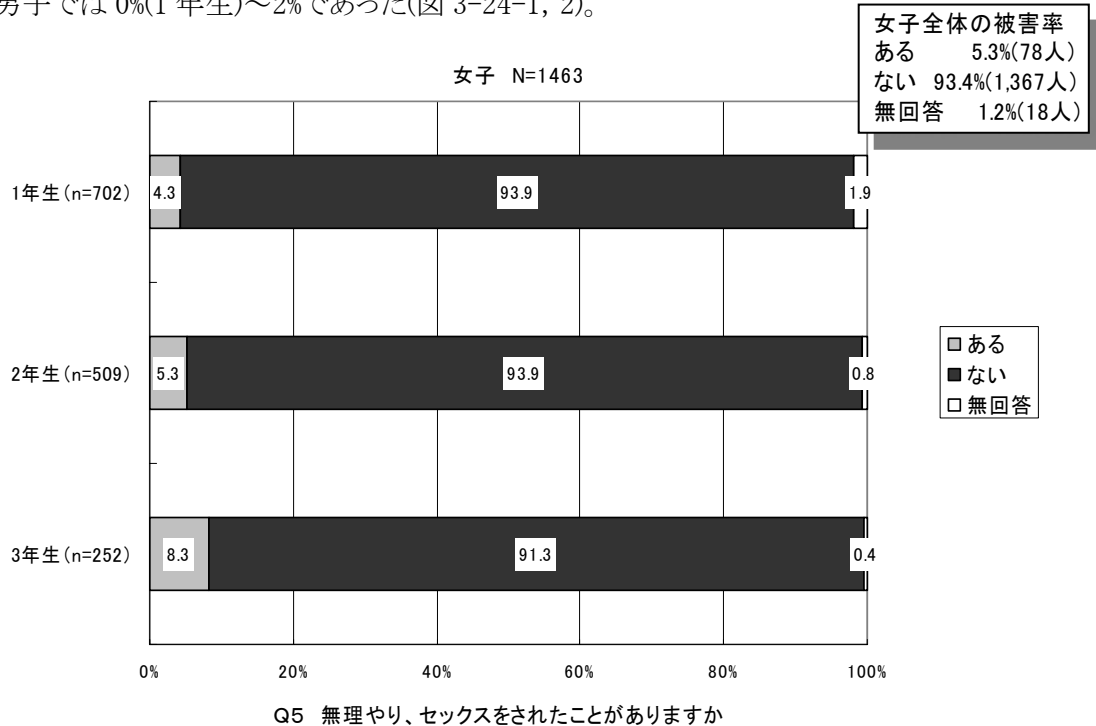


図 3-24-1. レイプ既遂の有無

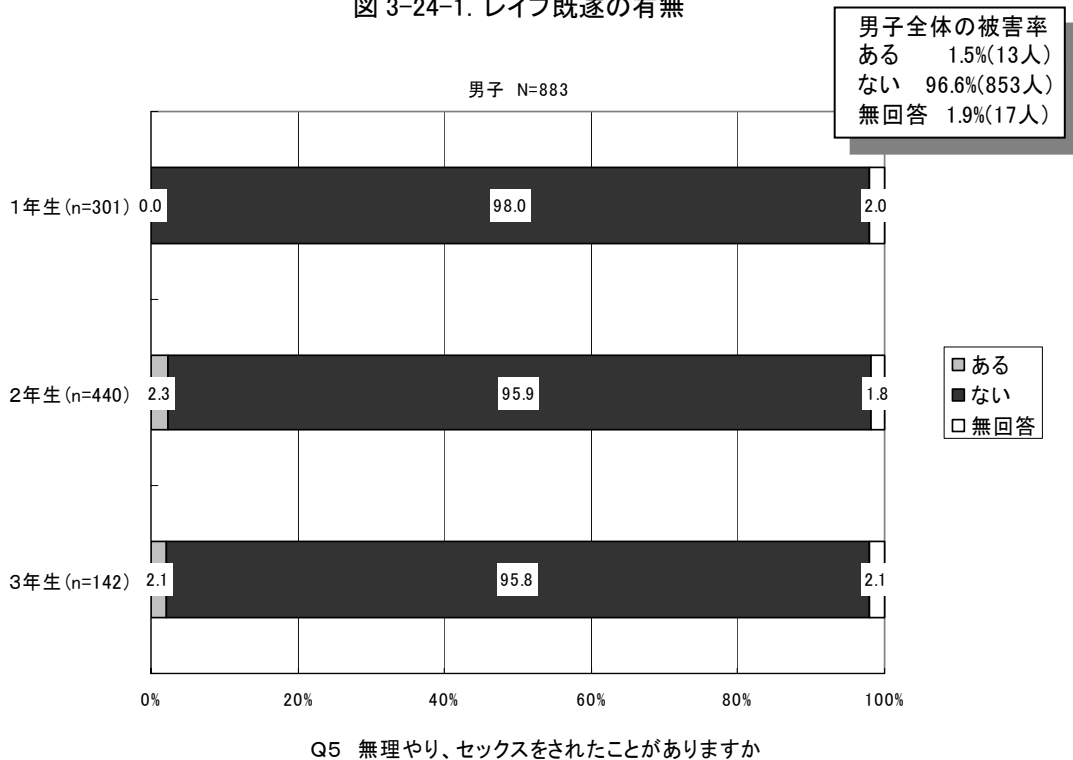
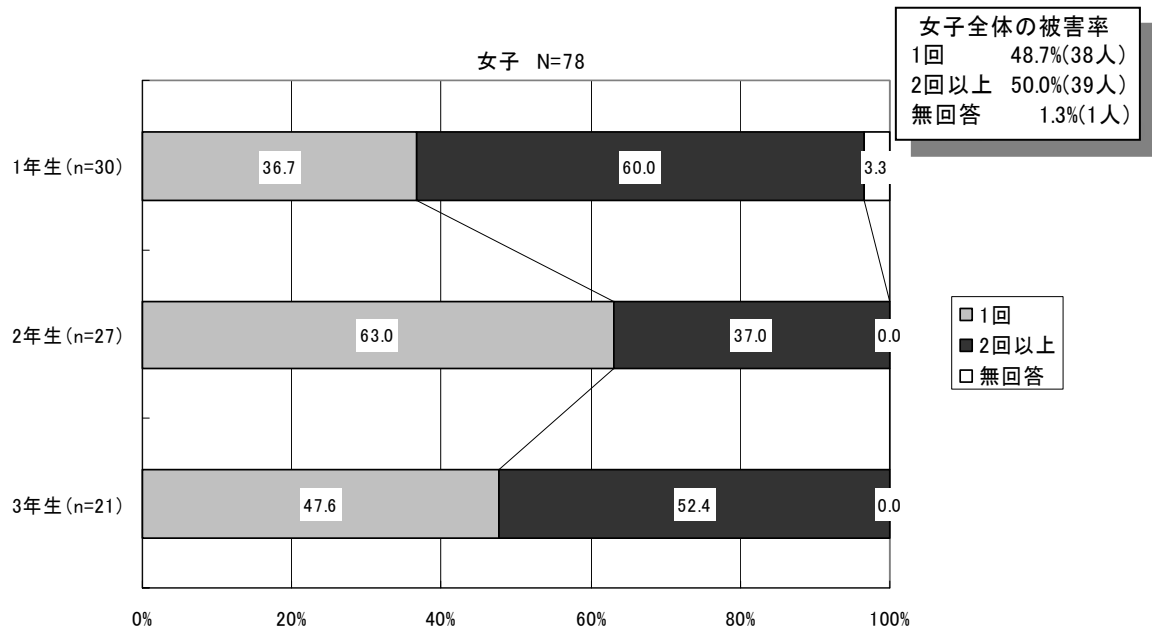


図 3-24-2. レイプ既遂の有無

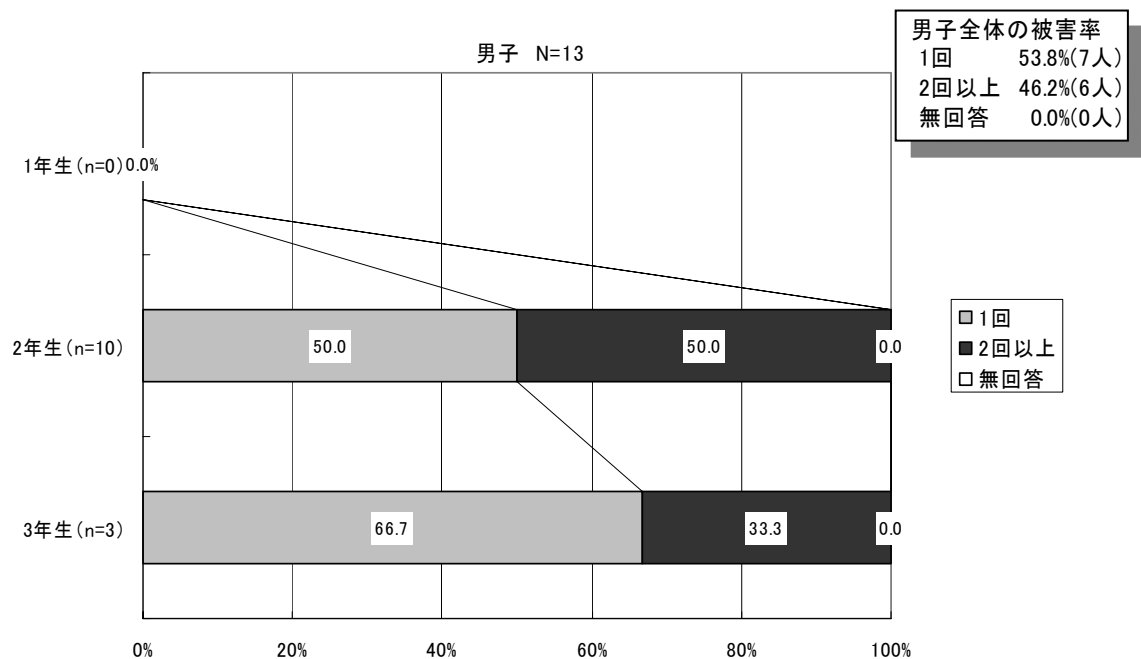
2-5-1) 被害の回数

「ある」と回答した者(女子 78 名、男子 13 名)を対象とし、その回数を尋ねたところ(図 3-25-1, 2)、女子では「1 回」は 1 年生および 3 年生でそれぞれ 37%、48%と半数をきる。2 年生では 63%である。男子は「1 回」が 2 年生で 50%(10 人中 5 人)、3 年生では 67%(3 人中 2 人)である。



Q5-1) それは、これまでに何回ありましたか。

図 3-25-1. レイプ既遂の回数

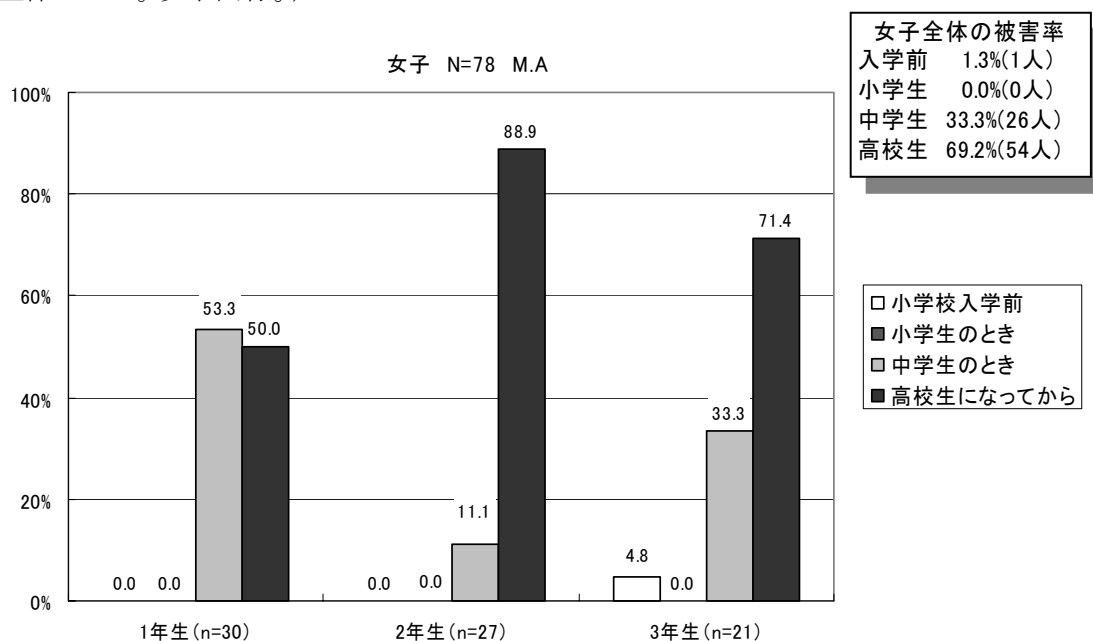


Q5-1) それは、これまでに何回ありましたか。

図 3-25-2. レイプ既遂の回数

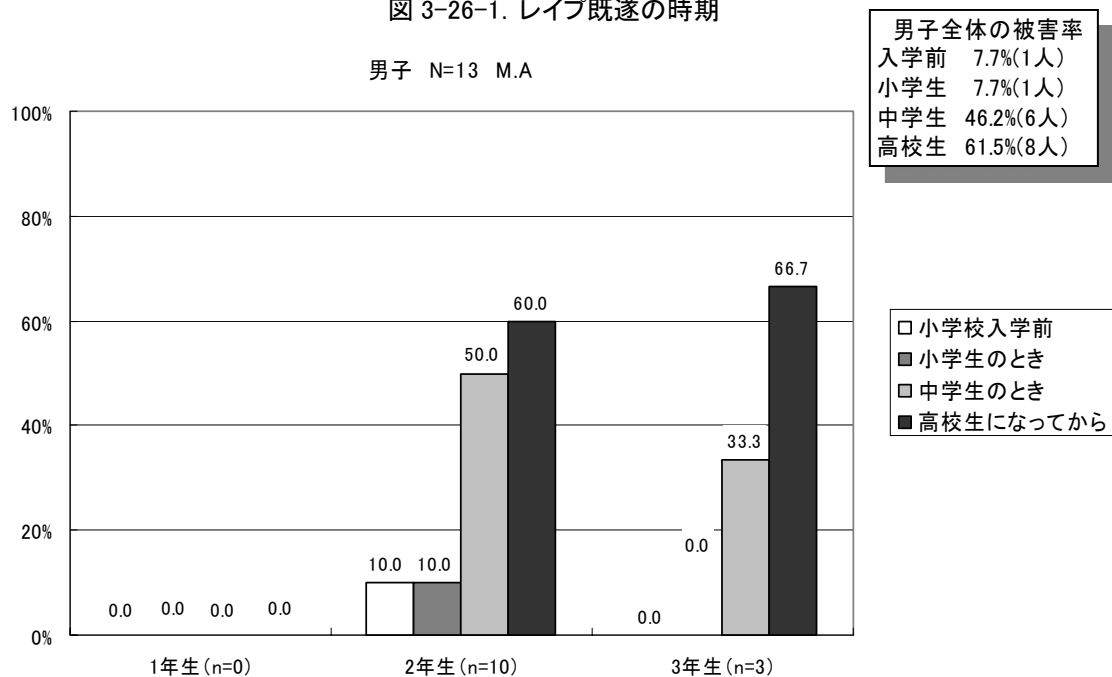
2-5-2) 被害の時期

その時期を尋ねたところ(図 3-26-1, 2)、総数が少ないため数値の解釈には注意が必要であるが、男女とも約 60%が「高校生になってから」である。「中学生のとき」も女子で 33%、男子で 46%いる。(数値は全体ベース。以下同様。)



Q5-2) その時期は、いつですか。

図 3-26-1. レイプ既遂の時期



Q5-2) その時期は、いつですか。

図 3-26-2. レイプ既遂の時期

2-5-3) 被害の相手

誰にされたかを尋ねたところ(図 3-27-1,2)、学年により多少異なるが、全体として男女とも「恋人」(女子 36%、男子 54%)が最も多く、次いで「知り合い」(女子 35%、男子 46%)、「友だち」(女子 30%、男子 15%)である。

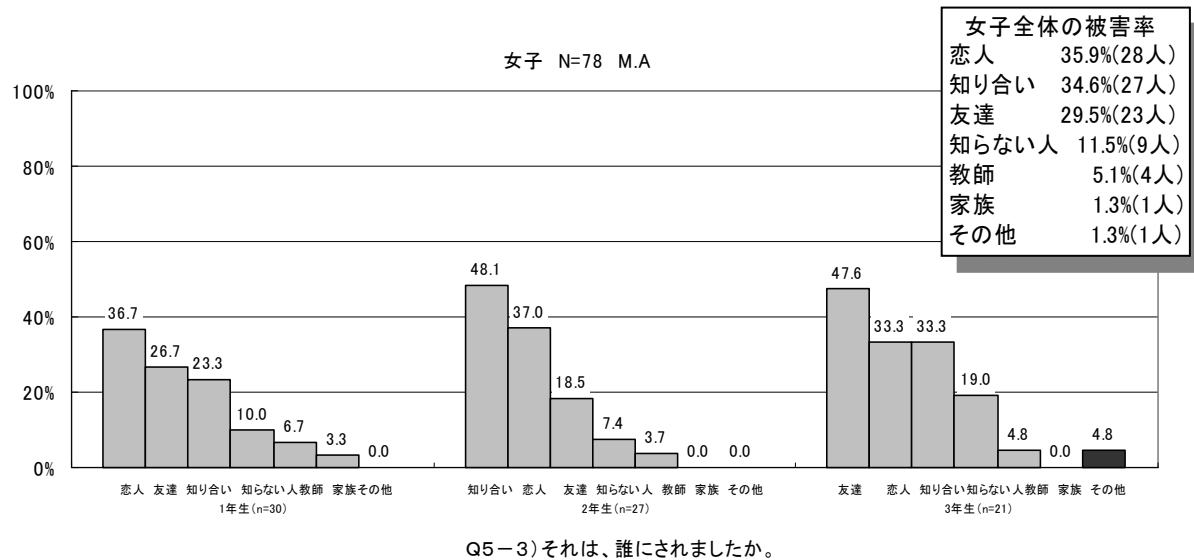


図 3-27-1. レイプ既遂の相手

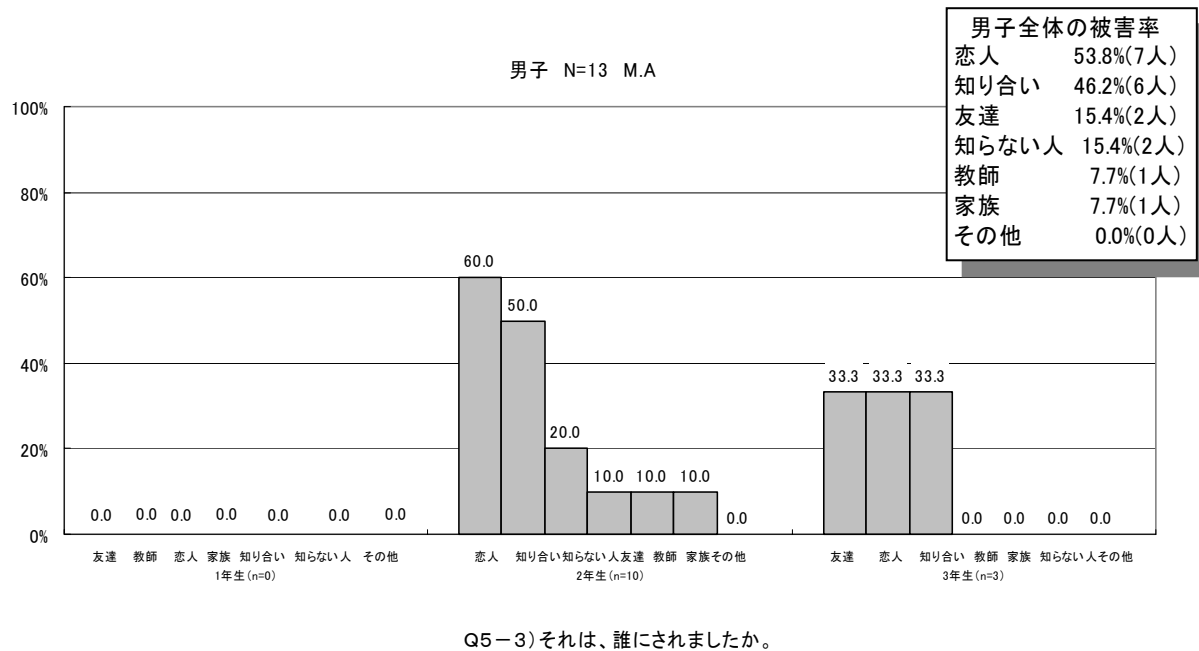
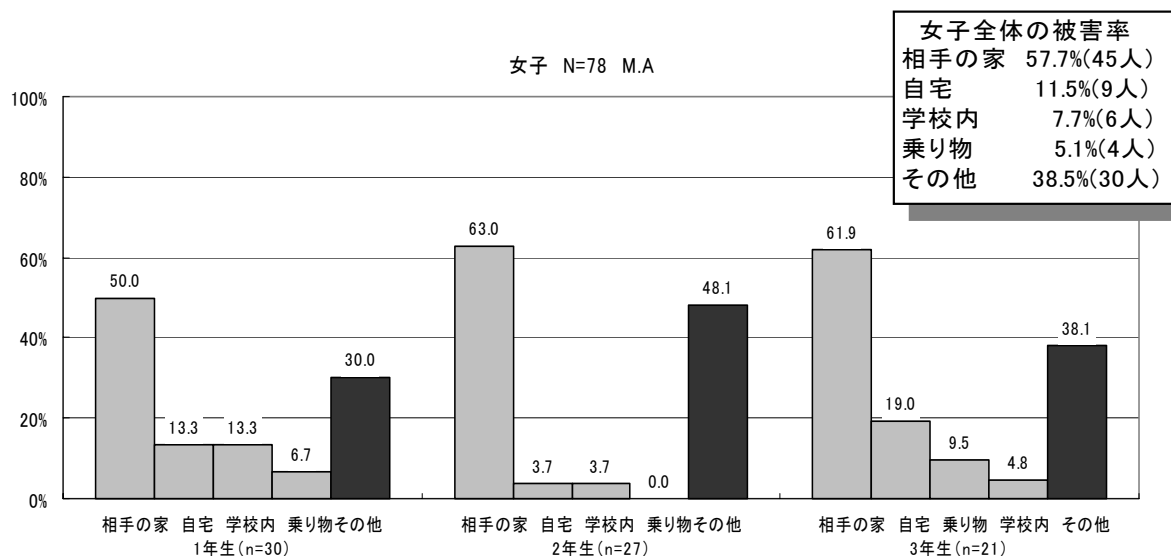


図 3-27-2. レイプ既遂の相手

2-5-4) 被害の場所

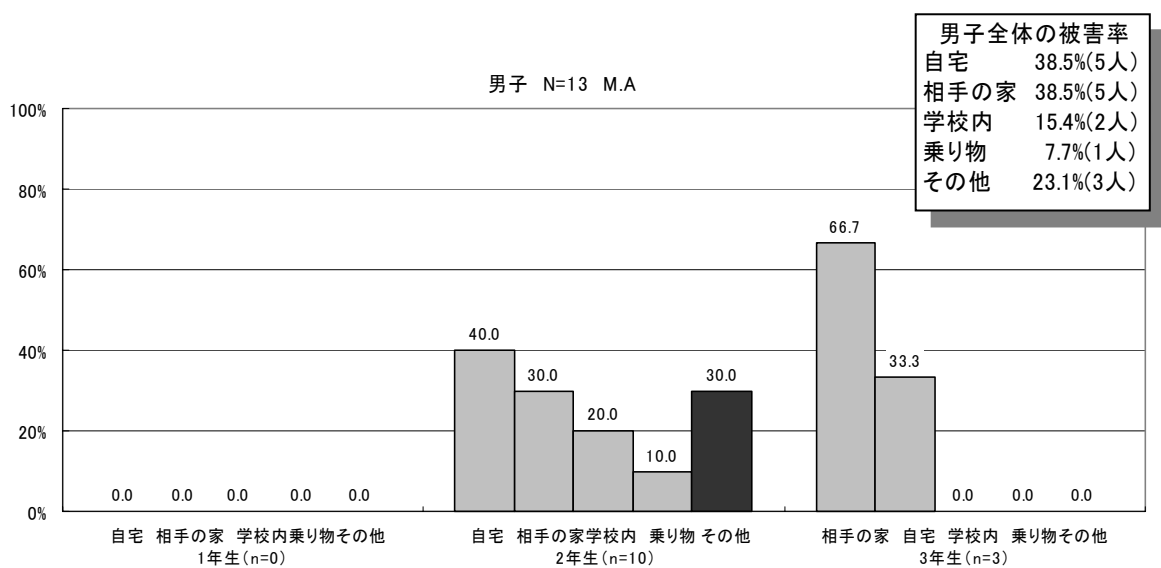
セックスをされた場所を尋ねたところ(図 3-28-1, 2)、女子では「相手の家」が 58%であるのに対し「自宅」は 12%である。一方、男子では「自宅」と「相手の家」が 39%と最も多い。女子では、「その他」が 39%で、本研究で想定されなかった場所での経験が多い。

「その他」の内訳は、女子は「外」「公園」などの屋外が挙がり、ほかに「ホテル」「車」などが少数あった。男子の記述は、なかった。



Q5-4) その場所は、どこですか。

図 3-28-1. レイプ既遂の場所



Q5-4) その場所は、どこですか。

図 3-28-2. レイプ既遂の場所

6. 情報ツールによる性暴力被害

問4－Q6. 携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで 性的にいやな体験をしたことがありますか

<結果概要>

- 男女別 被害率 : 女子 10.1%、 男子 2.4%
- 女子被害率 (N=1483) : 10% (1年生)、9% (2年生)、13% (3年生)
- 男子被害率 (N= 883) : 1% (1年生)、 3% (2年生)、 3% (3年生)
- 女子は、学年に関わらず約1割、男子はいずれも3%未満。
- 「いやな体験をした」回数は、男女とも6～10割が「2回以上」。
女子は、学年が上がるにつれ、「2回以上」が若干増加。

情報ツールによる性暴力被害は、女子のほうが多い。

自由記述から、携帯電話に性的な画像が一方的に送付されるといった内容と、出会い系サイトの利用により、金銭や性行為を強要されるなどの被害があることが伺えた。

2-6-0) 被害の有無

「携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで性的にいやな経験をしたことがありますか」について、「ある」と回答したのは、女子が1割程度、男子は5%未満であった。（図 3-29-1, 2）

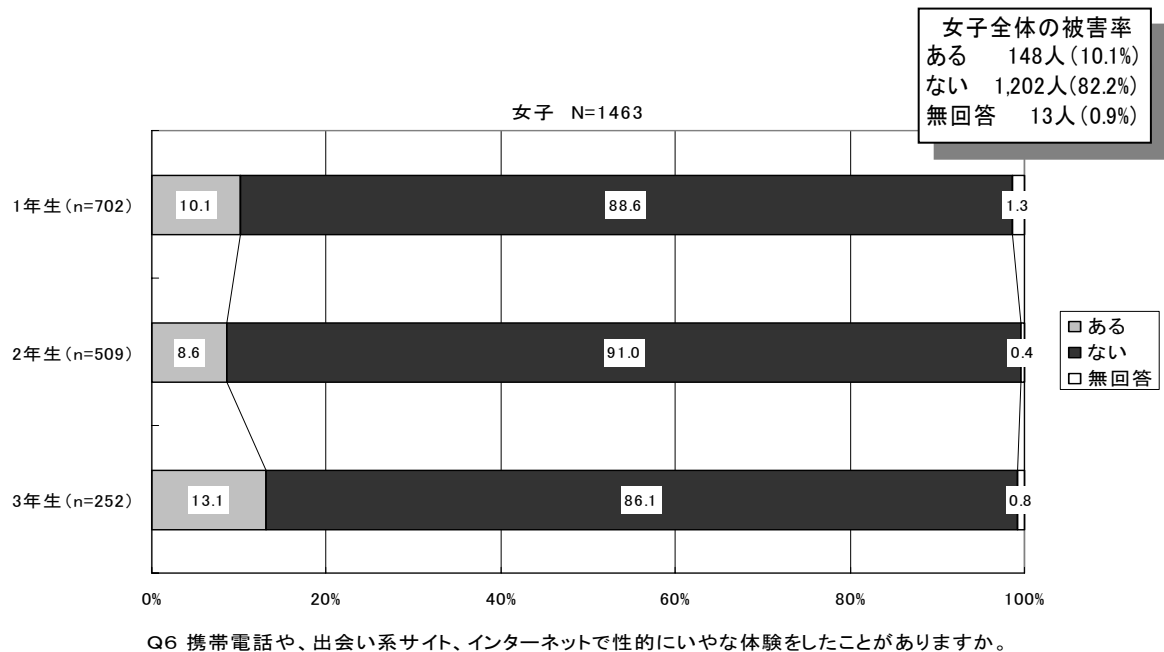


図 3-29-1. 情報ツールによる性暴力被害の有無

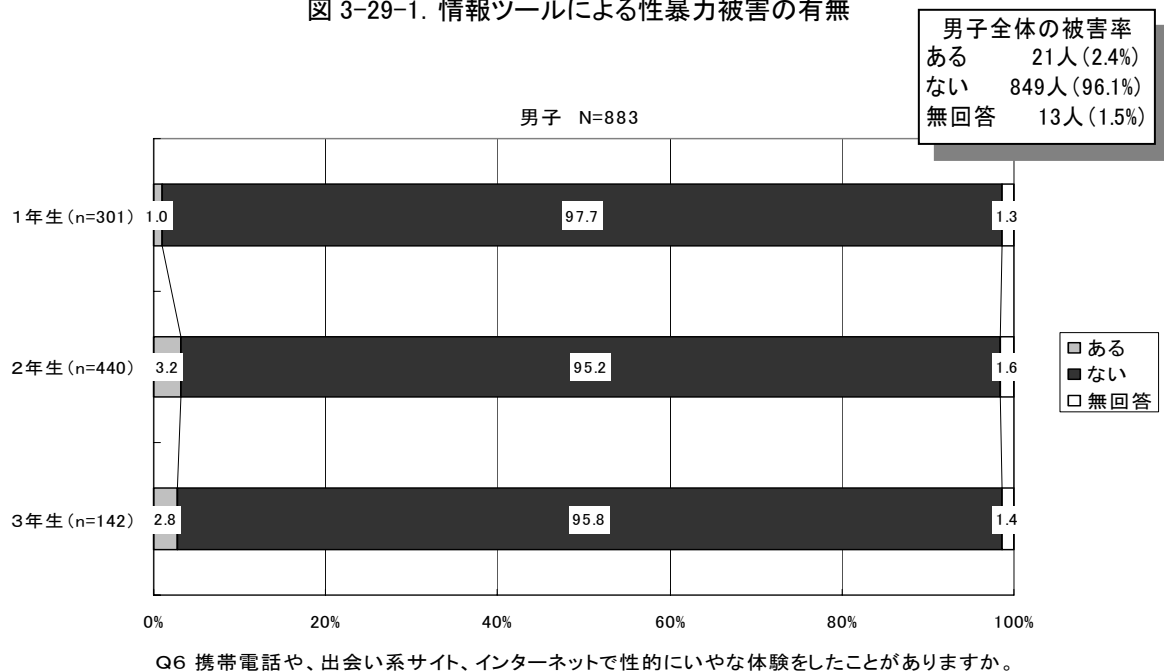


図 3-29-2. 情報ツールによる性暴力被害の有無

2-6-1) 被害の回数

「ある」と回答した者(女子、男子)を対象とし、その回数を尋ねたところ(図 3-30-1, 2)、「2回以上」は、女子は1年生で 66.2%、2年生で 63.6%、3年生で 72.7%、男子は 100.0%、78.5%、75.0%であった。

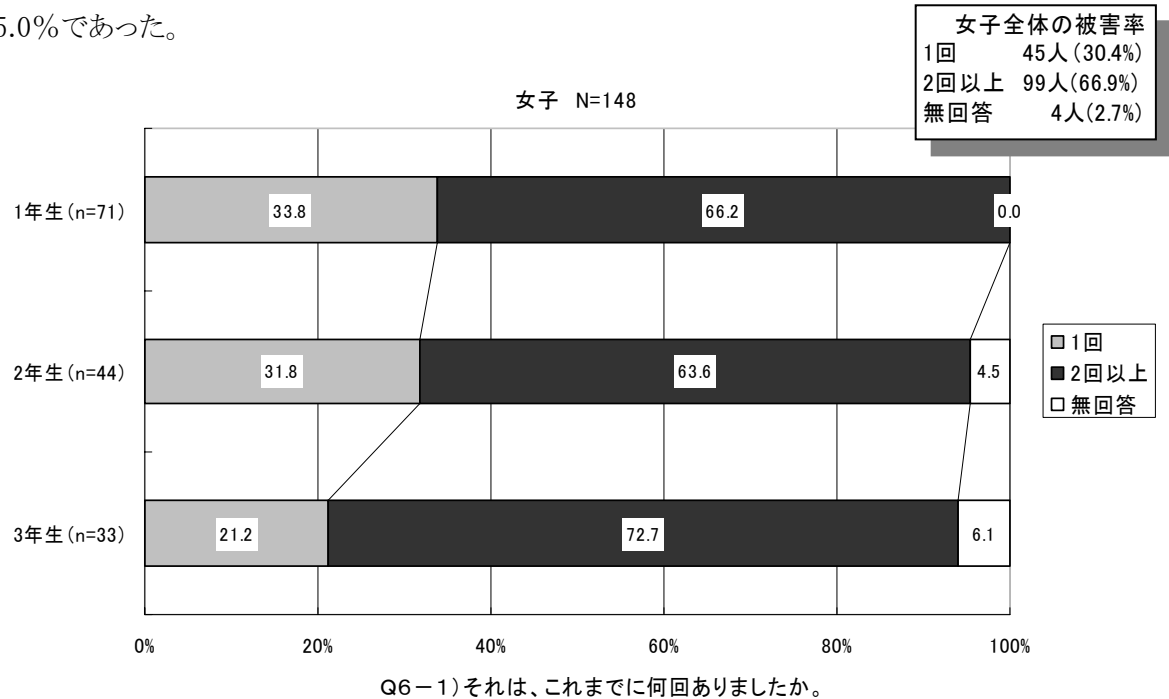


図 3-30-1. 情報ツールによる性暴力被害の回数

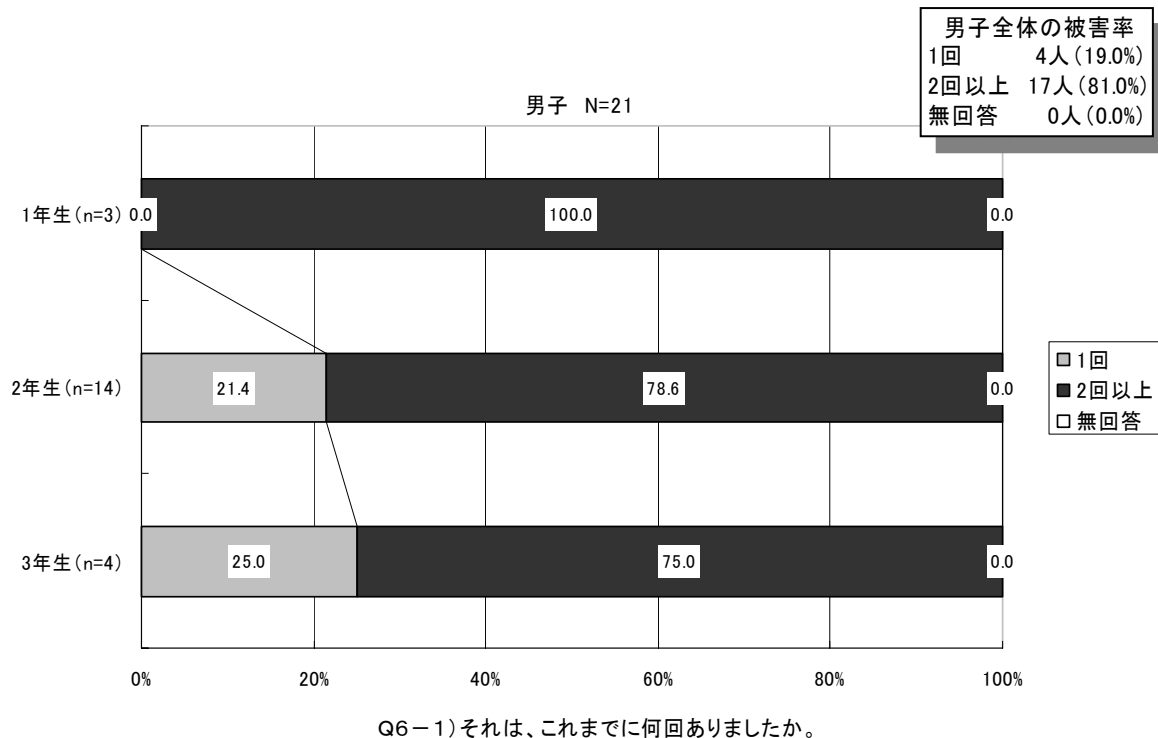


図 3-30-2. 情報ツールによる性暴力被害の回数

2-6-2) 携帯電話や、出会い系サイト、インターネットによる性暴力被害に関する自由記述

Q6「携帯電話や、出会い系サイト、インターネットによる性的ないやな体験」について、自由記述による回答を得た。

記述された内容は、おもに携帯電話への「迷惑メール」であり、携帯電話のメールや画像つきメールに、一方的に不快な性的情報が送付されるというものであった。例えば、セックスを求める内容や性器の画像などである。また、自ら「出会い系サイト」といわれる交際や性行為を目的とした情報サイトを通じ、出会ったあとで性行為を強要されたり、金銭を脅迫されたといった内容も記述された。「出会い系サイト」の利用は、恋人を求める目的で自ら選択した者だけでなく、一般サイトと間違えて接続してトラブルとなった者もいる。パソコンのインターネットを利用したものは、少なかった。

被害内容を分析すると、加害者は「見知らぬ人」など面識のない者がほとんどであった。一部、「メル友」というメール通信上の友人も、加害者に挙げられていた。面識のある相手からの性暴力被害の記述はなかった。

被害者は、「加害者から一方的に性暴力被害を受けている」と感じており、また「突然」で「反復的」な被害を受けていた。性行為の強要だけではなく、金銭的な損害を受けた例もあった。

全体的に、パソコンや雑誌等のメディアを通じたものよりも、携帯電話を利用して受けた被害が多く報告された。そして、不特定の人からの頻回な被害を受けていることが、特徴的といえる。

3. 最も傷ついた被害体験と出来事インパクト

性暴力被害体験のうち、「もっとも傷ついた」性暴力被害を1つ同定し、その被害による心身への影響の測定には、改訂版出来事インパクト尺度（Impact of Event Scale-Revised：IES-R）を用い、点数化した。

IES-Rは、外傷後ストレス症状に関する侵入症状、回避症状、過覚醒症状の、過去1週間の症状の強さを評価するものである。各症状に該当するほど得点が高くなる。PTSD（外傷後ストレス障害）のスクリーニングのためのカットオフは、24/25点とすることが推奨されている（Asukai, N., 2002）。

今回の調査では、「もっとも傷ついた」性暴力被害による IES-R 得点の分布（男女合計）は、以下のとおりであった（図 3-32）。

IES-R 得点が 25 点以上の者も少なからず見られるが、これらすべてが PTSD などのストレス障害に該当するわけではない。回答者が同定した性暴力被害の内容を具体的に把握し、個々の症状について慎重に検討することが必要である。

ただし、IES-R 得点が非常に高い者もいることから、「もっとも傷ついた」性暴力被害による心身への何らかの影響があることが示唆される結果である。

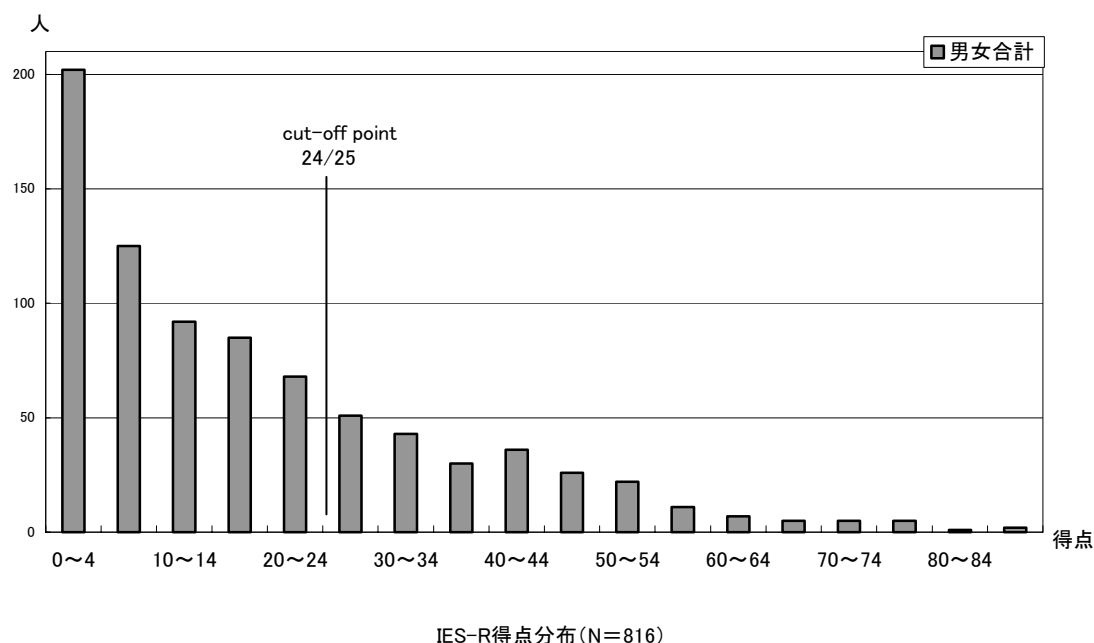


図3-32. 「もっとも傷ついた」性暴力被害についての出来事インパクト

4. 自由記述の分析

性暴力被害や本調査に関する自由記述の内容を分析する。

自由記述は、調査票の最終頁に「最後に、性的被害について、どのようなことでもいいので、ご自由にお書きください。このアンケートへの感想や、ご意見でもけっこうです。」と教示し、記述欄を設けた。

1) 自由記述の回答者数

自由記述欄に何らかの記述をした者は、890 名(女子 584 名、男子 306 名)であり、全体の約4割であった^{※3}。

そのうち、「特になし」と記載された 76 票(女子 27、男子 49)と、ひやかしと見られる回答(男子 10)、途中までの記述 1(女子 1 部)の計 87 票部は、分析対象からはずし、それらをのぞいた 803 票(女子 556 票、男子 247 票)を有効回答とした。

2) 自由記述の分析方法

すべての記述は、内容ごとに分類し、カテゴリー化した。例えば、1 票の自由記述において、自らの性暴力被害体験、それゆえの心身の反応、そして現在の性暴力被害についての意見などが記述されていた場合は、その記述を3つのカテゴリーに分類した。記述の際の文脈を損なわぬよう、必要に応じて研究者が補記したほかは、記述された表現のままとした。

自由記述の分析においては、回答者の記述した意味を的確に把握し、文脈やニュアンスを損なわぬように留意する必要がある。また、記述された文章の解釈過程が重視される。

本節では、自由記述の詳細な内容分析ではなく、高校生の性暴力被害の実態をより現実的に把握するために、アンケートによる定量的データを補足するものとして、自由記述を活用する。また、性暴力に対する高校生の「声」を聞くことにより、高校生にとっての性暴力被害を理解する手がかりとしたい。

3) 自由記述の内容 ① 性暴力被害に関するもの

記述内容は、教示どおり、性暴力被害に関するものと、本調査に関するものが含まれていた。

^{※3} 自由記述欄への回答は、学校によって大きな差があり、調査実施時間などの物理的な制約が影響していた可能性がある。また、調査を実施した学校や教員が、性暴力被害に関する教育実践を行っているかどうか、回答内容や回答量に反映していると考えられる。

性暴力被害に関するものとして、自らの被害体験や性暴力被害に関する憤りや恐怖感、あるいは社会に対する提言などがあり、また本調査に関するものには、アンケート調査に対する意見や要望などが記述されていた。記述はおもに女子によるものであった。

3-1) 性暴力被害に関する記述

本調査票の性暴力被害項目(問4 Q1～Q6)に該当する記述例を、いくつか挙げる。
下線部は、引用者による。

(1) 言語的性暴力被害

- ・ 友達や知り合いに体型のことについていろいろ言われるのは本当に傷ついていやでした。(1年女子)
- ・ 自分の体についてからかわれるのが、スゴイショックです。(中略)だから、からかわれる体をなおしたいし、言われる話題には絶対ふれたくないし、話したくない。(1年女子)
- ・ よく『胸が小さい』とか言われるけど、気にしているのでやめてほしい。(1年女子)

自分の体型、胸の大きさなどについて言われたという女子の記述が複数あった。

ほかにも、親から「太っている」と言われたことや(2年女子)、アルバイト中に酒に酔った客から「セクハラ的なコトを言われた」(2年女子)などが記述されていた。

友人・知り合い・家族などの身近な人によるもの、またアルバイト先の客など他人から言われたことなどで、傷ついたり、強いショックを受けている。

また、体についてからかわれることで、「(その)体をなおしたい」と思いつめたり、「言われる話題には絶対触れたくないし、話したくない」とその話題を回避する者もいた。このように、言語的性暴力が心理面に強い影響を及ぼしている例もみられた。

(2) 視覚的性暴力被害

- ・ 登下校中に男の人から性器をわざと見せられました。(中略)ほんとにショックで次の日から頭からはなれませんでした。今もまだ頭の中にその光景が残っています。もう絶対こんな被害にはあいたくないです。(1年女子)
- ・ 学校帰りにマスターベーションをしている男性を見かけました。それを見たときにはとても気持ちが悪くなりました。(1年女子)
- ・ 私が一番ショックだったのは、小学校のときに公園で遊んでいた時、いきなり変な人が来て、ズボンのチャックをあけたことです。(1年女子)

路上や公園で、男性から性器やマスターベーションをしているところを見せられたという女子の記

述が複数あった。

学校の登下校中での被害体験の記述が多かった。また、幼少期の体験の記述も複数みられた。

ほとんどが、「こわい」「気持ちが悪い」といった恐怖・嫌悪感を感じており、「声のでなくてこわい思いをした」(3 年女子)、「恐くなって泣きそうになり、その場から動けなくなる」(2 年女子)など、声のでない、足がすくんでしまうといった反応もみられた。

また、なかには「見せられただけだったからよかったけど(後略)」(2 年女子)、「友だちと一緒にだったから、少しコワイって思ったぐらいだった」(1 年女子)という記述もみられたが、「(その場面が)頭から離れない」というように、見た場面の記憶がいつまでも消えなかったり、幼少期の体験であっても現在まで強いショックを受けている事例も複数みられた。

(3) 強制的身体接触

- ・ 電車を降りるときにおじさんにおしりを触られたことがある。気持ち悪い。満員電車には乗りたくない。(1 年女子)
- ・ はじめは「ただ手があたっているだけかな?」と思ったけど、どんどんひどくなってきてすごくきもちわるかったです。電車の中だから恥ずかしくて「やめて」といえなくて学校の駅につくまでずっとがまんしていました。(1 年女子)
- ・ 私は何度かチカンにあったことがあります。本当に嫌でした。こわかったし、その人をなぐってやりたいくらいのいかりがありました。(1 年女子)

強制的身体接触に関しては、電車内での痴漢被害について女子の記述が複数あった。

「高校生になって電車を利用するようになってから」(1 年女子)など、高校入学後の通学時での被害が複数例、報告された。

被害に対する感情としては、気持ち悪さや羞恥、怒りなどが記述されていた。羞恥や恐怖などにより、周囲に助けを得にくい状況にいることも伺えた。それにより、「電車には乗りたくない」というように、電車を利用することへの抵抗感や回避も生じる例もあった。

また、強制的身体接触は、電車内での痴漢被害だけではなく、路上での被害も報告された。

- ・ 知らない人に抱きつかれた。(2 年女子)
- ・ (20 代くらいの男性に)手首をものすごい力でつかまれ、連れて行かれそうになったので、手首を大人の男の人、あるいは自分より大きめの人につかまれたり、ひっぱられたりするとこわくなります。(1 年女子)
- ・ 車に乗せられそうになったことがあります。車の中から数人の若い男の人たちが声をかけてきて、無視して友達と歩いていたら、車から男の人たちが出てきたという体験があります。(3 年女子)

強制的身体接触は、身体を触られたり、抱きつかれるというほか、「連れて行かれそうになった」「車に乗せられそうになった」というような暴力行為も付随しており、さらなる被害の危険性も伺えた。

被害による精神面への影響も深刻な様子が示された。何らかの強制的身体接触を受けた女子の多くが、「(声をかけられて胸を触られたことは)誰にも言っていないし、これから先も誰にも話したくありません。このことが起こったとき、とても怖かったです」(1年女子)、「(見知らぬ人に無理やり体を触られ)ひどく傷つき、男性みんなを怖がるようになり、とても不快な気持ちになった」(1年女子)というように、強い恐怖感と不快感を感じている。男性全般へ恐怖を感じるようになったという事例も、数例みられた。

(4)レイプ

レイプに関する体験も記述されていた。なかには、学校内で無理やりセックスをされそうになったという例もあった。恋人からセックスを無理強いされるという記述が、数例みられた。

被害による精神的反応として、「恐ろしくて何かなんだかわからないくらいにショックを受けていました」(1年女子)、「今でも思い出すことがあって、体がふるえたり、人に近づくのがすごくこわくなったりする」(2年女子)など、被害時の強いショックや恐怖感だけではなく、被害後も思い出したり、身体反応が出るなどの症状を呈する例もあった。

(5)情報ツールによる性暴力被害

- ・ (出会い系サイトを)利用してお金をもらったりしていましたが、むりやりされた時には、悲しくおろかだと思いました。(3年女子)
- ・ メールで、H写真付きが送られてくるのはとても嫌です。その後、気分が悪くなります。
(1年女子)
- ・ 自転車に乗っていると、おじさんがけいたいカメラでパンツ(の写真)をとってきたりする。
(1年女子)

出会い系サイトを利用したときの性行為の強要など、ツールや情報の活用に伴う性暴力被害のほか、性的な写真や画像による被害が記述された。性的な写真が一方的に送付されてきたり、下着の写真が撮られるという被害などが起きている。

3-2)親しい関係における性暴力に関する記述

交際している恋人、友だち、父親、親戚、教師など、親密な関係や親しい関係性における性暴力被害についての記述も、複数例みられた。いずれも、女子の記述であった。

交際している恋人から、性行為をしつこく求められたり、女子の性器や体について気にしているこ

とを何度も指摘されることを不快に思うという事例があった。また、恋人からの性行為の強要は、嫌悪感や不快感だけではなく、「セックスを断れない」ことへの心理的負担としても記述されていた。

友達、父親、親戚からの何らかの性暴力被害の事例もあった。「誰にも言えない」と、被害について相談できずにいる者が多い。

教師から、体を触られたり、言葉による性暴力被害を受けたという事例もあった。

3-3)性暴力被害後の心身の反応に関する記述

性暴力被害体験に伴うさまざまな心身の反応が記述された。

多くが、性暴力被害や大きなショックのあとに生じる典型的な反応であった。被害時だけではなく、被害後も長期にわたり苦痛を感じている事例も多く、精神面・身体面への影響の深刻さが伺える。

反応ごとに、いくつか記述を例に挙げる。

【ショック(心理的衝撃)】

- ・ 「(男性から性器を見せられて)そのときは、ほんとに信じられなくて、ほかの人が被害にあったことは知っていたけど自分が被害にあうとか思わなくて…ほんとにショックで次の日から頭からはなれませんでした。今もまだ頭の中にその光景が残っています。」(1年女子)
- ・ 「(男性から性器を見せられて)友人は私よりひどく傷ついていたようで、何日も泣いていました。」(1年女子)
- ・ (レイプされそうになり)とても恐ろしくて何がなんだかわからないくらいにショックを受けていました。(1年女子)

【怒りと恐怖】

- ・ マジやめてほしい！！キモチわるいし。(2年女子)
- ・ (痴漢にあつて)本当に嫌でした。こわかったり、その人をなぐってやりたいくらいのいかりがありました。それからというもの、少しでも男性がよってきたり、後ろに立っていたり、近くを通ったりするときに、ビクビクしてしまうようになりました。(1年女子)
- ・ ちかんがすごく多い。(中略)さわられるのはもちろん、足などを見られるだけでも嫌な気になる。(2年女子)

【回避】

- ・ (電車内でおしりを触られたり、体を接触させてくる男性がいるので)満員電車には乗りたくない。(1年女子)

【自責感】

- ・ 幼いとき(小学校入学前後)に知らないおじさんに体をさわられたことがありました。当時は何をされたのかわかっていませんでしたが、年齢があがるにつれて、理解し、そのことを思い出すとゆううつで、少し気分が悪くなります。理解し始めた頃は、とても恥ずかしく、自分を責めたりしました。(2 年女子)

【対人関係への影響】

- ・ (レイプ被害に遭ってから)今でも思い出すことがあって体がふるえたり、人に近づくのがすごくこわくなったりする。(2 年女子)
- ・ (見知らぬ人に無理やり体を触られて)ひどく傷つき、男性みんなを怖がるようになり、とても不快な気持ちになった。(1 年女子)

【相談できない】

- ・ (知らない人から胸を触られたことは)誰にも言っていないし、これから先も誰にも話したくありません。このことが起こったとき、とても怖かったです。(1 年女子)
- ・ (被害にあって)誰にも言えなくて、本当に怖い……って思った。(中略)誰にも言えないのは、はづかしいからです。同じような体験をした人になら、話せるような気がする。」(2 年女子)
- ・ (友人がレイプされたが)学校、友人、親に知られたくないといって、結局泣き寝入り状態だった。(中略)そういう人は友人のほかにもいっぱいいると思います。「勇気を出して」なんて、体験をしていない人が言ったら、人事のように聞こえるようにも思います。(1 年女子)

3-4) 性暴力に関するコメント

性暴力被害体験についての記述は女子のみであったが、性暴力に関するコメントは、わずかなが男子の記述もあった。

男子は、加害者を非難する感情的な記述や社会倫理に関するコメントが多かった。

- ・ 「性的被害は心身ともに傷つける最低の行為だ。僕は、やった方は死刑になっていいと思う。」(2 年男子)
- ・ 「実際にそんな被害にあったことのある人たちはとても気の毒だと思ひ、されていやなことはするべきではないと思いました。」(3 年男子)

女子のコメントは、全体的に、自分自身の体験や日常の意識にもとづく記述が多い傾向があった。性暴力被害体験の有無に関わらず、性暴力を「身近」と記述されたものは多く、「被害にあったことがないが、電車に乗ったときは、常にまわりを意識して神経をとがらせているじぶんもいる」(1年女子)のように、日常生活のなかで性暴力を意識せざるを得ない様子も伺えた。

性暴力について、精神面への深刻な影響についての記述は、複数例みられた。

- ・ 「性的被害は、精神的にも大きなダメージがあると思う。また、それでトラウマになってしまうこともあるだろうと思う。一人の人生をくるわすくらい持っているだろう」(1年女子)

また、「性的被害が少しでも減っていき、なくなってくれればいいと思う」(1年女子)のように、性暴力撲滅の願いが多く記述された。

性暴力被害を減らすための具体的な要望としては、学校や警察、社会に対して挙げられていた。

学校に対しては、「(性暴力被害について)もっと徹底した勉強を教えるべきです」(1年女子)、「コミュニケーションや、人との接し方を教える場をもっと作ったほうがいいと思う」(3年男子)のように、性暴力被害に関する教育や、コミュニケーション・スキルの実践などが挙げられた。

警察に対しては、主に女子から、「加害者を迅速に捕まえるべき」というような、治安の向上を求める声があった。

また、乗り物での被害をなくすために、「女性専用のバスや電車」や「乗り物内でのマナーの呼びかけ」を望む女子の記述もあった。

被害者へのケアや被害後の対処方法について知りたいという記述も数例あった。自分や家族、友人が性暴力被害にあった際のケアや対処方法を知りたいというものであった。

4) 自由記述の内容 ② 本調査に関するもの

本調査に関する記述は106(女子72、男子34)であった。

本調査への要望、アンケート調査の方法や倫理に関する記述などが含まれていた。

4-1) 調査の社会的意義

自由記述から、回答者にとって、本調査の実施自体が啓蒙的な要素を持っていたことが伺えた。調査へ参加することで、性暴力被害についての認識や関心を持つきっかけとなったようである。

- ・ 「こういうアンケートをとるということは、こういうことが多く起こっているんだなあと思った」(高1男子)
- ・ 「このようなアンケートは大切なことだと思う」(高1男子)

4-2) 調査への参加にともなう肯定的態度

本調査への参加によって、心理的サポートを得られたという女子の記述もあった。アンケートへ回答することによって、精神的に楽になったり、きいてもらえる感を体験できたというものである。

- ・ 「このアンケートを書いてちょっと楽になった気がした」(1年女子)
- ・ 「こういう調査をするのは、日頃あまり人に言えないことなどがきいてもらえる感じがするのでいいと思う」(1年女子)

また、性暴力被害調査を通じて、性暴力被害への支援の構築や社会への働きかけを願う声もあった。これらは、おもに女子の意見にみられた。

- ・ 「このような調査をして、被害にあった人たちの力になり役に立てるようにがんばってください」(1年女子)
- ・ 「性暴力被害のせいで自分を見失ってしまう人もたくさんいると思います。そんな人々が増えないためにもこの皆のアンケートを参考にいろいろよろしくお願いします」(1年女子)

4-3) プライバシー、インフォームド・コンセントに関する指摘

調査について、小数ながら批判的・感情的な記述も得られた。例えば、「このアンケート見るとムカついてくるからやめろ」(2年男子)、「このアンケートもセクハラじゃん」(2年男子)などである。

これらの記述からは、おそらく調査という刺激のみならず、性暴力被害自体のもつインパクトがあったことが推測される。性暴力被害というテーマが、回答者に何らかの不安や苛立ちといった感情的な反応を引き起こしたのかもしれない。また、テーマだけではなく、調査行為自体への同意を十分に得られなかったためでもあろう。

また、性暴力被害に関する質問が、とくに被害体験のある生徒にとって、心理的負担になる可能性についての指摘もあった。質問票に回答することで、被害を思い出したり、精神的な苦痛を感じたり、あるいは実際に回答することの難しさに関するものである。

- ・ 「こーゆーのはやらないほうがいいと思うよ。だっていろいろな事思い出しちゃうじゃん!」(2年女子)
- ・ 「私は性暴力被害にあったことがないので、このアンケートに答えることはなんともありませんが、被害にあったことのある人には、けっこうきつい内容なのではないかと思いました(そのときのことを思い出して)」(1年女子)

- ・ 「学校でアンケートをとっても本当に傷ついてる子はアンケートに書けないと思う」(2年女子)

プライバシーに関する記述には、「名前を書かなくていいので、みんな本当のことを書きやすいと思います」(1年女子)、「アンケートの実施のやり方があんまり良くない。クラスでやると、隣の席に人がいたりして、アンケートに答えにくい。隣の席の人が見ることはないけど、やっぱり答えにくかった」(2年女子)などがあつた。

無記名式にしたことで、記入しやすさにつながった。しかし、教室での実施では、周囲に人がいる状況になり、プライバシーの配慮として課題が残った。実施環境についての議論は、研究班でも倫理的配慮としてすでに論じているが(Ⅱ-3. 参照)、実際に回答した生徒から提言された意義は大きい。今後の大きな課題といえる。

調査に対するさまざまな記述は、単に調査への賛同・拒否というものではなく、安全に調査を行うということが具体的にどのようなことかを考えさせられるものであつた。とくに、事前の協力者への十分な説明と同意(インフォームド・コンセント)が重要であろう。

また、調査行為が、生徒にとって支援の第一歩となる可能性が示唆された。今後、調査と教育・啓発活動を連携して行うことで、生徒が性暴力被害を自分の身近な問題として捉えていくことも可能であると思われる。

IV. まとめ

- 本研究は、日本で初めての高校生を対象とした包括的な性暴力被害の実態調査である。
- これまでに行われた大学生以上を対象とした性暴力被害調査の結果から、18 歳未満の子どもの性暴力被害が少なくないことが示されており、また、性暴力被害が心身へ深刻な影響を与えうることが指摘されている。
高校生の安全と健康にとって重大な問題として、性暴力被害を取り上げ、その実態を明らかにし、有益な支援・啓発活動に役立てることを目的とする。
- 東京都および九州地域の高等学校 計 12 校の協力を得て、高校生の性暴力被害に関するアンケートを実施した。（回収率 44.2%）
高校生 計 2,346 名（女子 1,424 名、男子 922 名）の有効回答を得た。
- 結果からのまとめ

1. 性暴力被害の被害率

高校生の性暴力被害率は、被害内容によって、女子 5.3～37.2%、男子 1.5～20.7%であった。性別でみると、女子のほうが男子よりあらゆる性暴力被害の被害率が高い。（表 4-1）

女子では、「無理やり、体を触られたり、抱きつかれたことがある」という強制的接触の被害率が、4割弱にのぼり、「相手の裸や性器を、わざと見せられたことがある」という視覚的性暴力被害と、「体についてからかわれたり、いやらしいことを言われたことがある」という言語的性被害は、ともに 3 割以上であった。「無理やりセックスをされそうになったことがある」と「無理やりセックスをされたことがある」のレイプ未遂・既遂をあわせると、2 割の被害率になる。「携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで性的にいやな体験をしたことがある」のは、1 割であった。

男子では、言語的性暴力被害が 2 割、強制的身体接触と視覚的性被害がともに 1 割、レイプ未遂・既遂、情報ツールによる性暴力被害は、1～2%であった。

女子の性暴力被害のうち、レイプ未遂・既遂と情報ツールによる性暴力被害をのぞけば、約 3 人に一人が性暴力被害を受けていることになる。レイプ既遂も 5.3%、つまり 20 人に一人が被害の経験があることが示された。

男子も、レイプ未遂・既遂と情報ツールによる性暴力被害をのぞけば、5～10 人に一人は何らかの性暴力被害にあっていることが示された。

表 4-1. 性暴力被害率 性別一覧

(「ある」の回答：%)

性暴力被害項目	女子	男子
Q1. あなたの体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたことがありますか	33.0	20.7
Q2. 相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか	35.1	12.7
Q3. 無理やり、体を触られたり、抱きつかれたことがありますか	37.2	13.6
Q4. 無理やり、セックスをされそうになったことがありますか	13.2	2.7
Q5. 無理やり、セックスをされたことがありますか	5.3	1.5
Q6. 携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで性的にいやな体験をしたことがありますか	10.1	2.4

2. 性暴力被害の学年差

女子の言語的性暴力被害をのぞき、全体的に、学年が上がるにつれて、被害率は若干増加する。1年生と3年生を比べると、男女とも、レイプ未遂・既遂の被害率は約2倍に増加する。3年女子の強制的身体接触は、約半数にものぼる。男子の言語的性暴力被害も、学年で増加傾向がある。

女子3年生では、一般女性の性暴力被害率と同程度、あるいはそれ以上を示すものもある。

表 4-2. 性暴力被害率 学年別一覧 (「ある」の回答：% ※小数点以下省略)

性暴力被害項目	女子			男子		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
Q1. あなたの体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたことがありますか	33	26	27	17	21	30
Q2. 相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか	30	40	41	11	13	13
Q3. 無理やり、体を触られたり、抱きつかれたことがありますか	32	39	47	10	15	17
Q4. 無理やり、セックスをされそうになったことがありますか	10	15	18	1	3	4
Q5. 無理やり、セックスをされたことがありますか	4	5	8	0	2	2
Q6. 携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで性的にいやな体験をしたことがありますか	10	9	13	1	3	3

3. 性暴力被害の回数

レイプ未遂(既遂)をのぞき、男女とも、どの内容の性暴力についても「2 回以上」の被害体験がある者が多い。

言語的性暴力被害については、男女とも9割近くが「2回以上」と回答しており、一度きりではなく何度か言葉による暴力を受けている者がほとんどである。視覚的性暴力被害も、女子の6割、男子の7割以上が「2 回以上」と回答している。性暴力の内容のなかでも、「無理やり、体を触られたり、抱きつかれたことがある」という強制的身体接触は、男女とも、「2 回以上」が6割強、8割と多い。

レイプに関しては、未遂は「2 回以上」が多く、既遂は「1 回」と「2 回以上」が半々の割合である。

表 4-3. 性暴力被害率 被害回数一覧（被害体験者のみ）

(%) ※小数点以下省略

性暴力被害項目	女子		男子	
	1 回	2回以上	1 回	2回以上
Q1. あなたの体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたことがありますか	12	88	11	86
Q2. 相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか	41	59	22	76
Q3. 無理やり、体を触られたり、抱きつかれたことがありますか	34	65	19	81
Q4. 無理やり、セックスをされそうになったことがありますか	59	40	58	42
Q5. 無理やり、セックスをされたことがありますか	49	50	54	46
Q6. 携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで性的にいやな体験をしたことがありますか	30	67	19	81

4. 性暴力被害の時期

言語的性暴力被害と視覚的性暴力被害は、男女とも「中学のとき」がもっとも多いが、ほかはいずれも「高校生になってから」の被害が多い。

高校生において、性暴力被害のリスクは「高校のとき」がもっとも高いといえる。

5. 性暴力被害の相手

性暴力被害の相手は、被害内容によって異なっていた。

言語的被害では、男女とも「友だち」が最も多い。しかし、次いで、女子は「知らない人」から、男子は「家族」から、「体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたことがある」と答えている。体や性に関する言葉かけは、友だちから向けられることが多いが、女子は、男子より知らない人から性的な事柄を言われる経験が多いといえる。

視覚的性暴力被害の相手は、男女でまったく違う回答であった。「相手の裸や性器を、わざと見せられたこと」は、女子は「知らない人」から、男子は「友だち」が圧倒的多数であった。同様に、強制的身体接触も、女子は「知らない人」からが多く、男子は「友だち」が多い。

「無理やり、セックスをされそうになった」相手は、男女とも「恋人」や「友だち」が多く、いずれも、親密な関係におけるセックスの強要であるのが特徴的である。「無理やり、セックスをされた」相手も同様に、男女とも「恋人」「友だち」「知り合い」といった親しい関係性の相手が多く挙げられた。

6. 性暴力被害の場所

言語的性暴力被害の場所は、男女とも「学校内」がほとんどであった。

視覚的性暴力被害の場所は、女子は「その他」(路上・屋外)が多いが、男子は「学校内」がほとんどである。女子は「路上」で「知らない人」から裸や性器を露出されるという被害に遭い、男子は「学校内」で「友だち」から裸や性器を見せられることが多いという文脈の違いがみられる。

強制的身体接触は、女子は「電車」と「その他」(路上・屋外)が多く、車内の痴漢行為や路上で強制的に体を触られるという被害であるのが特徴的であり、一方男子は、言語・視覚的被害と同様に「学校内」での強制的身体接触が多いという違いがある。

レイプ未遂・既遂の場所は、男女とも「相手の家」であった。相手が、「恋人」や「友だち」であったことから、親密な関係におけるデートレイプが多いことが浮かび上がった。

7. 高校生の性暴力被害の実態に関する一考察

本研究は、定量的調査により、高校生の性暴力の被害率とその実態を明らかにすることを目的に行ったものである。質問項目に対する回答値の解釈に関しては、他の尺度を併用しての検討や、他の対象群との比較を行う必要があるが、今回は第 1 回目の高校生調査であるため、本調査の結果から示された高校生の性暴力被害の特徴についてまとめる。

1) 高校生の性暴力被害率の高さ ～高校生にとって身近な性暴力～

高校生の性暴力被害率は、言語的・視覚的・強制的身体接触に関して、女子で 33.0%～37.2%であり、約 3 人に一人が被害に遭っている。また、男子も 12.7%～20.7%と 5 人～8 人に一人が被害に遭っている。3 年生に限れば、女子の強制的身体接触は半数の者が被害に遭っている。

また、女子では、レイプ未遂が 13.5%、既遂が 5.3%であり、20 人に一人という高い割合で「無理やり、セックスをされたこと」がある者がいる。男子のレイプ未遂・既遂も 1.5%と 2.7%あることがわかった。

携帯電話やインターネットなどの情報ツールは、まだ普及して間もないにもかかわらず、女子の 10 人に一人が、何らかの不快な体験をしたことがある。

さらに、これらの性暴力は、特別な状況の下で起きているのではなく、「学校内」や「登下校中」、「(相手・自分の)家」など、まさに高校生の生活環境のなかで頻発している。稀な体験でもなく、「2 回以上」の被害体験を持つ者がほとんどである。暴力行為の相手も、「友だち」や「恋人」「教師」「家族」など、親しく身近な人が多い。女子は、「知らない人」からの被害も多く受けている。

これらの結果にみるように、高校生の性暴力被害は、成人に近い割合で起きており、身近な生活環境の中でしばしば起きていることだといえよう。

2) 男女の性暴力被害内容の違い ～男女高校生にとっての「性暴力被害」とは～

今回、男子の性暴力被害数も明らかになり、男子の被害体験も少なくないことが示された。

男女で比較すると、女子の被害率のほうが高いが、被害の状況や内容に関する違いも明らかになった。

全体的に、女子の性暴力被害で最も多いのは、「無理やり、体を触られたり、抱きつかれたことがある」という強制的性暴力被害である。これは、「電車内」で「知らない人」によるものが多く、車内の痴漢被害が該当する内容である。また、「路上・屋外」においても「知らない人」から体を触られるという状況も多く、女子の場合、路上や車内での強制わいせつの被害が非常に多いことが示された。また、「体について、からかわれたり、いやらしいことを言われた」という言語的被害も、「知らない人」から受けており、女子は知らない相手から不快な言葉を投げかけられるという暴力にも曝されている。

一方、男子は、レイプや情報ツールによる性的暴力をのぞき、「学校内」で「友だち」から受けた体験について述べたものが多い。本調査では、性暴力被害項目として示した行為の有無だけを尋ねているため、本人にとってどれだけ苦痛や不快感を伴うものかは明らかではない。そのため、友だち同士で体を見せたり、触るという行動がどういう文脈でなされたのかは不明であるが、しかし、1～2割の男子が回答したという事実も見逃せない。学校内での何らかの性的な強制行為は、「性的ないじめ」も含まれることが考えられる。

3) 親密な関係のなかで起こる性暴力 ～非常に多い高校生のデート・レイプ～

男女とも「無理やり、セックスをされそうになったこと・セックスをされたこと」といったセックスの強要は、「恋人」や「友だち」から、「相手の(自分の)家」の中で起きているという結果が示された。

恋人や友人など、親密な関係のなかで起こるレイプはデート・レイプといわれるが、高校生の回答からはレイプ被害(未遂を含む)のほとんどが、それに該当する内容であった。

親密な性的関係に暴力が起こることには、ジェンダーの問題も大きく影響していると考えられる。男女のパワー・バランスが異なっていたり、男子の強引さを評価し、女子に従順さを求めるジェンダー規範があると、対等でアサーティブ(自己主張的な)行動はとりにくくなる。

また、高校生の行動範囲の狭さも、親密な関係における被害の割合が高くなる一因かもしれない。

いずれにせよ、セックスの強要は、精神面への衝撃のみならず、妊娠や性感染症への罹患といった身体面への影響も起こりうる。

また、親しい関係性を持つ者として、家族や教師からのレイプ(未遂を含む)も数例みられた。性的虐待や、セクシュアル(スクール)・ハラスメントに該当する事例も、高校生の性暴力被害に含まれる。

4) 高校時代は性暴力被害のハイ・リスク期 ～18歳以下で最も高い被害率～

今回の調査で、さまざまな性暴力被害の被害時期を尋ねたところ、もっとも多かったのが「高校生のとき」の被害であった。もちろん、対象者が高校生であるため、近時の出来事についての回答が多くなる面もあるが、女子においては「高校生のとき」でも学年が上がるにつれ、被害率も上昇している。上述のように、高校3年生女子の被害率は、大学生・成人とほぼ同率であるほど高く、男子の被害率も従来の回顧的データと比較し、いずれも高い被害率を示している。

5) 学校内での性暴力被害 ～高校で起こっている性暴力被害～

言語的性暴力被害の場所は、男女とも「学校内」がほとんどであった。そして、男子は「裸や性器を見せられる」といった視覚的性暴力被害や、強制的身体接触も、「学校内」が最も多かった。

学校内といっても、体育などの授業時間や休み時間、部活動など、さまざまな場面が考えられるが、学校内での何らかの性的な強制行為は多く起きていることに注目する必要がある。

レイプ未遂の現場が学校であったり、教師からの性暴力といった事例も、数例見られた。

8. 本研究の意義と限界

本調査の意義は、なにより高校生の性暴力被害の実態について、2,346名という対象者の回答から、その一端が示されたということである。そして、高校生の「現実」を知ること、我々は性暴力被害に関する神話(俗説)を覆し、現実で起きている性暴力被害に直面する手がかりを得たということである。高校生の性暴力被害は、非常に多く起きている。そして、高校生の身近な生活圏のなかで、被害は繰り返されているという現実の一端を知りえたことが、本研究の成果である。

また、調査の計画および実施に関して、研究班は、米国のNCVSによる知見や、過去に日本で行われた性暴力被害調査をふまえ、回答者の心身への衝撃をできるだけ少なくするよう、安全な実施を心がけた。調査の手続きに関しては、プライバシーやインフォームド・コンセントに配慮した。

さらに、自由記述回答から、性暴力被害調査がより安全な状況で、インフォームド・コンセントに基づいてなされるならば、生徒の心理的支援につながる可能性が示唆された。調査は、侵襲的な面ばかりではなく、方法と内容によっては、生徒への啓発教育や心理的支援の一翼を担えるものだといえるだろう。

一方で、本調査の限界としては、調査の方法に関するものが挙げられる。

今回採用した機縁法によるアンケート配布では、ランダムサンプリングではないため、「高校生全体」を示すような結果の一般化ができない。しかし、すでに述べたように、今回は安全な学校環境のなかでの実施を重視した。サンプリングに偏りがあるとしても、2,346名の体験の意味が減ずるわけではないと考える。

また、質問項目についての限界としては、個人の質問項目への理解の妥当性を測定してないため、回答者によって、質問項目の理解と解釈にばらつきが生じている可能性がある。今回の調査項目の選定にあたっては、米国で実施が重ねられているNCVSを参考とし、日本でこれまで実施された調査に準ずるものとしている。

本調査では、学校での実施時間の限界から、調査票の分量を最小限にとどめざるを得なかったため、本来、入れたほうがよい項目を含めることができなかった。たとえば、加害者の性別や被害時の感情、被害後の求援行動などである。質問項目については、今後、有益な改訂を試みたい。量的な拡充だけでなく、質問項目の定義や説明なども検討を重ねる必要があるだろう。

おわりに ～本研究の可能性～

本研究は、日本において初めて、高校生の性暴力被害の実態を定量的・包括的に調査したものである。

高校生など青少年の性暴力被害は、近年、報道で取り上げられることも多く、その潜在数が懸念されながらも、調査実施の困難さなどの理由から、大規模な実施は行われずにきた。あるいは、高校生や児童らの性暴力被害という現実を直視することを躊躇するような心理的障壁もあるのかもしれない。

そうした状況のなか、研究班メンバーは各自のフィールドにおいて、性暴力被害への心理臨床的支援や、青年の性や健康に関する教育・啓発活動などに取り組みながら、青年の性暴力被害の実態を明らかにし、そしてそのデータをもとに今後の支援・社会のあり方を考えたいと思い、本調査に着手した。

調査実施の過程においては、調査協力校を探すことに多大な時間と労力を要した。調査実施が叶わなかった学校も多いが、学校の先生方には調査の実施の可能性について、何度も検討していただいた。感触として、教員の多くが生徒の性暴力被害の問題を懸念し、重要な問題として捉えていたと思う。しかし、学校側の事情や準備性(レディネス)の問題などから、今回の実施が難しかったのだろうと推測する。なかには、性暴力被害あるいは性という側面について、受容できない心理等もあったかと思うが、こうした「あらゆること」が、高校生の性暴力被害をとりまく「現実」であるといえよう。

調査の対象校のなかには、大変、積極的に本調査に参加して下さり、教育実践につなげた教員もあった。たとえば、授業で性暴力被害について取り上げたり、学級で話し合うといった実践である。調査の実施が、教育現場ないしは教育実践に有機的な作用をもたらした好例であるといえよう。また、そうした教育実践があつてこそ、本調査の安全な実施が可能になったともいえる。学校での教育実践とともに、調査研究も研鑽されていく必要があるだろう。

また、生徒の自由記述の回答からも、調査への参加が性暴力被害に関する心理的支援の第一歩となったり、調査の実施が、社会問題の啓発の一端を担う可能性が示唆されていた。

このように、性暴力被害調査を通してみえてきた「研究と教育現場と社会のつながり」こそが、次は、高校生の性暴力被害への具体的な取り組みへと発展するための礎となるものと考えている。

結 語

前公立高等学校長 小泉 功

今回、性暴力被害について男女高校生を対象としたこのアンケート調査は難しかったことと思われる。今まで性暴力被害についてのアンケート調査は個人のプライバシーの問題があるとして、踏み込んだものはほとんどなかったといってよい。

この調査の目的にも述べられているように、最近の女性や児童に対する性暴力、虐待が繰り返される中でニュースでは報道されていない性暴力被害が多いだらうとの予想はされていた。

今回の調査結果を見ると「言葉や身体接触について」は、女子は3割を越え、男子も1割から2割、「レイプ未遂・既遂」については、女性のみならず、男性の被害もわずかながらあり、過去の調査研究よりも多い数値が報告されている。

この実態を学校教育が真摯に受け止め家庭や地域と密接に連携した指導を重ねて課題解決を図ることが肝要である。その上で子どもの時から自分を大切にする自尊感情と意志決定能力を高めさせたいものである。児童生徒に対する性暴力被害がなくなることを期待したい。

学校の性教育の取組と性暴力被害

これからは、学校が性教育を教育課程に位置づけ、教科学習活動と同様に総合的な学習の時間、ロングホームルーム、生徒会活動、クラブ活動を通して積極的に指導することが課題である。また、地域のイベント活動の運動会、お祭り、盆踊り、各種スポーツ大会に、子どもたちを積極的に活動に参加させることも大切である。

学校は家庭とともに地域の青少年健全育成のためにその中心になって密接に連携しながら実態を把握し、課題解決に向けて活動していくことが重要である。性暴力被害に対応できる自尊感情、奉仕の精神、他を思いやる心などが体験的活動を通して培われていくものと信じている。

① 自尊感情を育てる

自尊感情は、「自分は価値ある人間だ」「自分は回りの人から認められている」という、自己に対する評価感情である。

自尊感情を育てる場面は、幼児期からの家庭生活や学校生活である。子どもの頃、父親や母親にほめられたり、感謝されたことを通して、自分の価値を認められた時に芽生え、また、教師に厳しく指導されながらも愛情溢れるほめ言葉を通して信頼関係が生まれ、素晴らしい自尊感情が育ち自己の価値観が高められるものである。

② 我慢強さを育てる

EQ(感情指数)が高く我慢強い人は、何事にも耐える力が強く挑戦する意欲が高いといわれる。我慢できずに、怒る人がいるが、「誰でも怒るのは、たやすいが、怒る相手に良い場所、良い時間、正しい目的、適当な方法で怒ることは難しい。」だから、怒りを押さえ我慢し、柔軟性をもって適応できることが自己をより高められると信じている。

③ 奉仕活動を推進する

学校は地域の町会や諸施設との連携を深め、生徒の奉仕活動を積極的にすすめ、他者を思いやる心や奉仕の精神を培わせることが重要である。

他者を思いやる心や奉仕の精神を培うことにより、児童や女性など弱いものに対する虐待等の暴力的行為や性被害はなくなるものと信じている。

女性や児童に対する暴力的行為を撲滅する

女性や児童への暴力的行為、性暴力被害には「性暴力、性虐待、陵辱、侮蔑、レイプ、わいせつ行為、ストーカー行為、誘拐、監禁」等がある。

そのような暴力的行為は、青少年に自尊感情、我慢する力、思いやる力とともに社会規範意識の育成向上により防止できるものと確信している。

また、性暴力被害者や性加害者の体験事例から価値観や社会規範意識を育てるために、性暴力被害者の気持ちを出し合い、互いに心の醸成をはかることが今必要なのかも知れない。

引用文献

- ・ 安藤久美子、岡田幸之、影山隆之、飛鳥井望、稲本絵里、柑本美和、小西聖子:性暴力被害者の PTSD の危険因子ー日本におけるコミュニティサーベイから. 精神医学, 42(6):575-584, 2000.
- ・ Asukai, N., Kato, H., Kawamura, N. et al. : Reliability and validity of the Japanese-Language version of Impact of Event Scale-Revised (IES-R-J) : Four studies on different traumatic event. J. Nerv.Ment.Dis., 190 ; 175-182, 2002.
- ・ 廣幡小百合:女性のトラウマとメンタルヘルス. 最新精神医学, 8(2):109-114, 2003.
- ・ 廣幡小百合、小西聖子、白川美也子、浅川千秋、森田展彰、中谷陽二:性暴力被害者における外傷後ストレス障害ー抑うつ、身体症状との関連で. 精神神経学雑誌, 104(6):529-550, 2002.
- ・ 本田純久、柴田義貞、中根允文:GHQ-12 項目質問紙を用いた精神医学的障害のスクリーニング. 厚生の指標, 48(10), 5-10, 2001.
- ・ 法務総合研究所:犯罪白書(平成 14 年版):2002.
- ・ 石井朝子、飛鳥井望、小西聖子、柑本美和、岸本淳司:性暴力被害によるトラウマ体験がもたらす精神的影響ー東京都内女子大生調査の結果よりー. 臨床精神医学, 31(8):989-995, 2002.
- ・ 石川義之:「性暴力被害の実態ー大学生・専門学校生調査の分析と考察」報告書:1995.
- ・ 石川義之:現代日本における児童虐待の実情 I , II . 島根大学法文学部紀要:1995.
- ・ 稲本絵里、安藤久美子、影山隆之、岡田幸之、石井朝子、飛鳥井望、笹川真紀子、小西聖子:被害体験と「回避」の機制ー性暴力被害の住民研究から. 精神保健研究, 48:35-41, 2002.
- ・ 女性のトラウマを考える会(代表 石川義之・村本邦子):「性的虐待の被害者についての調査研究」報告書:2001.
- ・ 小西聖子:日本の大学生における性暴力被害の調査. 日本＝性研究会議解放, 8:28-47, 1996.
- ・ 小西聖子:少年の性暴力被害の実態とその影響に関する研究報告書. 性暴力被害少年対策研究会. 財団法人社会安全研究財団女性研究事業:1999.
- ・ 小西聖子、石井朝子、影山隆之、岡田幸之、柑本美和、稲本絵里、笹川真紀子:日本における児童期の性暴力の被害とその影響. 日本＝性研究会議 JASS Proceedings, vol. 11, No.1: Pp.14-19, 1999.
- ・ 小西吉呂、名嘉幸一、和氣則江、石津宏:大学生の性暴力被害に関する調査報告ー警察への通報および求められる援助の分析を中心にー. こころの健康, Vol.15, No.2:62-71, 2000.
- ・ 内閣府編:青少年白書(平成 14 年版):2002.
- ・ 中嶋一成、宮城由江:心への侵入. 本の時遊社. pp.207-264, 1999.
- ・ 笹川真紀子、小西聖子、安藤久美子、佐藤志穂子、高橋美和、石井トク、佐藤親次:日本の成人女性における性暴力被害調査. 犯罪学雑誌., 64(6):202-212, 1998.
- ・ 性暴力被害研究会:女性が受ける性暴力被害と警察に求める援助. 性暴力被害研究会, 1996.
- ・ 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会編:児童・生徒の性(2000 年調査). 学校図書株式会社:2002.
- ・ 財団法人日本性教育協会編:「若者の性」白書ー第5回・青少年の性行動全国調査報告ー, 小学館株式会社:2001.

付録資料
(1)

質問票

アンケート調査 ご協力をお願い

こんにちは。

このアンケートは、高校生みなさんに、性的な被害について おうかがいするものです。

私たち研究グループは、性的な被害をうけた人への相談や、調査を行ってきています。

そのなかで、高校生の性的な被害の数や、その影響について知ることが必要だと感じました。

性被害を予防するためには、このような調査がとても大切になります。

また、被害にあった人の力になりたいと思っています。

そこで、今回、いくつかの高校の生徒の方々にご協力いただくことにしました。

実際に、性的な被害の体験があるかないかにかかわらず、質問へお答え下さい。

高校生の性的な被害の実態を把握し、皆さんの性被害についてのご意見をお聞かせいただくことが目的です。

アンケートには、名前を書きません。

あなたの回答は、調査者が責任をもって回収し、**個人の情報やプライバシーは守ります。**

答えたのが誰かというのが、わかるかたちでは発表しません。

結果は、全体でまとめるので、個人の情報がわかることはありません。

また、調査の実施については学校の先生の協力をお願いしましたが、あなたの書いたものを先生が見ることはありません。

調査の結果は、被害への対策や被害者へのサポートに役立てていくものとなります。

アンケートの中で、どうしても答えにくいものは、無理に答えなくてもけっこうです。

また、回答の途中や終了後、気分が悪くなったり不安になることがあるかもしれません。

その場合は、調査員か保健室の先生に申し出てください。

アンケートの記入が終わりましたら、一緒に配られた封筒に入れて、封をして下さい。

みなさんの回答を大切に、今後に役立てていきたいと思っています。

ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

「高校生の性暴力被害実態調査」研究グループ

代表：野坂 祐子（武蔵野大学）

それでは、質問に入ります。

1 学年に○をつけてください。

1、 1年生

2、 2年生

3、 3年生

2 性別に○をつけてください。

1、 男子

2、 女子

3 健康状態について、おたずねします。

あなた自身に、以下のことが、ここ1ヶ月にどれくらいあったかを○をつけてお答え下さい。
ここ1ヶ月に一度もなければ、「まったくなかった」に○をつけてください。

		0. まったく なかった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった
1	ものごとに集中できなかった				
2	しんぱいごとのために、よく眠れなかった				
3	いつもより生きがいを感じた				
4	いつもより容易にものごとを決められた				
5	ストレスを感じた				
6	問題を解決できなくてこまった				
7	日常生活をたのしくすごせた				
8	問題を積極的に解決しようと思った				
9	気が重くてゆううつになった				
10	自信をうしなった				
11	自分は役にたたない人間だと感じた				
12	いつもよりしあわせだと感じた				

⇒ 記入が終わったら、右ページに進んで下さい。
Q1～Q12 まで、それぞれ順に答えて下さい。

4 性的な被害の経験の有無をうかがいます。

Q1から、Q6まで、さまざまな状況をあげてあります。

それぞれの被害の経験がある人は、その下の1)～4)についても答えてください。

Q1. あなたの体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたことがありますか。

どちらかに○をつけて下さい。

ある ・ ない (ないと答えた人は、
次のQ2に進んで下さい)



(あると答えた人は、下の質問にも答えて下さい。)

1) それは、これまでに何回ありましたか。

- a. 1回
- b. 2回以上

2) その時期は、いつですか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。

- ア. 小学校入学前
- イ. 小学生のとき
- ウ. 中学生のとき
- エ. 高校生になってから

3) それは、誰に言われましたか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。

- ア. 友だち
- イ. 教師
- ウ. 恋人
- エ. 家族・親戚
- オ. 知り合い []
- カ. 知らない人 []
- キ. その他 []

4) その場所は、どこですか。

- ア. 自宅
- イ. 相手の家
- ウ. 学校内
- エ. 乗り物(電車やバス)の中
- オ. その他 []

Q2. 相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか。

どちらかに○をつけて下さい。

ある ・ ない (ないと答えた人は、
次のQ3に進んで下さい)



(あると答えた人は、下の質問にも答えて下さい。)

1) それは、これまでに何回ありましたか。

- a. 1回
- b. 2回以上

2) その時期は、いつですか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。

- ア. 小学校入学前
- イ. 小学生のとき
- ウ. 中学生のとき
- エ. 高校生になってから

3) それは、誰にされましたか。

あてはまるもの全てに○をつけてください。

- ア. 友だち
- イ. 教師
- ウ. 恋人
- エ. 家族・親戚
- オ. 知り合い []
- カ. 知らない人 []
- キ. その他 []

4) その場所は、どこですか。

- ア. 自宅
- イ. 相手の家
- ウ. 学校内
- エ. 乗り物(電車やバス)の中
- オ. その他 []

Q3. 無理やり、体を触られたり、抱きつかれた
ことがありますか。

どちらかに○をつけて下さい。

ある ・ ない (ないと答えた人は、
次のQ4に進んで下さい)



(あると答えた人は、下の質問にも答えて下さい。)

1) それは、これまでに何回ありましたか。

- a. 1回
- b. 2回以上

2) その時期は、いつですか。
あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

- ア. 小学校入学前
- イ. 小学生のとき
- ウ. 中学生のとき
- エ. 高校生になってから

3) それは、誰にされましたか。
あてはまるもの全てに○をつけてください。

- ア. 友だち
- イ. 教師
- ウ. 恋人
- エ. 家族・親戚
- オ. 知り合い []
- カ. 知らない人 []
- キ. その他 []

4) その場所は、どこですか。

- ア. 自宅
- イ. 相手の家
- ウ. 学校内
- エ. 乗り物（電車やバス）の中
- オ. その他 []

Q4. 無理やり、セックスをされそうになったことが
ありますか。

どちらかに○をつけて下さい。

ある ・ ない (ないと答えた人は、
次のQ5に進んで下さい)



(あると答えた人は、下の質問にも答えて下さい。)

1) それは、これまでに何回ありましたか。

- a. 1回
- b. 2回以上

2) その時期は、いつですか。
あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

- ア. 小学校入学前
- イ. 小学生のとき
- ウ. 中学生のとき
- エ. 高校生になってから

3) それは、誰にされましたか。
あてはまるもの全てに○をつけてください。

- ア. 友だち
- イ. 教師
- ウ. 恋人
- エ. 家族・親戚
- オ. 知り合い []
- カ. 知らない人 []
- キ. その他 []

4) その場所は、どこですか。

- ア. 自宅
- イ. 相手の家
- ウ. 学校内
- エ. 乗り物（電車やバス）の中
- オ. その他 []

Q5. 無理やり、セックスをされたことがありますか。

どちらかに○をつけて下さい。

ある ・ ない (ないと答えた人は、
次のQ6に進んで下さい)



(あると答えた人は、下の質問にも答えて下さい。)

1) それは、これまでに何回ありましたか。

- a. 1回
- b. 2回以上

2) その時期は、いつですか。
あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

- ア. 小学校入学前
- イ. 小学生のとき
- ウ. 中学生のとき
- エ. 高校生になってから

3) それは、誰にされましたか。
あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

- ア. 友だち
- イ. 教師
- ウ. 恋人
- エ. 家族・親戚
- オ. 知り合い []
- カ. 知らない人 []
- キ. その他 []

4) その場所は、どこですか。

- ア. 自宅
- イ. 相手の家
- ウ. 学校内
- エ. 乗り物（電車やバス）の中
- オ. その他 []

Q6. 携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで
性的にいやな体験をしたことがありますか。

どちらかに○をつけて下さい。

ある ・ ない (ないと答えた人は、
次の問4に進んで下さい)



(あると答えた人は、下の質問にも答えて下さい。)

1) それは、これまでに何回ありましたか。

- a. 1回
- b. 2回以上

2) あなたが体験した「いやな体験」とは
どのようなことですか。
下の欄に、記入してください。

全員にお聞きます。

5 ここまで、いろいろな被害についてお聞きしてきましたが、なかでも「もっとも傷ついた」

1) その被害は、次のうち、どれですか。

- ア. あなたの体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたりした。
- イ. 相手のはだかや性器を、わざと見せられた。
- ウ. 無理やり、体を触られたり、抱きつかれた。
- エ. 無理やり、セックスをされそうになった。
- オ. 無理やり、セックスをされた。
- カ. その他 []

キ. 性的被害にあったことはない。⇒ p. 7 の問 5 へ進んでください。

2) その時期は、いつですか。

あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

- ア. 小学校入学前
- イ. 小学生のとき
- ウ. 中学生のとき
- エ. 高校生になってから

3) それは、誰にされましたか。

あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

- ア. 友だち
- イ. 教師
- ウ. 恋人
- エ. 家族・親戚
- オ. 知り合い []
- カ. 知らない人 []
- キ. その他 []

4) その場所は、どこですか。

- ア. 自宅
- イ. 相手の家
- ウ. 学校内
- エ. 乗り物（電車やバス）の中
- オ. その他 []

5) ひきつづき、「もっとも傷ついた」性的被害について、お聞きします。

「もっとも傷ついた」性的被害について、この1週間では、それぞれどれくらい悩まされましたか？
その被害のできごとが、過去のことであっても、この1週間での心身の調子を答えて下さい。
それぞれ1つ、○をつけてください。

		(0) 全くなし	(1) 少しある	(2) 中くらい	(3) かなりある	(4) 非常にある
1	どんなきかけでも、そのことを思い出すと、その時の気持ちがぶりかえしてくる。					
2	睡眠の途中で目がさめてしまう。					
3	他のことをしていても、思わずそのことを考えていることがある。					
4	イライラして怒りっぽくなっている。					
5	そのことについて考えたり思い出すときは、なんとか気を落ちつかせるようにしている。					
6	考えるつもりはないのに、そのことを考えてしまうことがある。					
7	そのことは、実際には起きなかったとか、現実のことではなかったような気がする。					
8	そのことを思い出させるものには近寄らない。					
9	その時の場面が、いきなり頭に浮かんでくる。					
10	神経が敏感になっていて、ちょっとしたことできつとしてしまう。					
11	そのことは、考えないようにしている。					
12	そのことについては、まだいろいろな気持ちがあるが、それには触れないようにしている。					
13	そのことについての感情は、マヒしたようである。					
14	気がつくとき、まるでそのときにもどってしまったかのように、ふるまったり感じたりすることがある。					
15	寝つきが悪い。					
16	そのことについて、感情が強くこみあげてくることがある。					
17	そのことは、もう忘れてしまうようにしている。					
18	ものごとに集中できない。					
19	そのことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、ドキドキすることがある。					
20	そのことについての夢を見る。					
21	警戒して用心深くなっている気がする。					
22	そのことについては話さないようにしている。					

全員にお聞きします。

6 最後に、性的被害について、どのようなことでもいいので、ご自由にお書きください。
このアンケートへの感想や、ご意見でもけっこうです。

ご協力、ありがとうございました。あなたのご意見を大切にしたいと思います。

付録資料
(2)

単純集計表

問1. 学年に○をつけてください。

	度数	%
1年生	1003	42.8
2年生	949	40.5
3年生	394	16.8
合計	2346	100

問2. 性別に○をつけてください。

	度数	%
女子	1463	62
男子	883	38
合計	2346	100

学年	性別	度数	%
1年生	男子	301	12.8
	女子	702	29.9
2年生	男子	440	18.8
	女子	509	21.7
3年生	男子	142	6.1
	女子	252	10.7
合計		2346	100

問3. 健康状態について、おたずねします。
 あなた自身に、以下のことが、ここ1ヶ月間にどれくらいあったかを○をつけてお答え下さい。
 ここ1ヶ月に一度もなければ、「まったくなかった」に○をつけて下さい。

問3-1) ものごとに集中できなかった

	総数	0. まったく なかった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	305	1060	586	381	14
%	100.0	13.6	45.2	25.0	16.2	0.6

問3-2) しんばいごとのために、よく眠れなかった

	総数	0. まったくな かった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	1238	627	287	183	11
%	100.0	52.8	26.7	12.2	7.8	0.5

問3-3) いつもより生きがいを感じた

	総数	0. まったく なかった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	915	803	396	207	25
%	100.0	39.0	34.2	16.9	8.8	1.1

問3-4) いつもより容易にものごとを決められた

	総数	0. まったくな かった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	847	933	386	148	32
%	100.0	36.1	39.8	16.5	6.3	1.4

問3-5) ストレスを感じた

	総数	0. まったく なかった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	290	597	635	809	15
%	100.0	12.4	25.4	27.1	34.5	0.6

問3-6) 問題を解決できなくてこまった

	総数	0. まったくな かった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	594	790	500	444	18
%	100.0	25.3	33.7	21.3	18.9	0.8

問3-7) 日常生活を楽しく過ごせた

	総数	0. まったく なかった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	228	585	619	893	21
%	100.0	9.7	24.9	26.4	38.1	0.9

問3-8) 問題を積極的に解決しようとした

	総数	0. まったくな かった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	493	890	570	367	26
%	100.0	21.0	37.9	24.3	15.6	1.1

問3-9) 気が重くてゆううつになった

	総数	0. まったく なかった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	562	719	504	542	19
%	100.0	24.0	30.6	21.5	23.1	0.8

問3-10) 自信をうしなった

	総数	0. まったくな かった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	718	751	446	412	19
%	100.0	30.6	32.0	19.0	17.6	0.8

問3-11) 自分は役に立たない人間だと感じた

	総数	0. まったく なかった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	1058	697	310	268	13
%	100.0	45.1	29.7	13.2	11.4	0.6

問3-12) いつもよりしあわせだと感じた

	総数	0. まったくな かった	1. たまに あった	2. ときどき あった	3. しばしば あった	無回答
度数	2346	633	825	482	389	17
%	100.0	27.0	35.2	20.5	16.6	0.7

GHQ得点別人数表(n=2346)

※0. と1. の回答を0点、2. と3. の回答を1点として算出

	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	11点	12点
1年女子	15	37	62	80	99	119	107	102	46	17	9	6	3
1年男子	31	40	38	55	34	41	23	21	10	3	4	0	1
2年女子	11	20	42	63	67	69	80	70	40	27	14	3	3
2年男子	43	51	46	53	52	71	48	40	16	13	5	1	1
3年女子	8	22	22	32	34	33	35	29	21	11	2	3	0
3年男子	8	12	17	15	19	23	18	9	9	7	2	2	1
女子合計	34	79	126	175	200	221	222	201	107	55	25	12	6
男子合計	82	103	101	123	105	135	89	70	35	23	11	3	3
合計	116	182	227	298	305	356	311	271	142	78	36	15	9

問4. 性的な被害の経験の有無をうかがいます。
Q1から、Q6まで、さまざまな状況をあげてあります。
それぞれの被害の経験がある人は、その下の 1)～4)についても答えてください。

問4-Q1. あなたの体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたことがありますか

女子 N=1463

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	231	32.9%	462	65.8%	9	1.3%	702
2年生	185	36.3%	322	63.3%	2	0.4%	509
3年生	67	26.6%	184	73.0%	1	0.4%	252
全体	483	33.0%	968	66.2%	12	0.8%	1463

男子 N=883

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	51	16.9%	244	81.1%	6	2.0%	301
2年生	90	20.5%	344	78.2%	6	1.4%	440
3年生	42	29.6%	98	69.0%	2	1.4%	142
全体	183	20.7%	686	77.7%	4	0.7%	883

Q1-1)それは、これまでに何回ありましたか。

女子 N=483

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	31	13.4%	199	86.1%	1	0.4%	231
2年生	19	10.3%	164	88.6%	2	1.1%	185
3年生	7	10.4%	60	89.6%	0	0.0%	67
全体	57	11.8%	423	87.6%	3	0.6%	483

男子 N=183

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	7	13.7%	43	84.3%	1	2.0%	51
2年生	8	8.9%	82	91.1%	0	0.0%	90
3年生	5	11.9%	37	88.1%	0	0.0%	42
全体	20	10.9%	162	88.5%	1	0.5%	183

Q1-2)その時期は、いつですか。

女子 N=483

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	10	4.3%	106	45.9%	144	62.3%	77	33.3%	231
2年生	7	3.8%	68	36.8%	120	64.9%	96	51.9%	185
3年生	4	6.0%	21	31.3%	39	58.2%	39	58.2%	67
全体	21	4.3%	195	40.4%	303	62.7%	212	43.9%	483

男子 N=183

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	3	5.9%	19	37.3%	29	56.9%	20	39.2%	51
2年生	8	8.9%	33	36.7%	54	60.0%	41	45.6%	90
3年生	5	11.9%	23	54.8%	25	59.5%	17	40.5%	42
全体	16	8.7%	75	41.0%	108	59.0%	78	42.6%	183

Q1-3)それは、誰に言われましたか。

女子 N=483

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	164	71.0%	18	7.8%	28	12.1%	40	17.3%	40	17.3%	56	24.2%	1	0.4%	231
2年生	109	58.9%	7	3.8%	29	15.7%	24	13.0%	32	17.3%	52	28.1%	10	5.4%	185
3年生	42	62.7%	6	9.0%	12	17.9%	12	17.9%	12	17.9%	19	28.4%	5	7.5%	67
全体	315	65.2%	31	6.4%	69	14.3%	76	15.7%	84	17.4%	127	26.3%	16	3.3%	483

男子 N=183

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	48	94.1%	2	3.9%	2	3.9%	6	11.8%	2	3.9%	2	3.9%	0	0.0%	51
2年生	82	91.1%	10	11.1%	6	6.7%	11	12.2%	8	8.9%	4	4.4%	1	1.1%	90
3年生	39	92.9%	2	4.8%	2	4.8%	5	11.9%	4	9.5%	2	4.8%	2	4.8%	42
全体	169	92.3%	14	7.7%	10	5.5%	22	12.0%	14	7.7%	8	4.4%	3	1.6%	183

Q1-4)その場所は、どこですか。

女子 N=483

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	43	18.6%	23	10.0%	164	71.0%	24	10.4%	52	22.5%	231
2年生	23	12.4%	24	13.0%	113	61.1%	11	5.9%	64	34.6%	185
3年生	12	17.9%	11	16.4%	38	56.7%	6	9.0%	24	35.8%	67
全体	78	16.1%	58	12.0%	315	65.2%	41	8.5%	140	29.0%	483

男子 N=183

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	8	15.7%	4	7.8%	45	88.2%	2	3.9%	5	9.8%	51
2年生	11	12.2%	7	7.8%	77	85.6%	4	4.4%	10	11.1%	90
3年生	6	14.3%	6	14.3%	37	88.1%	1	2.4%	5	11.9%	42
全体	25	13.7%	17	9.3%	159	86.9%	7	3.8%	20	10.9%	183

問4-Q2. 相手の裸や性器を、わざと見せられたことがありますか

女子 N=1463

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	207	29.5%	484	68.9%	11	1.6%	702
2年生	203	39.9%	300	58.9%	6	1.2%	509
3年生	104	41.3%	147	58.3%	1	0.4%	252
全体	514	35.1%	931	63.6%	18	1.2%	1463

男子 N=883

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	34	11.3%	261	86.7%	6	2.0%	301
2年生	59	13.4%	372	84.5%	9	2.0%	440
3年生	19	13.4%	118	83.1%	5	3.5%	142
全体	112	12.7%	751	85.1%	20	2.3%	883

Q2-1)それは、これまでに何回ありましたか。

女子 N=514

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	100	48.3%	105	50.7%	2	1.0%	207
2年生	76	37.4%	126	62.1%	1	0.5%	203
3年生	34	32.7%	70	67.3%	0	0.0%	104
全体	210	40.9%	301	58.6%	3	0.6%	514

男子 N=112

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	5	14.7%	28	82.4%	1	2.9%	34
2年生	11	18.6%	47	79.7%	1	1.7%	59
3年生	9	47.4%	10	52.6%	0	0.0%	19
全体	25	22.3%	85	75.9%	2	1.8%	112

Q2-2)その時期は、いつですか。

女子 N=514

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	14	6.8%	89	43.0%	126	60.9%	52	25.1%	207
2年生	7	3.4%	68	33.5%	110	54.2%	104	51.2%	203
3年生	4	3.8%	38	36.5%	56	53.8%	52	50.0%	104
全体	25	4.9%	195	37.9%	292	56.8%	208	40.5%	514

男子 N=112

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	3	8.8%	12	35.3%	27	79.4%	13	38.2%	34
2年生	6	10.2%	14	23.7%	23	39.0%	42	71.2%	59
3年生	0	0.0%	6	31.6%	8	42.1%	14	73.7%	19
全体	9	8.0%	32	28.6%	58	51.8%	69	61.6%	112

Q2-3)それは、誰にされましたか。

女子 N=514

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	25	12.1%	1	0.5%	4	1.9%	5	2.4%	9	4.3%	168	81.2%	1	0.5%	207
2年生	21	10.3%	1	0.5%	10	4.9%	2	1.0%	6	3.0%	170	83.7%	4	2.0%	203
3年生	7	6.7%	1	1.0%	2	1.9%	2	1.9%	3	2.9%	92	88.5%	2	1.9%	104
全体	53	10.3%	3	0.6%	16	3.1%	9	1.8%	18	3.5%	430	83.7%	7	1.4%	514

男子 N=112

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	29	85.3%	0	0.0%	2	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	8.8%	1	2.9%	34
2年生	47	79.7%	2	3.4%	7	11.9%	1	1.7%	4	6.8%	6	10.2%	0	0.0%	59
3年生	15	78.9%	0	0.0%	2	10.5%	0	0.0%	1	5.3%	1	5.3%	1	5.3%	19
全体	91	81.3%	2	1.8%	11	9.8%	1	0.9%	5	4.5%	10	8.9%	2	1.8%	112

Q2-4)その場所は、どこですか。

女子 N=514

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	8	3.9%	7	3.4%	23	11.1%	12	5.8%	145	70.0%	207
2年生	5	2.5%	15	7.4%	16	7.9%	20	9.9%	156	76.8%	203
3年生	6	5.8%	5	4.8%	2	1.9%	10	9.6%	89	85.6%	104
全体	19	3.7%	27	5.3%	41	8.0%	42	8.2%	390	75.9%	514

男子 N=112

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	1	2.9%	6	17.6%	21	61.8%	0	0.0%	9	26.5%	34
2年生	5	8.5%	11	18.6%	31	52.5%	1	1.7%	17	28.8%	59
3年生	1	5.3%	7	36.8%	8	42.1%	0	0.0%	6	31.6%	19
全体	7	6.3%	24	21.4%	60	53.6%	1	0.9%	32	28.6%	112

問4-Q3. 無理やり、体を触られたり、抱きつかれたことがありますか

女子 N=1463

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	227	32.3%	466	66.4%	9	1.3%	702
2年生	199	39.1%	307	60.3%	3	0.6%	509
3年生	118	46.8%	133	52.8%	1	0.4%	252
全体	544	37.2%	906	61.9%	13	0.9%	1463

男子 N=883

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	32	10.6%	266	88.4%	3	1.0%	301
2年生	64	14.5%	369	83.9%	7	1.6%	440
3年生	24	16.9%	115	81.0%	3	2.1%	142
全体	120	13.6%	750	84.9%	13	1.5%	883

Q3-1)それは、これまでに何回ありましたか。

女子 N=544

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	81	35.7%	146	64.3%	0	0.0%	227
2年生	60	30.2%	132	66.3%	7	3.5%	199
3年生	44	37.3%	73	61.9%	1	0.8%	118
全体	185	34.0%	351	64.5%	8	1.5%	544

男子 N=120

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	5	15.6%	27	84.4%	0	0.0%	32
2年生	12	18.8%	52	81.3%	0	0.0%	64
3年生	6	25.0%	18	75.0%	0	0.0%	24
全体	23	19.2%	97	80.8%	0	0.0%	120

Q3-2)その時期は、いつですか。

女子 N=544

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	8	3.5%	74	32.6%	106	46.7%	110	48.5%	227
2年生	8	4.0%	48	24.1%	84	42.2%	128	64.3%	199
3年生	4	3.4%	34	28.8%	39	33.1%	75	63.6%	118
全体	20	3.7%	156	28.7%	229	42.1%	313	57.5%	544

男子 N=120

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	3	9.4%	8	25.0%	20	62.5%	15	46.9%	32
2年生	4	6.3%	14	21.9%	33	51.6%	38	59.4%	64
3年生	2	8.3%	7	29.2%	7	29.2%	15	62.5%	24
全体	9	7.5%	29	24.2%	60	50.0%	68	56.7%	120

Q3-3)それは、誰にされましたか。

女子 N=544

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	65	28.6%	8	3.5%	17	7.5%	10	4.4%	31	13.7%	130	57.3%	2	0.9%	227
2年生	42	21.1%	9	4.5%	17	8.5%	8	4.0%	23	11.6%	129	64.8%	4	2.0%	199
3年生	22	18.6%	2	1.7%	9	7.6%	4	3.4%	21	17.8%	76	64.4%	3	2.5%	118
全体	129	23.7%	19	3.5%	43	7.9%	22	4.0%	75	13.8%	335	61.6%	9	1.7%	544

男子 N=120

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	27	0.0%	0	0.0%	5	0.0%	1	0.0%	2	0.0%	3	0.0%	0	0.0%	32
2年生	41	64.1%	1	1.6%	9	14.1%	2	3.1%	5	7.8%	9	14.1%	2	3.1%	64
3年生	15	62.5%	1	4.2%	3	12.5%	0	0.0%	2	8.3%	3	12.5%	0	0.0%	24
全体	83	69.2%	2	1.7%	17	14.2%	3	2.5%	9	7.5%	15	12.5%	2	1.7%	120

Q3-4)その場所は、どこですか。

女子 N=544

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	20	8.8%	34	15.0%	42	18.5%	72	31.7%	92	40.5%	227
2年生	10	5.0%	26	13.1%	28	14.1%	74	37.2%	99	49.7%	199
3年生	9	7.6%	17	14.4%	14	11.9%	36	30.5%	62	52.5%	118
全体	39	7.2%	77	14.2%	84	15.4%	182	33.5%	253	46.5%	544

男子 N=120

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	3	9.4%	5	15.6%	21	65.6%	2	6.3%	11	34.4%	32
2年生	6	9.4%	6	9.4%	35	54.7%	8	12.5%	12	18.8%	64
3年生	1	4.2%	4	16.7%	15	62.5%	1	4.2%	5	20.8%	24
全体	10	8.3%	15	12.5%	71	59.2%	11	9.2%	28	23.3%	120

問4-Q4. 無理やり、セックスをされそうになったことがありますか

女子 N=1463

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	73	10.4%	617	87.9%	12	1.7%	702
2年生	76	14.9%	431	84.7%	2	0.4%	509
3年生	44	17.5%	208	82.5%	0	0.0%	252
全体	193	13.2%	1256	85.9%	14	1.0%	1463

男子 N=883

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	4	1.3%	292	97.0%	5	1.7%	301
2年生	15	3.4%	419	95.2%	6	1.4%	440
3年生	5	3.5%	134	94.4%	3	2.1%	142
全体	24	2.7%	845	95.7%	14	1.6%	883

Q4-1)それは、これまでに何回ありましたか。

女子 N=193

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	42	57.5%	30	41.1%	1	1.4%	73
2年生	48	63.2%	28	36.8%	0	0.0%	76
3年生	24	54.5%	20	45.5%	0	0.0%	44
全体	114	59.1%	78	40.4%	1	0.5%	193

男子 N=24

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	3	75.0%	1	25.0%	0	0.0%	4
2年生	8	53.3%	7	46.7%	0	0.0%	15
3年生	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%	5
全体	14	58.3%	10	41.7%	0	0.0%	24

Q4-2)その時期は、いつですか。

女子 N=193

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	9	12.3%	40	54.8%	34	46.6%	73
2年生	1	1.3%	5	6.6%	28	36.8%	48	63.2%	76
3年生	1	2.3%	2	4.5%	14	31.8%	31	70.5%	44
全体	2	1.0%	16	8.3%	82	42.5%	113	58.5%	193

男子 N=24

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	4
2年生	1	6.7%	3	20.0%	5	33.3%	9	60.0%	15
3年生	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	5	100.0%	5
全体	1	4.2%	5	20.8%	8	33.3%	14	58.3%	24

Q4-3)それは、誰にされましたか。

女子 N=193

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	19	26.0%	3	4.1%	28	38.4%	2	2.7%	19	26.0%	9	12.3%	1	1.4%	73
2年生	21	27.6%	2	2.6%	27	35.5%	2	2.6%	20	26.3%	11	14.5%	3	3.9%	76
3年生	17	38.6%	1	2.3%	13	29.5%	4	9.1%	13	29.5%	8	18.2%	1	2.3%	44
全体	57	29.5%	6	3.1%	68	35.2%	8	4.1%	52	26.9%	28	14.5%	5	2.6%	193

男子 N=24

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	4
2年生	6	40.0%	1	6.7%	4	26.7%	2	13.3%	3	20.0%	3	20.0%	1	6.7%	15
3年生	2	40.0%	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	5
全体	9	37.5%	2	8.3%	8	33.3%	2	8.3%	5	20.8%	4	16.7%	1	4.2%	24

Q4-4)その場所は、どこですか。

女子 N=193

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	10	13.7%	33	45.2%	4	5.5%	4	5.5%	32	43.8%	73
2年生	9	11.8%	45	59.2%	1	1.3%	2	2.6%	29	38.2%	76
3年生	6	13.6%	23	52.3%	1	2.3%	4	9.1%	16	36.4%	44
全体	25	13.0%	101	52.3%	6	3.1%	10	5.2%	77	39.9%	193

男子 N=24

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	50.0%	4
2年生	5	33.3%	5	33.3%	1	6.7%	2	13.3%	6	40.0%	15
3年生	2	40.0%	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	5
全体	7	29.2%	10	41.7%	3	12.5%	2	8.3%	8	33.3%	24

問4-Q5. 無理やり、セックスをされたことがありますか

女子 N=1463

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	30	4.3%	659	93.9%	13	1.9%	702
2年生	27	5.3%	478	93.9%	4	0.8%	509
3年生	21	8.3%	230	91.3%	1	0.4%	252
全体	78	5.3%	1367	93.4%	18	1.2%	1463

男子 N=883

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	295	98.0%	6	2.0%	301
2年生	10	2.3%	422	95.9%	8	1.8%	440
3年生	3	2.1%	136	95.8%	3	2.1%	142
全体	13	1.5%	853	96.6%	17	1.9%	883

Q5-1)それは、これまでに何回ありましたか。

女子 N=78

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	11	36.7%	18	60.0%	1	3.3%	30
2年生	17	63.0%	10	37.0%	0	0.0%	27
3年生	10	47.6%	11	52.4%	0	0.0%	21
全体	38	48.7%	39	50.0%	1	1.3%	78

男子 N=13

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
2年生	5	50.0%	5	50.0%	0	0.0%	10
3年生	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	3
全体	7	53.8%	6	46.2%	0	0.0%	13

Q5-2)その時期は、いつですか。

女子 N=78

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	0	0.0%	16	53.3%	15	50.0%	30
2年生	0	0.0%	0	0.0%	3	11.1%	24	88.9%	27
3年生	1	4.8%	0	0.0%	7	33.3%	15	71.4%	21
全体	1	1.3%	0	0.0%	26	33.3%	54	69.2%	78

男子 N=13

	小学校入学前		小学生のとき		中学生のとき		高校生になってから		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
2年生	1	10.0%	1	10.0%	5	50.0%	6	60.0%	10
3年生	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	2	66.7%	3
全体	1	7.7%	1	7.7%	6	46.2%	8	61.5%	13

Q5-3)それは、誰にされましたか。

女子 N=78

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	8	26.7%	2	6.7%	11	36.7%	1	3.3%	7	23.3%	3	10.0%	0	0.0%	30
2年生	5	18.5%	1	3.7%	10	37.0%	0	0.0%	13	48.1%	2	7.4%	0	0.0%	27
3年生	10	47.6%	1	4.8%	7	33.3%	0	0.0%	7	33.3%	4	19.0%	1	4.8%	21
全体	23	29.5%	4	5.1%	28	35.9%	1	1.3%	27	34.6%	9	11.5%	1	1.3%	78

男子 N=13

	友達		教師		恋人		家族・親戚		知り合い		知らない人		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
2年生	1	10.0%	1	10.0%	6	60.0%	1	10.0%	5	50.0%	2	20.0%	0	0.0%	10
3年生	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3
全体	2	15.4%	1	7.7%	7	53.8%	1	7.7%	6	46.2%	2	15.4%	0	0.0%	13

Q5-4)その場所は、どこですか。

女子 N=78

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	4	13.3%	15	50.0%	4	13.3%	2	6.7%	9	30.0%	30
2年生	1	3.7%	17	63.0%	1	3.7%	0	0.0%	13	48.1%	27
3年生	4	19.0%	13	61.9%	1	4.8%	2	9.5%	8	38.1%	21
全体	9	11.5%	45	57.7%	6	7.7%	4	5.1%	30	38.5%	78

男子 N=13

	自宅		相手の家		学校内		乗り物の中		その他		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
2年生	4	40.0%	3	30.0%	2	20.0%	1	10.0%	3	30.0%	10
3年生	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
全体	5	38.5%	5	38.5%	2	15.4%	1	7.7%	3	23.1%	13

問4-Q6. 携帯電話や、出会い系サイト、インターネットで性的にいやな体験をしたことがありますか。

女子 N=1463

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	71	10.1%	622	88.6%	9	1.3%	702
2年生	44	8.6%	463	91.0%	2	0.4%	509
3年生	33	13.1%	217	86.1%	2	0.8%	252
全体	148	10.1%	1302	89.0%	13	0.9%	1463

男子 N=883

	ある		ない		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	3	1.0%	294	97.7%	4	1.3%	301
2年生	14	3.2%	419	95.2%	7	1.6%	440
3年生	4	2.8%	136	95.8%	2	1.4%	142
全体	21	2.4%	849	96.1%	13	1.5%	883

Q6-1)それは、これまでに何回ありましたか。

女子 N=148

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	24	33.8%	47	66.2%	0	0.0%	71
2年生	14	31.8%	28	63.6%	2	4.5%	44
3年生	7	21.2%	24	72.7%	2	6.1%	33
全体	45	30.4%	99	66.9%	4	2.7%	148

男子 N=21

	1回		2回以上		無回答		合計
	度数	%	度数	%	度数	%	度数
1年生	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	3
2年生	3	21.4%	11	78.6%	0	0.0%	14
3年生	1	25.0%	3	75.0%	0	0.0%	4
全体	4	19.0%	17	81.0%	0	0.0%	21

全員にお聞きします。

問5. ここまで、いろいろな被害についてお聞きしてきましたが、
なかでも「もっとも傷ついた」性的被害についておたずねします。

問5-1)その被害は、次のうち、どれですか。

- ※ ア. あなたの体について、からかわれたり、いやらしいことを言われたりした。
イ. 相手のはだかや性器を、わざと見せられた。
ウ. 無理やり、体を触られたり、抱きつかれた。
エ. 無理やり、セックスされそうになった。
オ. 無理やり、セックスをされた。
カ. その他
キ. その他
ク. 性的被害にあったことはない。

		ア. 言語※	イ. 視覚	ウ. 身体 接触	エ. レイプ 未遂	オ. レイプ 既遂	カ. その他	キ. 被害経 験なし	無回答	総計
女子	度数	165	187	245	66	48	21	557	174	1463
	%	11.3%	12.8%	16.7%	4.5%	3.3%	1.4%	38.1%	11.9%	100.0%
男子	度数	79	6	13	6	6	9	600	164	883
	%	8.9%	0.7%	1.5%	0.7%	0.7%	1.0%	68.0%	18.6%	100.0%

問5-2)その時期は、いつですか。あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

ア. 言語 度数

	小学前	小学生	中学生	高校生	総計
女子	4	65	96	59	224
男子	7	38	35	29	109

イ. 視覚 度数

	小学前	小学生	中学生	高校生	総計
女子	6	60	104	81	251
男子	0	1	2	4	7

ウ. 身体接触 度数

	小学前	小学生	中学生	高校生	総計
女子	9	70	74	133	286
男子	1	4	4	6	15

エ. レイプ未遂 度数

	小学前	小学生	中学生	高校生	総計
女子	1	7	30	32	70
男子	0	2	1	2	5

オ. レイプ既遂 度数

	小学前	小学生	中学生	高校生	総計
女子	0	0	16	32	48
男子	0	0	3	2	5

カ. その他 度数

	小学前	小学生	中学生	高校生	総計
女子	0	1	5	13	19
男子	1	1	2	4	8

問5-3)それは、誰にされましたか。
 あてはまるもの、すべてに○をつけてください。

ア. 言語的性暴力被害								度数
	友達	教師	恋人	家族	知り合い	知らない人	その他	総計
女子	3	1	5	0	3	2	0	14
男子	2	1	2	1	3	1	0	10

イ. 視覚的性暴力被害								度数
	友達	教師	恋人	家族	知り合い	知らない人	その他	総計
女子	2	0	4	0	1	1	0	8
男子	0	0	1	0	0	0	0	1

ウ. 強制的身体接触								度数
	友達	教師	恋人	家族	知り合い	知らない人	その他	総計
女子	2	1	1	1	3	2	0	10
男子	0	0	0	0	0	0	0	0

エ. レイプ未遂								度数
	友達	教師	恋人	家族	知り合い	知らない人	その他	総計
女子	2	0	3	0	1	1	0	7
男子	0	0	0	0	0	0	0	0

オ. レイプ既遂								度数
	友達	教師	恋人	家族	知り合い	知らない人	その他	総計
女子	14	2	12	0	19	4	1	52
男子	0	0	2	0	3	1	0	6

カ. その他								度数
	友達	教師	恋人	家族	知り合い	知らない人	その他	総計
女子	0	0	1	0	0	0	0	1
男子	0	0	0	0	0	0	0	0

問5-4)その場所は、どこですか。

ア. 言語的性暴力被害					度数
	自宅	相手の家	学校内	乗り物の中	その他
女子	14	8	107	13	47
男子	5	7	66	3	10

イ. 視覚的性暴力被害					度数
	自宅	相手の家	学校内	乗り物の中	その他
女子	7	10	9	22	133
男子	0	2	3	0	2

ウ. 強制的身体接触					度数
	自宅	相手の家	学校内	乗り物の中	その他
女子	10	18	26	90	111
男子	0	1	4	2	6

エ. レイプ未遂					度数
	自宅	相手の家	学校内	乗り物の中	その他
女子	6	29	2	4	22
男子	0	2	0	1	1

オ. レイプ既遂					度数
	自宅	相手の家	学校内	乗り物の中	その他
女子	7	20	3	3	16
男子	1	1	0	0	3

カ. その他					度数
	自宅	相手の家	学校内	乗り物の中	その他
女子	2	1	1	2	10
男子	2	1	3	1	2

問5-5) ひきつづき、「もっとも傷ついた」性的被害について、お聞きします。
「もっとも傷ついた」性被害について、この1週間では、それぞれのどのくらい悩まされましたか？
それぞれ1つ、○をつけてください。

		N=851					無回答	
		(0) 全く なし	(1) 少し ある	(2) 中 くらい	(3) かなり ある	(4) 非常に ある		
1	どんなきっかけでも、そのことを思い出すと、その時の気持ちがぶりかえしてくる。	37.5	32.1	11.0	7.2	8.0	4.7	(%)
2	睡眠の途中で目がさめる。	75.4	10.6	4.9	2.5	1.9	4.7	
3	他のことをしていても、思わずそのことを考えていることがある。	63.6	17.6	6.3	4.2	3.6	4.6	
4	イライラして怒りっぽくなっている。	55.0	16.7	9.5	7.8	6.5	4.6	
5	そのことについて考えて思い出すときは、なんとか気を落ち着かせるようにしている。	54.5	21.3	7.9	5.1	6.3	4.9	
6	考えるつもりはないのに、そのことを考えてしまうことがある。	57.1	18.3	8.7	4.3	5.8	5.8	
7	そのことは、実際には起きなかったとか、現実のことではなかったような気がする。	67.7	12.2	6.6	4.3	2.9	6.2	
8	そのことを思い出させるものには近寄らない。	57.2	15.7	9.3	4.5	8.2	5.1	
9	その時の場面が、いきなり頭に浮かんでくる。	55.6	20.0	7.4	4.7	6.9	5.4	
10	神経が敏感になっていて、ちょっとしたことでできっとしてしまう。	50.0	17.9	8.2	9.0	8.3	5.5	
11	そのことは、考えないようにしている。	36.2	17.3	11.3	7.3	22.6	5.4	
12	そのことについては、まだいろいろな気持ちがあるが、それには触れないようにしている。	46.1	18.0	10.0	8.1	12.1	5.8	
13	そのことについての感情は、マヒしたようである。	67.2	10.3	8.9	3.2	4.2	6.1	
14	気がつくと、まるでそのときにもどってしまったかのように、ふるまったり感じたりすることがある。	76.4	8.3	3.6	2.0	3.4	6.2	
15	寝つきが悪い。	68.0	9.8	6.2	3.1	7.4	5.5	
16	そのことについて、感情が強くこみあげてくることがある。	61.7	13.9	8.6	4.1	5.8	6.0	
17	そのことは、もう忘れてしまうようにしている。	38.0	16.2	10.0	8.1	21.7	6.0	
18	ものごとに集中できない。	58.2	15.3	10.5	4.2	5.8	6.1	
19	そのことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、どきどきすることがある。	68.0	9.9	5.5	3.5	7.4	5.6	
20	そのことについての夢を見る。	79.2	6.5	4.6	1.8	2.4	5.6	
21	警戒して用心深くなっている気がする。	42.2	17.0	11.0	10.7	13.3	5.8	
22	そのことについては、話さないようにしている。	41.6	14.6	9.9	6.1	22.0	5.9	

アジア女性基金について

財団法人女性のためのアジア平和国民基金は、元「慰安婦」の方々への国民的な償いを行うこと、女性の名誉と尊厳に関わる今日的な問題の解決に取り組むことを目的として、1995年7月に発足いたしました。以来、政府と国民の協力によって具体的な事業を実施してまいりました。

元「慰安婦」の方々に対する事業は、1) 元「慰安婦」の方々の苦痛を受けとめ心からの償いを示す事業として、国民の皆様のご協力を得た募金による「償い金」のお届け、2) 国としての率直なお詫びと反省を表す日本国内閣総理大臣の「お詫びの手紙」、3) 政府拠出金による医療・福祉支援事業から成り立っていました。この償い事業は、フィリピン、韓国、台湾において、285名の元「慰安婦」の方々に実施し、2002年9月末に終了いたしました。さらに医療・福祉支援を中心としたオランダでの事業は79名にお届けし、2001年7月に終了しました。インドネシアでの事業は2007年3まで継続いたします。

他方、武力紛争下における女性に対する暴力や人権問題、国際的人身売買およびドメスティック・バイオレンス（夫や恋人からの暴力）など、女性や子どもに対する暴力や人権侵害によって苦しむ方々は現在も後を絶ちません。

アジア女性基金では、過去の反省をふまえ、女性に対する暴力のない国際社会を築くため、国内外に女性の名誉と尊厳を守ることの重要性について啓発活動等、以下の活動にも積極的に取り組んでいます。

- ◇女性に対する暴力のない社会をめざすための啓発活動
- ◇女性が直面している問題についての国際会議の開催
- ◇女性の人権問題に取り組んでいる団体などへの活動支援
- ◇女性に対する人権侵害などについての原因と防止に関する調査・研究
- ◇暴力被害を受けた女性に対する援助者を育成するための研修

財団法人女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-7-6

電話 03-3514-4071 ファックス 03-3514-4072

Home Page: <http://www.awf.or.jp> E-mail: dignity@awf.or.jp